

白井遺跡群 —集落編 II— (白井南中道遺跡)

一般国道17号（鯉沢バイパス）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

観察表編

1996

建 設 省
群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

白井遺跡群 —集落編 II— (白井南中道遺跡)

一般国道17号（鯉沢バイパス）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

観察表編

1996

建設省
群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

1号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 10図 1 P L.90	土師器 杯	埋没土 小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部上位は無調整部分が残る。 口縁部下半はヘラ削り。	
第 10図 2 P L.90	須恵器 杯	床面密着 1/2	①13.6 ② 9.0 ③ 3.8	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
第 10図 3 P L.90	須恵器 不明	埋没土 小片	① ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向不明。裏面に高台？の貼付 痕が見られ、高台には透かし孔が見られる。	

2号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 13図 1 P L.90	土師器 杯	8.0cm 3/5	①11.6 ② ③ 3.9	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部上半は横ナデ、下半は一部は無調整が残る が、口縁部下半から底部にかけては不定方向ヘラ 削り。	
第 13図 2 P L.90	土師器 杯	8.0cm ほぼ完形	①12.3 ② ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部上半は横ナデ、下半の上位は無調整が残る。 口縁部下半の下位から底部にかけては不定方向ヘ ラ削り。	
第 13図 3 P L.90	土師器 杯	8.0~15.0 ほぼ完形	①13.0 ② ③ 4.1	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部上半は横ナデ、下半の上位は無調整が残る。 口縁部下半の下位から底部にかけては不定方向ヘ ラ削り。	
第 13図 4 P L.90	土師器 杯	8.0cm 1/2	①14.0 ② ③ 4.2	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部上半は横ナデ、下半の上位は無調整が残る。 口縁部下半の下位から底部にかけては不定方向ヘ ラ削り。	

61号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 16図 1 P L.90	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 5.0 ③	①細砂粒 ②還元焰燻焼成 ③灰黄色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
第 16図 2	黒色土器 杯	9.0cm 底部片	① ② 6.0 ③	①細砂粒(雲母含む) ②還元焰 ③にぶい黄橙色	内面黒色処理、一部二次焼成を受けている。ロク ロ整形、回転右回り。底部切り放しは回転糸切り。 底部内面はヘラ研磨。	
第 16図 3	須恵器 椀	11.4cm 口縁部片	①15.8 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向不明。	
第 16図 4 P L.90	土師器 台付甕	埋没土 胴部片	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄橙色	外面胴部は下位が縦方向ヘラ削り、脚部との接合 部分は横ナデ。内面はヘラナデ。	
第 16図 5 P L.90	土師器 甕	掘り方埋土 口縁部~頸 部片	①13.5 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部は横ナデ、 中程は無調整部分が残る。胴部上位は横方向ヘラ 削り、内面はヘラナデ。	
第 16図 6 P L.90	土師器 甕	掘り方埋土 口縁部~胴 部上位片	①17.5 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部は横ナデ、 胴部上位は横方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 16図 7 P L.90	土師器 甕	9.3~18.4 口縁部~胴 部中位片	①18.9 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部は横ナデ、 中程は無調整部分が残る。胴部上位は横方向、中 位は上位に向けてのヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 16図 8 P L.90	土師器 甕	床面密着 口縁部~胴 部中位片	①21.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁甕。輪痕が残る。口縁部から 頸部は横ナデ。胴部上位は横方向、中位は縦方向 ヘラ削り、内面はヘラナデ。	

挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 16図9 P L .90	石製品 竈構築材	床～掘り方	①34.7 ③11.3	②22.4 ④5400	未固結凝灰岩	両端欠損。全体に面が荒れている。表、側面に削りが僅かに残る。表、割れ口に黒煤が付着する。	

3号住居

挿図番号 図版番号	種類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 18図 1 P L .90	土師器 杯	22.9cm 1/3	①11.0 ② ③(3.3)	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部上半は無調整部分が残る。口縁部下半から底部にかけては不定方向へのヘラ削り。	
第 18図 2 P L .90	土師器 杯	埋没土 1/6	①11.8 ② ③(3.0)	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部上半は横ナデ、下半は無調整部分が残る、一部に指頭痕が見られる。底部はヘラ削り。	
第 18図 3 P L .90	黒色土器 碗	埋没土 口縁部小片	①12.4 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③明褐色	内面黒色処理。ロクロ整形、回転方向不明。内面は口唇部以外をヘラ研磨。	
第 18図 4 P L .91	土師器 甕	電 口縁部～胴 部中位	①19.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、口唇部に凹線が1条巡る。胴部は頸部下だけ横方向ヘラ削りでその下は中位よりの斜め方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 18図 5 P L .91	須恵器 壺	14.5cm 口縁部片	①12.8 ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形。口唇部の内外面に凹線が各1条巡る。	口縁部に「+」の刻書
第 18図 6 P L .91	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①12.2 稜径11.0 ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部と下に明瞭な稜をもつ。口縁部は横ナデ、稜下から底部にかけてはヘラ削り。	
第 18図 7 P L .91	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①21.0 稜径19.0 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部と下に明瞭な稜をもつ。口縁部は横ナデ、稜下から底部にかけてはヘラ削り。	

4号住居

挿図番号 図版番号	種類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 22図 1 P L .91	須恵器 杯	埋没土 底部～体部 片	① ② 6.0 ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転右回りか？底部は回転糸切り。	
第 22図 2 P L .91	須恵器 杯	10.8cm 1/3	①13.0 ② 5.2 ③ 4.0	①微砂粒 ②還元焰 ③オリーブ黒色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	内面浅黄色
第 22図 3	須恵器 杯	-8.5cm 底部小片	① ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ切り無調整。	
第 22図 4 P L .91	須恵器 碗	掘り方埋土 口縁部片	①15.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰ぞみ ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向不明。	
第 22図 5	須恵器 碗	埋没土 口縁部片	①16.0 ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転方向不明。	
第 22図 6	須恵器 碗	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向不明。	
第 23図 7 P L .91	黒色土器 碗	床面密着 完形	①12.0 ②6.0④6.2 ③4.7	①微砂粒 ②還元焰 ③暗灰色	内外面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。外面は口縁部、内面は全面にヘラ研磨。	
第 23図 8 P L .91	須恵器 碗	-2.5cm 1/4	①15.0 ② 6.0 ③	①微砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付であるがすべて剥落。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 23図 9 P L .91	須恵器 椀	埋土・掘方 3/5	①13.0 ② 5.6 ③ 4.8	①細砂粒 ②還元焰 ③浅黄橙色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は雑な成形で貼付。	
第 23図 10 P L .91	須恵器 椀	埋没土 底部小片	① ②7.0④7.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか？底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 23図 11 P L .91	須恵器 皿	19.2cm 1/4	①13.0 ②6.6④6.8 ③2.1	①粗砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転は右回りか？底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 23図 12	須恵器 蓋	12.2cm 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は周辺部を除き回転ヘラ削り。	
第 23図 13 P L .91	黒色土器 耳皿	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③黒色	内外面黒色処理。ロクロ整形、回転方向不明。口縁部は内外面ともヘラ研磨。	
第 23図 14 P L .91	灰釉陶器 椀	埋没土 底部小片	① ②5.0④5.0 ③	①微砂粒 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向不明。底部切り放し技法はナデのため不明、高台は貼付。内面見込み部に重ね焼き痕が残る。施釉方法は不鮮明。	
第 23図 15 P L .91	須恵器 長頸壺	-25.3～ -5.5 胴部片	① 胴径18.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③黄橙色	ロクロ整形、回転は右回りか。胴部と頸部の接合は3段構成か？	
第 23図 16 P L .91	須恵器 長頸壺	-15.1cm 肩部片	① ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形。肩部に2段の刺突文。	
第 23図 17 P L .91	土師器 甕	床面密着 口縁部～胴 部上位片	①18.4 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部にかけては横ナデ。胴部上位は横方向ヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 23図 18 P L .91	土師器 台付甕	-10.4cm 口縁部～胴 部上位片	①12.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	「コ」の字状口縁甕。口縁部に輪積痕。口縁部から頸部にかけては横ナデ。胴部上位は横方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 23図 19 P L .91	土師器 甕	-5.0cm 口縁部～胴 部上位片	①17.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部に輪積痕。口縁部から頸部にかけては横ナデ。胴部上位は横方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 23図 20 P L .91	土師器 甕	-2.5～0 口縁部～胴 部上位片	①17.8 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部に輪積痕。口縁部から頸部にかけては横ナデ。胴部上位は横方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 23図 21 P L .92	土師器 甕	-11.0～12 口縁部～胴 部下位片	①20.0 胴部径22.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上半が横方向のヘラ削り、下半は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 24図 22 P L .92	土師器 甕	床面密着 口縁部～胴 部上位片	①18.4 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部にかけては横ナデ。胴部上位は横方向ヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 24図 23	土師器 甕	埋没土 胴部下位片	① ② 4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐灰白色	胴部は底部へ向けての縦方向ヘラ削り、内面は縦方向のハケ目。底部はヘラ削り。	
第 24図 24	土師器 甕	埋没土 底部片	① ② 4.4 ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	胴部は横方向ヘラ削り、底部もヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 24図 25 P L .92	須恵器 甕	-10.4～ 13.2 口縁部片	① ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③淡橙色	ロクロ整形。口唇部の下位凸帯は貼付。	
第 24図 26 P L .92	土師器 杯	掘り方埋土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部上位は横ナデ、中位に無調整部分が残る。下半はヘラ削り。	
第 24図 27 P L .92	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①13.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部上半は横ナデ、下半はヘラ削りであるが、上位に無調整部分が部分的に残る。	

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考	
第 24図 28 P L .92	土師器 杯	床面密着 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部上位は横ナデ、中位は無調整部分が残る。 下半はヘラ削り。		
第 24図 29 P L .92	土師器 杯	床面密着 1/4	①12.4 ② ③ 3.8	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部上位は横ナデ、中位は無調整、下位から底部にかけては不定方向のヘラ削り。		
挿図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 24図30 P L .92	石製品 砥石	埋没土	①4.4 ③1.7	②3.4 ④150	変質デイサイト	一端を欠損。表、裏、両側面、小口を研ぎ面として使用している。小口は対角線を頂点として表裏に傾斜し、4面は下端へこむ。	
第 24図31 P L .92	石製品 砥石	埋没土	①6.1 ③2.4	②5.7 ④200	変質デイサイト	一端を欠損。表、裏、両側面の4面を研ぎ面に使用。各面は下端に向かって傾斜する。奥の小口は原石面のまま。	
第 24図32 P L .92	石製品 竈構築材	8.5cm	①9.9 ③7.2	②8.2 ④500	未固結凝灰岩 (安山岩質)	表～側面の一部残存。面の荒れがみられるが僅かに削りの痕跡が認められる。	
第 25図39 P L .92	石製品 竈構築材	床面密着	①25.2 ③8.5	②17.5 ④2300	角閃石安山岩	表面縁辺部に削りが多く入る。右側面全面、裏面の一部にも認められる。黒煤付着あり。	
第 26図40 P L .92	石製品 竈構築材	8.2cm	①44.2 ③13.8	②21.4 ④13400	未固結凝灰岩	片端欠損。表裏左右側面、小口に削りがみられる。工具幅最大で4.5cmを測る。	
挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 25図33 P L .92	鉄器 紡錘車	-17.0cm	①径6.2 ③0.3・0.75	② ④38.54	はずみ車の部分で、軸棒欠損の他は完形。軸棒が入る穴は円の中心より若干ずれてあけられる。穴は片面に膨らみを持つ。		
第 25図34 P L .92	鉄器 角釘	埋没土	①残7.3 ③6.5	②6.5 ④9.25	先端欠損。やや蛇行している。錆ぶくれと剝離が若干みられる他は面の状態は良い。		
第 25図35 P L .92	鉄器 刀子	2.5cm	①残7.3 ③0.3	②2.3 ④16.18	刃部先端のみ。錆ぶくれあり。長軸方向に亀裂。切先は欠損と思われる。面の状態は錆ぶくれ以外の所は比較的良好。裏面が平坦に研がれており、右きき用の道具で使い込まれていると分かる。		
第 25図36 P L .92	銅製品 銭	-5.5～ -0.2cm	①径2.3 ③0.1	② ④2.42	完形。寛永通寶。裏面に文様はみられない。		
第 25図37 P L .92	銅製品 銭	-5.5～ -0.2cm	①径2.3 ③0.1	② ④1.40	1/3欠損。寛永通寶。残存部裏面に文様はみられない。文字にシャープさが残る。		
第 25図38 P L .92	銅製品 銭	-5.5～ -0.2cm	①径2.5 ③0.1	② ④1.44	1/2欠損。□元□寶。残存部裏面に文様はみられない。宋銭か？		

5号住居

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 30図 1	須恵器 椀	埋没土 口縁部小片	①12.0 ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向不明。	
第 30図 2	須恵器 椀	掘り方埋土 口縁部小片	①14.0 ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	ロクロ整形、回転方向不明。	
第 30図 3 P L .93	須恵器 椀	掘り方埋土 底部～体部 小片	① ② 5.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転方向不明。底部は回転糸切り。	体部外面逆位に「円」の墨書
第 30図 4 P L .93	須恵器 椀	2.0cm 完形	①13.8 ②7.6④9.0 ③ 6.4	①細砂粒 ②酸化焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	体部外面正位に「得上」の墨書
第 30図 5 P L .93	須恵器 椀	-4.0cm 1/2	①11.3 ②5.6④5.8 ③4.7	①細砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考	
第 31図 6 P L .93	須恵器 椀	3.0~19.0 2/5	①13.5 ②7.0④8.2 ③6.0	①細砂粒 ②酸化焙 ③にぶい褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部切り放し技法はナデのため不明。高台は貼付。		
第 31図 7	須恵器 椀	62.0cm 高台片?	① ②7.2④8.0 ③	①微砂粒 ②酸化焙きみ ③淡黄色	ロクロ整形、回転方向不明。		
第 31図 8 P L .93	灰釉陶器 椀	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①微砂粒 ②還元焙堅緻 ③灰黄色	ロクロ整形、回転方向不明。施釉方法は漬け掛け。釉調は不透明な白色。		
第 31図 9 P L .93	灰釉陶器 椀	掘り方埋土 口縁部~体 部片	①15.0 ② ③	①微砂粒 ②還元焙堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向不明。施釉方法は漬け掛けか。釉調は不透明な白色。		
第 31図 10 P L .93	須恵器 羽釜	床面密着 口縁部~胴 部上位片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。		
第 31図 11 P L .93	須恵器 羽釜	10.0cm 口縁部~胴 部上位片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③橙色	ロクロ整形、回転方向不明。輪積痕が残る。鏝は貼付。		
第 31図 12 P L .93	須恵器 羽釜	-18~-9.0 口縁部~胴 部上位片	①17.4 ② ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③灰褐色	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。		
第 31図 13 P L .93	須恵器 羽釜	床面密着 口縁部~胴 部上位片	①18.4 ② ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③にぶい褐色	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。		
第 31図 14 P L .93	須恵器 羽釜	-0.5~11.8 底部~胴部 下位片	① ② 5.0 ③	①粗砂粒 ②酸化焙 ③にぶい赤褐色	ロクロ整形、回転右回りか?胴部は縦方向ヘラ削り。底部は一定方向へのヘラ削り。		
第 31図 15 P L .93	須恵器 羽釜	-10.0cm 口縁部~胴 部下位片	①21.5 ② ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③橙色	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。胴部下位は縦方向ヘラ削り。		
第 31図 16 P L .93	須恵器 羽釜?	11.8cm 底部~胴部 下位片	① ② 6.2 ③	①粗砂粒 ②酸化焙きみ ③灰黄褐色	成・整形については不鮮明。胴部外面の一部にヘラ削り、内面はヘラナデ。		
第 31図 17 P L .93	須恵器 羽釜	床面密着 口縁部~胴 部上位片	① ② ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。		
挿図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 32図18 P L .93	石製品 敲石	-2.4cm	①12.6 ③3.6	②5.6 ④400	ひん岩	完形。両端及び向かって右側面下端に敲打痕が認められる。	
第 32図19 P L .93	石製品 敲石	5.0cm	①15.4 ③4.2	②5.5 ④400	粗粒安山岩	両端に敲打痕が認められる。特に下端に著しく使用時の剝離痕がみられる。	
第 32図20 P L .94	石製品 竈構築材	床面密着	①44.8 ③14.4	②21.6 ④11200	未固結凝灰岩 もしくは土塊	片端欠損。表裏両側面に削りが認められる。小口も面取りしている。一部に黒煤がみられる。	

40号住居

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴	備 考
第 28図1 P L .93	鉄器 鉄鏃?	埋没土	①残4.6 ③刃0.3頸部残0.3	②刃1.0頸部0.5 ④3.03	上端と頸部、茎欠損。刃部は良く残る。一側面棟状を呈す。	

6号住居

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 36図 1 P L .94	須恵器 杯	27.5cm 1/4	①10.0 ② 6.0 ③ 4.5	①微砂粒 ②酸化焙 ③明黄褐色	ロクロ整形、回転方向不明。底部は回転糸切り、口縁部下位は一段の回転ヘラ削り。	内面にぶい黄橙色

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 36図 2 P L .94	須恵器 椀	-3.0cm 完形	①10.5 ② 5.5 ③ 4.1	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
第 36図 3 P L .94	須恵器 椀	甕 口縁部片	①15.0 ② ③	①微砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転方向不明。	口縁部外面 横位に「㊦」 の墨書
第 36図 4 P L .94	須恵器 羽釜	12.0cm 口縁部～胴 部上位片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	ロクロ整形、輪積痕が残る。罅は貼付。胴部上位に縦方向ヘラ削りが見られる。	
第 36図 5 P L .94	須恵器 羽釜	10.5～11.0 口縁部～胴 部上位片	①17.8 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形。罅は貼付。胴部上位に縦方向ヘラ削り、内面上位にナデ。	
第 36図 6 P L .94	須恵器 羽釜	11.0～14.0 口縁部～胴 部中位片	①24.7 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形。罅は貼付。胴部中位に下位からの縦方向ヘラ削り。	

7号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 39図 1 P L .94	土師器 杯	埋没土 口縁部～底 部片	①12.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 39図 2 P L .94	土師器 杯	埋没土 1/4	①12.2 ②10.4 ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 39図 3 P L .94	土師器 杯	掘り方 1/3	①13.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り、口縁部と底部の間に無調整が残る。	
第 39図 4 P L .94	土師器 杯	8.4cm 1/4	①13.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 39図 5 P L .94	土師器 杯	埋没土 1/5	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り、口縁部と底部の間に無調整が残る。	
第 39図 6	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位以下が横方向ヘラ削りで横ナデとヘラ削りの間に僅かに無調整部分が残る。	
第 39図 7 P L .94	土師器 杯	埋没土 1/3	①13.0 ② 7.4 ③ 3.9	①粗砂粒 ②軟質 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向ヘラ削りでその間に僅かに無調整、底部はヘラ削り。内面は口縁部が雑な放射状暗文、底部は雑なヘラ研磨。	6～8号土 坑の破片と 接合
第 39図 8 P L .95	土師器 杯	6～8号土 坑 口縁部片	① ② ③	①粗砂粒 ②やや軟質 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向ヘラ削り。内面は口縁部に放射状暗文後見込み部に1～2条の横方向ヘラ研磨。	7住遺物と 判断
第 39図 9 P L .95	土師器 杯	29.4cm 1/5	①18.0 ②11.0 ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向ヘラ削り、底部もヘラ削りか。内面は口縁部に斜格子状暗文。	
第 39図 10 P L .95	土師器 杯	2.5cm 2/3	①14.5 ②9.6 ③3.8	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半は横ナデ、下半は2段の横方向ヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に雑な放射状、底部に螺旋状暗文。	
第 39図 11 P L .95	須恵器 杯蓋	11.9cm 完形	①12.4 摘径3.9 ③ 3.1	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。摘は偏平で貼付。天井部は回転ヘラ削り。内面にカエリをもつ。	
第 39図 12 P L .95	須恵器 杯蓋	2.0cm 完形	①14.0 摘径4.0 ③ 3.1	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。摘は偏平で貼付。天井部中央付近は回転ヘラ削り。口縁部端部は折り曲げ。	
第 39図 13 P L .95	土師器 椀	埋没土 1/8	① 9.6 ② ③ 5.4	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい黄橙色	内面は黒色処理。口縁部は横ナデ、体部から底部はヘラ削り。内面はほぼ全面にヘラ研磨。内面は黒色。	古墳時代後 期、7と接 合関係同様

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 39図 14 P L .95	須恵器 椀	埋没土 底部小片	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。高台は貼付。	
第 39図 15 P L .95	須恵器 杯	4.0cm 1/2	①13.6 ② 9.1 ③ 3.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。 外面に自然釉が付着。	内面褐色
第 39図 16 P L .95	須恵器 杯	13.2cm 口縁部の一 部を欠	①14.1 ②10.0 ③ 3.5	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ切り 後周辺部を回転ヘラ削り。	
第 39図 17 P L .95	須恵器 椀	埋没土 底部～体部 小片	① ②8.0④8.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転糸切り、 高台は貼付。	
第 39図 18 P L .95	須恵器 椀	9.2cm 高台を欠	①18.5 ②10.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転は右回り。体部下位に1～2段 の回転ヘラ削り。底部は回転ヘラ切り後周辺部を 回転ヘラ削り。	
第 39図 19	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①15.8 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は横ナデ。胴部上位は横方向ヘラ削り、内 面はヘラナデ。	
第 40図 20 P L .95	土師器 甕	1.7cm 口縁部～胴 部上位片	①12.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は横ナデ。胴部上位は横方向ヘラ削り、内 面はヘラナデ。	
第 40図 21 P L .95	土師器 甕	床面密着 口縁部～胴 部上位片	①22.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は横ナデ。胴部上位は横方向ヘラ削り、内 面はヘラナデ。	
第 40図 22 P L .96	土師器 甕	-1.0～11.0 1/4	①20.0 ②5.2 ③28.5	①細砂粒 ②良好 ③橙色	内面に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ。 胴部は頸部下に横方向ヘラ削り、その下は縦方向 ヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 40図 23 P L .95	土師器 甕	3.8～24.0 口縁部～胴 部中位片	①26.0 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③橙色	輪積痕が残る。口縁部は横ナデ。胴部は縦方向ヘ ラ削り、内面はヘラナデ。	
第 40図 24 P L .95	土師器 甕	4.0cm 胴部下位～ 底部片	① ② 6.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部・底部ともヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 40図 25 P L .95	土師器 甕	埋没土 胴部小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	胴部に径2mmほどの穿孔がある。外面はヘラ削り、 内面はヘラナデ。	
第 40図 26	須恵器 長頸壺	埋没土 高台片	① ②12.0 ④13.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形。高台は貼付、高台の接合面に線状の 凹凸を施している。	
第 40図 27 P L .96	須恵器 瓶	埋没土	① ②20.0 ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、底部周辺部は磨かれている。	
第 40図 28 P L .96	土製品 土錘	埋没土 完形	長 5.1 径1.3×1.1 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	外面ナデ。形は一定しておらず中位が膨らみ上端 がやや細くなる。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 40図29 P L .96	鉄器 带状品	埋没土	①5.5 ③0.2	②1.5 ④5.40	両端欠損。両面の錆・剝離が著しい。裏面 は一部が残るのみ。	30と同一個 体か
第 40図30 P L .96	鉄器 L字带状品	埋没土	①6.0 ③0.3	②1.4 ④5.29	上端欠損。下端も欠損か？両面が荒れてお り、特に曲折部より上は裏面の剝離が著し い。29と同一個体と思われるが接合しない。 少しこちらが幅が狭い。	29と同一個 体か
第 40図31 P L .96	鉄器 鎌	埋没土	①残7.4 ③4.0	②3.0 ④20.18	先端が大きく欠け折り返し部の根元が一部 欠損。錆ぶくれや剝離が有るが、全体的に しっかりしている。	

挿図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 41図32 P L.96	石製品 こもあみ石	床面密着	①23.0 ③5.8	②10.85 ④2200	粗粒安山岩	両端に敲打痕が認められる。両面に擦痕があり平坦面に著しい。	
第 41図33 P L.96	石製品 こもあみ石	3.8cm	①12.65 ③3.85	②5.6 ④400	粗粒安山岩	長軸に半分に分れている。上端に敲打痕また使用の剝離痕がある。	
第 41図34 P L.96	石製品 こもあみ石	4.7cm	①13.2 ③4.15	②4.8 ④400	粗粒安山岩	片面は偏平となる。両端に弱い敲打痕がある。	
第 41図35 P L.96	石製品 こもあみ石	4.4cm	①12.0 ③3.2	②4.9 ④300	石英閃緑岩	両端に敲打痕が認められ、特に上端に著しい。	
第 41図36 P L.96	石製品 こもあみ石	2.5cm	①13.9 ③4.5	②5.8 ④600	粗粒安山岩	両端に敲打痕が認められる。	
第 41図37 P L.96	石製品 こもあみ石	4.5cm	①10.2 ③3.6	②5.15 ④300	粗粒安山岩	片端欠損。上端に敲打痕が認められる。	
第 41図38 P L.96	石製品 敲石	3.6cm	①14.0 ③3.5	②7.5 ④550	ひん岩	両端に弱い敲打痕が認められる。	
第 41図39 P L.96	石製品 敲石	床面密着	①13.7 ③4.2	②5.4 ④450	黒色頁岩	上端は割れ口と剝離痕がある。下端には敲打による使用痕が認められる。付着物がある。	
第 41図40 P L.96	石製品 敲石	床面密着	①9.9 ③4.0	②5.3 ④300	粗粒安山岩	両端に敲打痕が認められる。一面が平坦をなす。	
第 41図41 P L.96	石製品 敲石	床面密着	①11.0 ③6.9	②8.1 ④900	粗粒安山岩	上端に敲打痕が認められる。	
第 41図42 P L.96	石製品 敲石	床面密着	①13.0 ③ 3.5	② 7.1 ④500	粗粒安山岩	両端に弱い敲打痕がある。上端は端部のみだが下端は広く痕跡が認められる。	
第 42図43 P L.96	石製品 敲石	4.5cm	①15.9 ③ 5.4	②14.3 ④2000	石英閃緑岩	両端に敲打痕があり、下端は剝離している。裏面に使用の痕跡が認められる。	
第 42図44 P L.96	石製品 こもあみ石	6.4cm	①12.8 ③ 3.8	② 5.9 ④450	粗粒安山岩	両端に敲打痕が認められ、表裏に使用の痕跡が認められる。	
第 42図45 P L.96	石製品 敲石	床面密着	①14.8 ③ 5.0	②12.6 ④1250	変質安山岩	右側表裏に剝離がある。上端に敲打痕があり剝離が認められる。	

8号住居

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 46図 1 P L.97	土師器 杯	埋没土 1/4	①10.2 稜径9.6 ③	①微砂粒 ②軟質 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 46図 2 P L.97	土師器 杯	埋没土 1/6	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 46図 3 P L.97	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 7.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り。	
第 46図 4 P L.97	須恵器 鉢	埋没土 体部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。内外面ともカキ目。	
第 46図 5 P L.97	土師器 甕	埋没土 底部片	① ② 5.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	胴部下位は縦方向ヘラ削り、底部の整形は摩耗のため不明。	8～11住埋土
第 46図 6 P L.97	須恵器 盤	埋没土 口縁部～底 部片	①21.0 ②20.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削り。	
第 46図 7 P L.97	須恵器 盤	埋没土 口縁部～底 部片	①21.0 ②20.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石材	特徴その他	備考
第 46図8 P L.97	石製品 敲石	床面密着	①14.95 ③ 3.7	② 9.1 ④600	粗粒安山岩	上端から右側面にかけて割れている。下端に敲打痕が認められる。	

9号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 47図 1 P L.97	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①10.8 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位以下は横方向ヘラ削り。	
第 47図 2 P L.97	須恵器 杯	10.0cm 1/4	① ② 5.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 47図 3	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②6.2④6.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③暗灰黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。高台は貼付、高台畳付け部分に乾燥時の台による圧痕が見られる。	
第 47図 4 P L.97	須恵器 椀	床面密着 1/6	① ②9.0④8.2 ③	①細砂粒(石英含む) ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部の切り放し技法は高台貼付によるナデのため不明。	
第 47図 5 P L.97	須恵器 椀	26.8cm 底部片	① ②7.0④7.2 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り、高台は貼付。体部下位は回転ヘラ削り。	
第 47図 6 P L.97	須恵器 杯	13.5cm 1/3	①12.0 ② 5.2 ③ 4.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部の切り放し技法も不明。	
第 47図 7 P L.97	須恵器 椀	床面密着 1/4	①14.0 ② 6.6 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部の切り放し技法は高台貼付時のナデのため不明。	
第 47図 8 P L.97	須恵器 椀	床面密着 底部片	① ②7.0④7.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部の切り放し技法は高台貼付によるナデのため不明。	
第 47図 9 P L.97	須恵器 椀	埋没土 1/4	①13.6 ②6.2④6.6 ③ 4.3	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切りか、高台は貼付で底部はナデ。高台は畳付けに乾燥時の圧痕が見られる。	
第 48図 10 P L.97	須恵器 椀	埋没土 1/3	①13.0 ②7.2④7.6 ③ 5.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 48図 11 P L.97	灰釉陶器 椀	26.2cm 底部	① ②6.8④6.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ナデ調整、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け、釉調は不透明な灰色。	大原2号窯式期
第 48図 12 P L.97	灰釉陶器 椀	埋没土 体部小片	① ② ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛けか。釉調はやや透明感のある緑灰色。	
第 48図 13 P L.97	灰釉陶器 椀	4.0~23.5 底部	①16.4 ②6.6④6.6 ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ナデ調整、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け、釉調はやや透明感のある緑灰色。	大原2号窯式期
第 48図 14 P L.97	土師器 甕	2.5cm 口縁部~胴部上位片	①12.4 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部にかけては横ナデ、胴部は横方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第48図 15 P L.97	須恵器 羽釜	0.5~6.5 口縁部~胴部上位片	①17.2 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	ロクロ整形、鏝は貼付。胴部は鏝までの縦方向ヘラ削り。	
第 48図 16	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③褐色	ロクロ整形、鏝は貼付。胴部は鏝までの縦方向ヘラ削り。	
第 48図 17 P L.97	須恵器 瓶	埋没土 胴部小片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	胴部上位の把手付着部分。	

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 48図 18 P L .98	須恵器 杯	36.9cm 口縁部一部 欠	① 6.0 ② 3.9 ③ 4.2	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	長頸壺の製作を胴部下位で止めてしまったものなのか。ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。外面の大部分は剝離が見られる。	
第 51図 26 P L .98	黒色土器 椀	15.0cm 口縁部下位 ～底部片	① ② 7.0 ③	①微砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	内面黒色処理。ロクロ整形、回転方向は不明。底部はヘラ削り。内面は全面的にヘラ研磨。	
第 51図 27	須恵器 椀	11.0cm 底部片	① ②9.0④9.2 ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰オリーブ	ロクロ整形、回転は右回り。底部の切り放し技法は高台貼付後のナデのため不明。	
第 51図 28 P L .98	須恵器 椀	6.0cm 1/3	① ② 8.8 ③	①細砂粒 ②還元焰燻焼成 ③黄灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 51図 29	土師器 甕	36.0cm 口縁部～胴 部上位片	①10.8 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部から頸部にかけては横ナデ、胴部は横方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 51図 30 P L .98	須恵器 羽釜	1.5cm 口縁部～胴 部中位片	①17.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	ロクロ整形、内面に輪積痕が残る。罫は貼付。胴部は縦方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 51図 31 P L .98	土師器 甕	1.0～3.7 胴部下半片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部は縦方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 51図 32 P L .98	土製品 繻羽口	11cm 1/2	外径7.6 孔径2.0 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	外面はヘラ削り。先端部の溶解炉の内面に接する部分は紫赤色のアメ状に溶解する。	

挿図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 48図19 P L .98	石製品 敲石	24.8cm	①11.6 ③3.9	②5.6 ④400	石英閃緑岩	両端に敲打痕が認められる。下端には敲打による剝離がある。右側面に使用痕、左側面に剝離がある。	
第 48図20 P L .98	石製品 敲石	11.3cm	①12.0 ③4.3	②3.9 ④300	粗粒安山岩	両端に敲打痕があり、上端は裏面にわたり割れている。	
第 48図21 P L .98	石製品 敲石	床面密着	①14.0 ③4.4	②7.0 ④700	溶結凝灰岩	両端に弱い敲打痕が認められる。左側面一部に剝離がある。	
第 48図22 P L .98	石製品 敲石	12.5cm	①7.6 ③5.5	②7.1 ④300	粗粒安山岩	自然面左側に敲打痕が認められる。上端に鑿等の痕跡がある。	
第 48図23 P L .98	石製品 竈構築材	床面密着	①10.1 ③5.3	②5.7 ④200	未固結凝灰岩	一面のみ残存。面が荒れて削りの痕跡は不明。割れ口に黒煤付着。	
第 52図34 P L .98	石製品 竈構築材?	床面密着	①13.5 ③8.2	②9.9 ④1050	粗粒安山岩	表～裏の一部に自然面を残すのみ。黒煤が表面～裏面の一部にかけて付着する。	
第 52図35 P L .98	石製品 敲石	1.5cm	①9.5 ③4.7	②6.5 ④400	粗粒安山岩	両端に弱い敲打痕が認められ、一部剝離がある。	
第 52図36 P L .98	石製品 凹石	26.5cm	①14.7 ③8.0	②12.1 ④700	角閃石安山岩	表面に窪み痕があり、裏面1ヶ所に鑿?痕が認められる。	
挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 49図24 P L .98	鉄器 斜格子状品	床面密着	①残5.3 ③0.4	②残5.4 ④14.53	上下左右を欠損。棒が斜格子状に組まれる。棒は裏面が平坦で断面がカマボコ形を呈す。現況では左上～右下に走る棒が右上～左下に走る棒の上に乗る形である。錆の具合から、近現代のもの可能性が高い。		
第 49図25 P L .98	鉄器 带状品	11.0cm	①9.65 ③0.3	②1.0 ④13.15	両端欠損。緩い弧を描く。側面に錆による亀裂が入るが全体的に状況は良い。鈍の茎の可能性があり、太い方に刃部がつくと考えられる。		鈍の茎?
第 51図33 P L .98	鉄器 角釘?	2.5cm	①残6.6 ③0.9	②残0.6・1.2 ④15.98	上下端とも偏平になりつつ欠損。両端とも幅を増している。特に上端の偏平化が著しい。曲折するが本来的なものか不明。		

10号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 55図 1 P L .99	須恵器 杯	14.0cm 1/2	①13.8 ② 7.6 ③ 3.8	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部と口縁部の間に接合痕が見られる。底部は回転糸切り。外面に自然釉が付着。		
第 55図 2 P L .99	須恵器 長頸壺	埋没土 口縁部片	① 8.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③暗灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。内外面に自然釉が付着。		
第 55図 3 P L .99	土師器 杯	12.0cm ほぼ完形	①14.9 ②10.8 ③ 4.5	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向へら削り。底部は不定方向へら削り。		
第 55図 4 P L .99	土師器 甕	3.5cm 胴部下位～ 底部片	① ② 5.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	胴部は横方向へら削り、底部もへら削り。		
挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 55図5 P L .99	石製品 凹石	21.0cm	①25.3 ③11.0	②18.3 ④4400	角閃石安山岩	片面に2ヶ所、片面に4ヶ所の窪みがみられる。2ヶ所の窪み周辺には刃器の痕跡が認められる。	

11号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 58図 1	土師器 杯	竈 口縁部片	①13.0 稜径11.4 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへら削り。	
第 58図 2	土師器 杯	埋土・掘方 口縁部片	①13.0 稜径11.6 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへら削り。	
第 58図 3	土師器 杯	掘り方埋土 口縁部片	①12.0 稜径10.4 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへら削り。	内面にぶい 橙色
第 58図 4	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 稜径11.2 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③明赤褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへら削り。	
第 58図 5 P L .99	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 稜径11.0 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへら削り。	
第 58図 6 P L .99	土師器 杯	埋没土 1/4	①12.4 稜径10.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデでなかほどに凹線が1条巡る。底部不定方向へら削り。	内面にぶい 黄橙色
第 58図 7 P L .99	土師器 杯	埋没土 1/4	①11.6 稜径10.4 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のへら削り。	
第 58図 8 P L .99	土師器 杯	竈・掘り方 口縁部片	①11.6 稜径10.2 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへら削り。	
第 58図 9 P L .99	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 稜径11.4 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへら削り。	31住竈埋土 と接合
第 58図 10 P L .99	土師器 杯	埋没土 1/3	①11.8 稜径11.0 ③ 3.8	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のへら削り。	
第 58図 11 P L .99	土師器 杯	埋没土 1/3	①12.0 稜径10.6 ③ 4.2	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のへら削り。	
第 58図 12 P L .99	土師器 杯	埋没土 1/5	①13.2 稜径10.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへら削りであるが単位や方向は不明瞭。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 58図 13 P L .99	土師器 杯	埋没土 1/2	①11.5 稜径10.2 ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、稜の下に無調整部分が僅かに残る。底部は不定方向のヘラ削り。	31住と10、11住埋土と接合
第 58図 14 P L .99	土師器 杯	9.0~10.0 完形	①12.4 稜径11.0 ③ 3.9	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 58図 15 P L .99	土師器 甕	2.0~57.8 口縁部~胴部下位片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③灰褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 58図 16 P L .99	土師器 甕	15.0~57.8 口縁部~胴部中位片	①18.5 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 59図 17 P L .100	土師器 甕	0.7~10.3 口縁部~胴部下位片	①19.0 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 59図 18 P L .100	土師器 甕	2.0cm 1/2	①18.6 ② 6.0 ③33.7	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削りと中位に縦方向ヘラ研磨、底部は不定方向のヘラ削り。内面はヘラ研磨。	
第 59図 19 P L .100	土師器 甕	9.0~15.5 口縁部を 1/2欠	①22.3 ② 3.9 ③39.5	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 59図 20 P L .100	土師器 甕	1.0~34.0 ほぼ完形	①20.7 ② 6.2 ③29.0	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削りと上位に縦方向ヘラ研磨、底部は不定方向のヘラ削り。内面はヘラ研磨。	
図版番号	出土位置	動物名	部位	長さ×幅(厚)	特徴	
(11025)	竈	トリ?			焼骨。微細骨片10数片。	
P L .99 21	竈白灰中	キジ	右脛骨近位端		焼骨。	(11026)
P L .99 22	竈白灰中	キジ?	大腿骨骨頭		焼骨。	(11027)
(11028)	竈白灰中	トリ・種不明	上腕骨遠位端など	*29.7×4.1	焼骨。	
(11029)	埋没土				微細骨片。同定不能。	
(11030)	-11.5cm		歯片?		半生。微細片多数。	

11・31号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 63図1 P L .101	銅製品 銭	埋没土	①径? ③0.1	② ④1.25	1/4欠損。寛大平寶。残存部裏面に文様はみられない。	

31号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 62図 1 P L .100	須恵器 杯	竈・埋没土 口縁部片	①16.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 62図 2 P L .100	須恵器 杯	埋没土 2/3	①12.4 ② 5.4 ③ 4.3	①細砂粒 ②還元焰 ③浅黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 62図 3 P L .100	須恵器 杯	埋没土 完形	①12.9 ② 5.1 ③ 4.4	①細砂粒 ②還元焰 ③浅黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 62図 4 P L .101	須恵器 椀	25.0cm 1/2	①13.8 ②5.9④5.9 ③ 5.4	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 62図 5 P L .101	須恵器 椀	3.0~6.4 1/2	①13.0 ②6.8④7.0 ③5.8	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部切り放し技法は不明で回転ナデ、高台は貼付、体部下半は横方向のヘラ削り。内面下半はヘラナデ。	外面底部に砂粒付着

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 62図 6 P L .101	黒色土器 椀	床面密着 1/2	①14.2 ② 6.4 ③	①微砂粒 ②還元焰 ③黒褐色	内外面黒色処理。ロクロ整形、回転は右回りか。 底部は回転糸切り、高台は貼付。		
第 62図 7 P L .101	須恵器 椀	埋没土 1/6	①13.8 ② 5.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、 高台は貼付。	10、11住埋 土と接合	
第 62図 8 P L .101	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②6.8④7.0 ③	①粗砂粒 ②酸化焰ぎみ ③淡黄色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り、 高台は貼付。		
第 62図 9 P L .101	灰釉陶器 椀	埋没土 底部片	① ②7.2④7.4 ③	①緻密 ②還元焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ナデ。 高台は貼付。施釉方法は不明。		
第 62図 10 P L .101	土師器 甕	床面密着 口縁部片	①10.0 ② ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 62図 11 P L .101	須恵器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部内面にあて具 痕が残る。		
挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石材	特徴その他	備考
第 62図12	石製品 竈構築材?	床面密着	①13.1 ③8.8	②9.3 ④1100	粗粒安山岩	裏面一部に黒煤の付着がある。	
第 62図13	石製品 擦石	床面密着	①9.1 ③7.4	②6.9 ④350	粗粒安山岩	表に使用の痕跡が認められる。	
第 62図14 P L .101	石製品 擦石	床面密着	①7.4 ③4.4	②9.55 ④450	粗粒安山岩	表裏に黒煤の付着及び使用の痕跡があり裏 面に著しい。	
第 63図15 P L .101	石製品 敲石	床面密着	①17.5 ③5.6	②12.0 ④1500	ひん岩	上下端及び左側面先端に敲打痕が認められ る。表裏の一部に使用の痕跡があり、裏面 に著しい。	
第 63図16 P L .101	石製品 敲石	8.0cm	①10.3 ③ 3.7	② 8.0 ④450	砂岩	両端に弱い敲打痕が認められる。	
第 63図17 P L .101	石製品 敲石	床面密着	①12.4 ③4.2	②7.0 ④500	粗粒安山岩	両端に敲打痕が認められる。上端は剥離が 著しい。表裏に使用の痕跡があり、裏面に 著しい。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量		残存状態及び特徴	備考
第 63図18 P L .101	鉄器 带状品	埋没土	①5.5 ③0.5	②1.8 ④9.12		一辺は残るが他の三辺は欠損。錆ぶくれと 剥離が認められる。一辺が棟、一辺の残存 部が刃関の可能性が考えられる。	

12号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 66図 1 P L .101	土師器 杯	-17.0cm 口縁部片	①13.8 稜径11.8 ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③黒褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部 はヘラ削り。	内面にぶい 赤褐色
第 66図 2 P L .101	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.8 稜径12.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部 はヘラ削り。	
第 66図 3 P L .101	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①14.8 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	内面に身受けのカエリをもつ。ロクロ整形、回転 方向は不明。	
第 66図 4 P L .101	土師器 甕	-32.5cm 胴部下位～ 底部	① ② 6.5 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下位は斜め方向のヘラ削り、底部もヘラ削り。	
第 66図 5 P L .101	土師器 甕	4.0cm 胴部下位～ 底部片	① ②11.5 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。 底部は不定方向のヘラ削り。	

13号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第70図 1 P.L.101	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部はヘラ削り。	
第70図 2 P.L.101	土師器 杯	埋没土 1/8	①10.4 稜径10.3 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第70図 3 P.L.101	土師器 杯	埋没土 2/3	①11.2 稜径11.4 ③ 3.4	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は周辺部は横方向、中心部は不定方向ヘラ削り。	
第70図 4 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/5	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤褐色	口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第70図 5 P.L.102	土師器 杯	2.5cm 口縁部片	①12.0 稜径10.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第70図 6 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/6	①12.2 稜径12.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③灰褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第70図 7 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/5	①12.0 稜径11.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、胴部は不定方向のヘラ削り。	
第70図 8 P.L.102	土師器 杯	70.3cm 3/4	①12.0 ② ③ 3.4	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部は不定方向のヘラ削り。	
第70図 9 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/5	①12.4 稜径11.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第70図 10 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/6	①12.2 稜径10.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第70図 11 P.L.102	土師器 杯	埋没土	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデと無調整、下半は横方向のヘラ削り。底部は不定方向のヘラ削り。	
第70図 12 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/4	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナデと無調整、下半から底部はヘラ削り。	
第70図 13 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/5	①10.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデと無調整、下半から底部はヘラ削り。	
第70図 14 P.L.102	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。内面に雑な放射状暗文。	分割後2次焼成を受けている。
第70図 15 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/6	①12.7 ② 6.0 ③ 3.0	①細砂粒 ②良好 ③赤黒色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。底部は不定方向のヘラ削り。	内面明赤褐色
第70図 16 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/8	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半横ナデ、下半から底部はヘラ削りであるが器面の剝落のため単位等は不明瞭。	
第70図 17 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/4	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部は不定方向ヘラ削り。	
第70図 18 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/4	①12.6 稜径12.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は周辺部が横方向、中心部は不定方向のヘラ削り。	
第70図 19 P.L.102	土師器 杯	29.0cm 1/3	①12.7 ② ③ 3.9	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 70 図 20 P L .102	土師器 杯	29.0~57.0 2/3	①14.8 ② ③ 4.4	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は上位が無調整、中位から下位は横方向のヘラ削り。底部に指頭圧痕が見られる。		
第 71 図 21 P L .102	須恵器 杯蓋	埋没土 3/4	①10.8 ② ③ 2.7	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り、内面は不定方向のヘラナデ。		
第 71 図 22 P L .102	須恵器 杯蓋	埋没土 1/5	①11.7 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。		
第 71 図 23 P L .102	土師器 甕	埋没土 口縁部~胴部上位片	①10.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。		
第 71 図 24 P L .102	土師器 甕	5.7cm 口縁部~胴部中位片	①20.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 71 図 25 P L .102	土師器 甕	57.6cm 口縁部~胴部上位片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。		
第 71 図 26 P L .102	須恵器 甕	5.7cm 口縁部片	①22.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。		
第 71 図 27 P L .103	土師器 甕	埋没土 底部片	① ② 8.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部は斜め方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。		
第 71 図 28 P L .103	土師器 甕	-2.0cm 底部片	① ② 4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下位と底部はヘラ削り、内面はヘラナデ。		
挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石材	特徴その他	備考
第 71 図29 P L .103	石製品 こもあみ石	床面密着	①15.5 ③4.6	②7.7 ④800	粗粒安山岩	両端に弱い敲打痕が認められる。表裏に使用の痕跡がみられる。	
第 71 図30 P L .103	石製品 こもあみ石	4.0cm	①15.8 ③5.3	②8.7 ④1050	粗粒安山岩	表に窪みが認められる。	
第 71 図31 P L .103	石製品 こもあみ石	5.2cm	①14.2 ③4.9	②5.7 ④610	黒色頁岩	両端に敲打痕が認められる。特に上端に著しい。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴		備考
第 71 図32 P L .103	鉄器 鉄鏃	埋没土	①4.55 ③0.2	②2.25 ④3.65	向かって左側逆刺部欠損の他はほぼ完存。中央部に穿孔。細かい錆ぶくれあり。		

14号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 76 図 1 P L .103	土師器 杯	1.6cm 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデと無調整、下半は横方向、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 76 図 2 P L .103	土師器 杯	15.5cm 1/5	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位が無調整、下位から底部はヘラ削りであるが器面が荒れているため単位等は不明。	
第 76 図 3 P L .103	土師器 杯	4.5cm 1/6	①13.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位が無調整、下位は横方向のヘラ削り。	
第 76 図 4 P L .103	土師器 杯	埋没土 1/4	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部は不定方向ヘラ削り。	
第 76 図 5 P L .103	土師器 杯	埋没土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第76図 6	土師器 杯	掘り方埋土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位～下位は横方向のヘラ削り。	
第76図 7 P L .103	土師器 杯	11.0cm 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデと無調整、下半は横方向のヘラ削り。	
第76図 8 P L .103	土師器 杯	1号竈 1/5	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第76図 9 P L .103	土師器 杯	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	底部の外側はヘラ削り、内側はヘラ研磨。	
第76図 10 P L .103	土師器 杯	12.0cm 1/6	①16.4 稜径13.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第76図 11 P L .103	土師器 杯	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	外側はヘラ削り、内面に漆が付着。	
第76図 12 P L .103	須恵器 長頸壺	4.5cm 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は不定方向のヘラ削り。内面に漆が付着。	
第76図 13 P L .103	須恵器 椀	埋没土 1/8	①14.0 ②10.8 ③3.3④9.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部下位は回転ヘラ削り、底部も回転ヘラ削り、高台は貼付。	
第76図 14	須恵器 杯蓋	2号竈 口縁部片	①11.6 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は回転ヘラ削り、内面に身受けのカエリをもつ。	
第76図 15	土師器 甕	2号竈 口縁部～胴部上位片	①20.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のヘラ削り。	2号竈掘り方と接合
第76図 16 P L .104	土師器 甕	0.7～12.0 口縁部～胴部上位片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向、縦方向のヘラ削り、内側はヘラナデ。	
第76図 17	土師器 甕	65.0cm 胴部下位～底部片	① ②4.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	胴部は斜め方向のヘラ削り、底部もヘラ削り、内側ヘラナデ。	
第76図 18 P L .103	土師器 甕	埋没土 胴部下位～底部片	① ②5.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部は斜め方向のヘラ削り、底部もヘラ削り、内側ヘラナデ。	
第77図 19 P L .104	土師器 甕	18.5cm 口縁部～胴部上位片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のヘラ削り。	
第77図 20 P L .104	土師器 甕	15.5cm 胴部片	頸部径18.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部は斜め方向のヘラ削り、内側はヘラナデ。	
第77図 21 P L .104	須恵器 壺	15.0～23.0 口縁部～胴部	頸部径12.4 胴部径20.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。内側頸部に胴部との接合痕が残る。胴部外側に平行叩き痕が僅かに残る。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第77図22 P L .104	鉄器 鞘尻金具	埋没土	①3.15 ③1.9	②3.7 ④15.38	ほぼ完形。錆ぶくれはあるものの状態は良い。両面に抉り込みがあり、尻端が平坦である。佩裏内面に板金の重ね合わせの痕跡が認められる。方頭大刀に装着の可能性あり。7世紀後半以降。	
第77図23 P L .104	鉄器 棒状品	埋没土	①10.6 ③0.4	②0.5 ④6.55	両端欠損。上端は剝離し欠損、下端欠損。全体に屈曲しており、下方はねじれが生じている。	
図版番号	出土位置	動物名	部位	長さ×幅(厚)	特徴	
(14025)	2号竈	シカ?	角片?	*19.7×1.4	焼骨。細骨片2片。崩壊した同一骨片多数。	

15号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 79図 1 P L .104	土師器 杯	2.7cm 1/2	①11.6 ② ③ 3.2	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は器面が荒れており不明、底部は不定方向のヘラ削りか。	
第 79図 2	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位から底部はヘラ削り。	
第 79図 3 P L .104	土師器 杯	9.0~9.5 1/4	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 79図 4	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位から下位は横方向のヘラ削り。	
第 79図 5 P L .104	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤褐色	口縁部は上半が横ナデと無調整、下半から底部ヘラ削り。	
第 79図 6	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.6 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位から下位は横方向のヘラ削り。	
第 79図 7 P L .104	土師器 杯	2.7cm 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部はヘラ削り。	
第 79図 8 P L .104	土師器 杯	14.0cm 1/8	①12.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第 79図 9 P L .104	土師器 杯	2.7cm 1/4	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位が無調整、下位から底部はヘラ削り。	
第 79図 10 P L .104	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第 79図 11 P L .104	土師器 杯	埋土・掘方 1/4	①13.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 79図 12 P L .105	土師器 杯	埋没土 1/8	①13.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデと無調整、下半から底部はヘラ削り。	
第 79図 13 P L .105	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部ヘラ削り。	
第 79図 14 P L .105	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①17.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部ヘラ削り。	
第 79図 15	須恵器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③明青灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。内面に緑灰色の自然釉が付着。	
第 80図 16	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①11.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③青灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は回転ヘラ削り、内面に身受けのカエリをもつ。	
第 80図 17 P L .105	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は回転ヘラ削り、内面に身受けのカエリをもつ。	
第 80図 18 P L .105	須恵器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部内面に漆の付着が見られる。	
第 80図 19 P L .105	土師器 甕	床面密着 口縁部~胴部上位片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考	
第 80図 20 P L .105	土師器 甕	2.7cm 口縁部～胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。		
挿図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 80図21 P L .105	石製品 敲石	33.5cm	①12.3 ③5.2	②7.6 ④750	粗粒安山岩	両端に敲打痕が認められる。両側面中位に打撃痕がみられる。	
挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 80図22 P L .105	鉄器 刀子(切先)	3.0cm	①残4.5 ③0.25	②1.1 ④3.06	刃部右端のみ。茎～刃部は半分ほど欠損。左端の破損部は僅かに曲線を残しており、他例にみるように曲げられたものと考えられる。		
第 80図23 P L .105	鉄器 鉞尾	埋没土	①4.4 ③1.0	②2.3 ④7.72	左端欠損。鉞は鉄地に銀張を施し、足は裏面に0.5cmほど残存している。		
第 80図24 P L .105	鉄器 刀子	33.5cm	①残6.4 ③0.5	②1.6 ④5.82	茎尻欠損。棟関が明確に、刃関は鈍角に残る。茎の片方の側面は厚さを減じる。刃部は短小。		80の甕小片と同袋
図版番号	出土位置	動 物 名	部 位		長さ×幅(厚)	特 徴	
(15025)	10.0cm		歯片?		*20.6×5.9	半生。細片多数。	

16号住居

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考	
第 82図 1 P L .105	土師器 杯	埋没土 口縁部～底 部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不定方向のヘラ削り。		
第 82図 2 P L .105	土師器 杯	埋没土 1/8	①15.6 ② 8.4 ③ 4.0	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部はヘラ削り。口縁部内面に放射状暗文。		
第 82図 3 P L .105	土師器 杯	埋没土 1/8	①16.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削りであるが単位や方向は不明瞭。口縁部内面に煤の付着が見られる。		
第 82図 4	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口唇部には凹線が1条巡り横ナデ。口縁部上半は無調整か、下半は横方向ヘラ削り。		
第 82図 5	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①13.4 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中央付近は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。		
第 82図 6 P L .105	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①16.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中央付近は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。		
第 82図 7 P L .105	須恵器 長頸壺	3.5cm 口縁部	① 9.2 ②頸部径5.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。口縁部中程に2条の凹線が巡る。胴部と口縁部の接合は2段構成か。		
第 82図 8 P L .105	土師器 甕	16.0cm 口縁部片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。		
第 82図 9 P L .105	須恵器 広口壺	埋没土 肩部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。肩部は回転ヘラ削り。		
挿図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 82図10 P L .105	石製品 敲石	床面密着	①18.6 ③7.1	②10.5 ④2250	ひん岩	両端に敲打痕が認められる。表面上位に剝離がある。	

18号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 84図 1 P L .106	土師器 杯	埋没土 1/8	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はヘラ削り。	
第 84図 2 P L .106	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部に凹線が1条巡り、横ナデ。口縁部はヘラ削り。内面も口唇部に凹線が1条巡る。口縁部は放射状暗文。	
第 84図 3 P L .106	土師器 杯	埋没土 口縁部下位 ～底部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部下位と底部はヘラ削り。内面は口縁部に放射状暗文、底部に螺旋状暗文。	
第 84図 4 P L .106	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③紫灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中心部は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 84図 5 P L .106	須恵器 杯蓋	埋没土 摘	摘径5.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③紫灰色	ロクロ整形、回転は右回り。摘は貼付。	
第 84図 6 P L .106	須恵器 盤	埋没土 小片	①24.0 ②20.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	
第 84図 7 P L .106	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②10.0 ③ ④9.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。	
第 84図 8 P L .106	土師器 甕	32.0cm 口縁部～胴 部片	①12.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部に輪積痕が見られる。口縁部から頸部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面は頸部にハケ目、胴部はヘラナデ。	
第 84図 9 P L .106	土師器 甕	29.0cm 口縁部片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ。	
第 84図 10 P L .106	須恵器 短頸壺	埋没土 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。肩部はカキ目。	
第 84図 11 P L .106	土師器 甕	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

32号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 87図 1 P L .106	土師器 杯	16.0cm 完形	①13.8 ② ③ 3.2	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 87図 2 P L .106	須恵器 蓋	埋没土 口縁部小片	①17.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中心部は回転ヘラ削り。内面に自然釉が付着。	
第 87図 3 P L .106	須恵器 杯	埋没土 1/6	①13.0 ② 8.4 ③ 3.8	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	
第 87図 4 P L .106	須恵器 杯	埋没土 1/6	①12.8 ② 6.8 ③ 3.7	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	18住埋土と 接合
第 87図 5	須恵器 杯	埋没土 底部小片	① ② 8.5 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	
第 87図 6 P L .106	須恵器 杯	埋没土 底部	① ② 8.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 87図 7 P L .106	土師器 甕	埋没土 口縁部片	①19.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。	

19号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 89図 1 P L .106	土師器 杯	42.0cm 1/2	①10.0 ② ③ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	内面にぶい 橙色
第 89図 2	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部上位は横ナデ、中位から下位はヘラ削り。	
第 89図 3 P L .106	土師器 杯	埋没土 1/5	①11.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 89図 4 P L .106	土師器 杯	埋没土 1/3	①12.2 ② ③ 3.9	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	内面橙色
第 89図 5	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部は上半が横ナデと無調整、下半から底部は不定方向のヘラ削り。	
第 89図 6 P L .106	土師器 杯	床面密着 1/3	①12.0 ② ③ 3.7	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 89図 7 P L .106	土師器 杯	埋没土 1/8	①13.0 稜径11.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向ヘラ削り。	内面明赤褐色
第 89図 8 P L .106	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 6.4 ③	①細砂粒 ②還元焙 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部はヘラ切り後不定方向のヘラ切り、内面は一定方向のナデ後周辺部を回転ナデ。	
第 89図 9 P L .106	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	①20.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位はヘラ削り。	
第 89図 10 P L .107	土師器 甕	35.0cm 口縁部～胴部上位片	①19.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 89図 11 P L .107	土師器 甕	29.0～32.0 口縁部～胴部上位片	①21.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 90図 12 P L .107	土師器 甕	9.0cm 口縁部～胴部上位片	①20.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 90図 13 P L .107	土師器 甕	34.0cm 口縁部片	①19.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り。	
第 90図 14	土師器 甕	竈・埋没土 胴部下位～底部片	① ② 3.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部下位は縦方向ヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 90図 15 P L .107	土師器 台付甕	6.0cm 台部片	① ②5.0④8.0 ③	①粗砂粒 ②良好 ③橙色	台部は上半が縦方向のヘラ削り、下半は横ナデ。	
第 90図 16 P L .107	土師器 台付甕	17.0cm 台部片	① ② ④11.6 ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	台部は上半が縦方向のヘラ削り、下半は横ナデ。	

挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石材	特徴その他	備考
第 90図17 P L .107	石製品 敲石	3.0cm	①13.1 ③5.0	②6.7 ④650	溶結凝灰岩	両端に敲打痕が認められる。下半の色調が黒ずむ。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量		残存状態及び特徴	備考
第 90図18 P L .107	鉄器 刀子	埋没土	①3.55 復元残6.8 ③刃0.2 茎0.3	②1.0 ④4.69		茎端部と刃部先端欠損。刃関が良く残る。錆ぶくれはあるが刃が残る。刃部で強く屈曲する。	

20号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 94図 1 P L .107	須恵器 杯	23.0cm ほぼ完形	①10.3 ② 4.7 ③ 4.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。内面に漆が付着。	内面黒褐色
第 94図 2 P L .107	須恵器 杯	埋没土 口縁部小片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 94図 3 P L .107	須恵器 杯	埋没土 口縁部小片	①13.4 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 94図 4 P L .107	灰釉陶器 椀	埋没土 口縁部片	①14.4 ② ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。施釉方法は漬け掛け、釉調は不透明な灰色。	虎溪山1号 窯式期
第 94図 5 P L .107	灰釉陶器 椀	埋没土 1/4	① ②7.6④7.8 ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部の切り放し技法はナデのため不明、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け、釉調は不透明な灰色。	虎溪山1号 窯式期
第 94図 6 P L .107	須恵器 不明	埋没土 小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部に脚部か高台を接続するためにヘラで沈線を巡らしている。	
第 94図 7 P L .107	須恵器 盤?	埋没土 盤小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部外面はヘラ削り、内面はカキ目。	
第 94図 8 P L .107	灰釉陶器 瓶	埋没土 小片	① ② ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。施釉方法は不明、釉調は透明感のある緑灰色。	
第 94図 9 P L .107	須恵器 盤	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部外面は不定方向のヘラ削り、内面はカキ目。	
第 94図 10 P L .107	須恵器 羽釜	埋没土	①19.8 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。	
第 95図 11 P L .107	須恵器 羽釜	23.0cm	①19.8 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。	
第 95図 12 P L .107	須恵器 羽釜	21.5cm 胴部下位～ 底部片	① ② 5.6 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部は縦方向のヘラ削り、底部もヘラ削り。	
第 95図 13 P L .107	須恵器 羽釜	6.7cm 口縁部～胴 部片	①21.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。胴部は縦方向のヘラ削り、内面は上位が横方向、中位が縦方向のヘラナデ。	
第 95図 14 P L .107	須恵器 甕	-17～17cm 胴部片	頸部径18.0 胴部径41.2 ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。外面は平行叩き、内面は同心円状あて具痕が残る。	
第 95図 17 P L .108	土師器 杯	埋没土 1/4	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は上半が無調整、下半から底部はヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 95図15 P L .108	石製品 竈構築材	埋没土	①8.6 ③3.5	②7.1 ④150	未固結凝灰岩	表面から側面の一部にかけて残存する。全体に面が荒れて削りの痕跡は所々認められるが不明確である。	
第 95図16 P L .108	石製品 竈構築材	埋没土	①9.5 ③5.9	②10.0 ④340	未固結凝灰岩 (安山岩質)	表面から側面の一部が残存。全体に面が荒れる。削りの痕跡が認められるが詳細は不明。	
挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 95図18 P L .108	鉄器 角釘	-9.5cm	①6.0 ③0.6	②0.9 ④15.50	下端欠損。頭が大きく張り出す。面の状態は良く太くしっかり作られる。		
第 95図19 P L .108	鉄器 角釘	埋没土	①残2.75 ③0.4	②0.5 ④1.75	両端欠損。下端が細くなる。上位の錆ぶくれが著しい。		

21号住居

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 98図 1 P L .108	須恵器 椀	竈・埋没土 底部片	① ② 9.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③浅黄橙色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 98図 2 P L .108	須恵器 椀	8.0cm 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③浅黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 98図 3 P L .108	須恵器 椀	6.5cm 1/2	① ②7.0④8.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部の切り放し技法は高台貼付時のナデのため不明。	
第 98図 4 P L .108	須恵器 椀	8.0cm 完形	①12.2 ②7.0④7.8 ③ 5.4	①細砂粒 ②還元焰燻焼成 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 98図 5 P L .108	須恵器 椀	埋土・掘方 底部片	① ② 8.5 ③ ④10.0	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部の切り放し技法は不明、高台は貼付。	
第 98図 6 P L .108	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部の切り放し技法は不明、高台は貼付。	
第 98図 7 P L .108	灰釉陶器 椀	-5.0cm 口縁部片	①13.0 ② ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部下半に2段の回転ヘラ削り。施釉方法は漬け掛け、釉調は透明感のない白灰色。	
第 98図 8 P L .108	灰釉陶器 椀	埋没土 1/3	①11.0 ②6.0④5.8 ③ 3.9	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け、釉調は透明感のない灰白色。	虎溪山1号 窯式期
第 98図 9 P L .108	灰釉陶器 椀	28.5cm 1/2	①13.0 ②6.4④6.0 ③ 5.1	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部はナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け、釉調は透明感のない灰白色。	大原2号窯 式期
第 98図 10 P L .108	灰釉陶器 椀	-10.0cm 底部	① ②8.2④8.2 ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部はナデ、高台は貼付。底部内面に漆が付着。	大原2号窯 式期
第 98図 11 P L .108	須恵器 甕	掘り方埋土 口縁部～胴 部上位片	①13.0 ② ③	①微砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 98図 12	須恵器 甕	7.5cm 胴部片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③赤灰色	胴部外面は平行叩き、内面は同心円状あて具痕。	
第 99図 13 P L .108	須恵器 羽釜	10.5cm 口縁部～胴 部上位片	①16.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付、胴部上位は横方向のヘラ削り。	
第 99図 14 P L .108	須恵器 羽釜	8.0cm 口縁部～胴 部上位片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③浅黄橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。胴部上位は縦方向のヘラ削り、内面はナデ。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 99図 15 P L .108	須恵器 羽釜	2.1~19.0 口縁部~胴 部上位片	①18.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③淡黄色	内面に輪痕が残る。ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。胴部上位は雑な縦方向のヘラ削り、内面はナデ。	
第 99図 16 P L .108	須恵器 羽釜	6.5~26.0 口縁部~胴 部中位片	①16.6 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③明赤褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。胴部は縦方向のヘラ削り。	
第 99図 17 P L .108	須恵器 羽釜	2.1~19.0 1/4	①17.0 鏝径20.6 胴径21.2	①細砂粒 ②酸化焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。胴部は底部からの縦方向のヘラ削りであるが鏝付近に一部横方向のヘラ削り。内面胴部に縦方向のナデ。	
第 99図 18	須恵器 羽釜	-8.0cm 口縁部~胴 部上位片	①20.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③淡黄色	内面に輪痕が残る。ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。	
第 99図 19	須恵器 羽釜	竈掘り方 口縁部片	①19.6 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。	
第 99図 20 P L .109	須恵器 羽釜	26.0cm 口縁部~胴 部上位片	①19.4 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。	
第 99図 21 P L .109	須恵器 羽釜	19.0cm 口縁部~胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③浅黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。	
第 99図 22 P L .109	須恵器 羽釜	竈・埋没土 胴部下位~ 底部片	① ② 8.4 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③浅黄橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部はヘラ削りか。	
第 99図 23 P L .109	須恵器 羽釜	埋土・掘方 胴部下位~ 底部片	① ②10.0 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 100図 24 P L .109	須恵器 羽釜	-3.5~26.0 3/4	①18.6 ② 6.6 ③25.3	①細砂粒 ②酸化焰 ③浅黄橙色	ロクロ整形、回転は右回り。鏝は貼付、胴部下半は斜め方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 100図 25 P L .109	須恵器 羽釜	-13.0cm 胴部下位~ 底部片	① ② 7.0 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③褐色	ロクロ整形、回転は右回りか。胴部下位は縦方向のヘラ削り後横方向のヘラ削りか。	
第 100図 26 P L .109	須恵器 羽釜	-8.0~-7.1 口縁部~胴 部中位片	①21.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。	
第 100図 27 P L .109	須恵器 羽釜	-6.0cm 口縁部~胴 部上位片	①19.2 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③浅黄橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。胴部上位は斜めのナデ。	
第 100図 28 P L .109	須恵器 羽釜	竈 胴部下位~ 底部片	① ② 7.0 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③明赤褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部はナデ。	
第 100図 29 P L .109	須恵器 羽釜	埋没土 胴部下位~ 底部片	① ② 6.4 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下位は縦方向のヘラ削り。	
第 100図 30 P L .109	須恵器 羽釜	埋没土 胴部下位~ 底部片	① ② 8.8 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③明赤褐色	ロクロ整形、回転は右回り。胴部下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 100図 31 P L .109	土師器 杯	埋没土 1/6	①10.0 稜径9.2 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 100図 32 P L .109	土師器 杯	埋没土 1/6	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部から底部は不定方向ヘラ削り。	
第 100図 33 P L .109	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②11.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。	

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考	
第 100図 34 P L .109	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。		
挿図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 101図35 P L .109	石製品 竈構築材?	1.6cm	①18.65 ③4.9	②12.2 ④1900	粗粒安山岩	自然面は残存しない。角柱状の一部か。裏面の一部から左側面の一部にかけて黒煤が付着する。	
第 101図36 P L .109	石製品 台石?	-1.4cm	①14.0 ③ 4.4	②11.5 ④1100	粗粒安山岩	上端及び左側面欠損。下端と右側面に敲打痕が認められる。表裏にも弱く敲打痕がある。	
第 101図37 P L .109	石製品 竈構築材?	床面密着	①12.1 ③12.4	②9.5 ④1600	粗粒安山岩	角柱状を呈す一段のみ残存。表面に黒煤付着。	
第 101図38 P L .110	石製品 竈構築材	15.5cm	①36.4 ③13.7	②19.8 ④7900	土塊?	片端欠損。小口も2/3欠損する。全体に面が荒れるが削りの痕跡は表裏、左右側面小口に残存する。	
挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 102図39 P L .110	鉄器 角釘	埋没土	①3.7 ③0.6	②0.4 ④2.15	両端欠損。強く屈曲する。亀裂がみられるが面の状態は良い。		
第 102図40 P L .110	鉄器 角釘	埋没土	①2.8 ③0.3	②0.7 ④1.21	両端欠損。錆により丸みを帯びるが、断面は本来矩形を呈すと思われる。		
第 102図41 P L .110	鉄器 鉄鎌の頸部	埋没土	①5.3 ③0.6	②0.5 ④4.57	両端欠損。ほぼ直線的で下半は錆による剥離でやや細くなる。		
第 102図42 P L .110	鉄器 尖頭帯状品	埋没土	①2.7 ③0.1	②6.0 ④1.36	下部欠損。刃は作られていない。尖頭状で僅かにねじれがある。		

22号住居

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 108図 1 P L .110	土師器 杯	17.0cm 1/4	①12.4 ② ③ 3.8	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 108図 2 P L .110	土師器 杯	15.0cm 1/2	①13.4 ② ③ 3.8	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 108図 3 P L .110	土師器 杯	27.0cm 1/6	①14.0 稜径13.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部不定方向のヘラ削り。	
第 108図 4 P L .110	土師器 杯	埋没土 1/4	①14.2 ② ③ 4.5	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位からヘラ削り。	
第 108図 5 P L .110	土師器 杯	掘り方 1/4	①16.0 ② ③ 4.0	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 108図 6 P L .110	土師器 杯	竈・掘り方 口縁部片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第 108図 7 P L .110	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中央部は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 108図 8 P L .110	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部小片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 108図 9 P L .110	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 8.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り、口縁部最下位に1～2段のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 108 図 10 P L . 110	須恵器 椀	埋没土 口縁部片	①14.0 ②10.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 108 図 11 P L . 110	須恵器 椀	埋土・掘方 1/8	①16.0 ②9.9④9.0 ③ 3.8	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り、高台は削り出し。	
第 108 図 12 P L . 110	須恵器 平瓶	21.0cm 上半部を欠	肩径12.2 ② 6.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。胴部下半はヘラ削りであるが自然釉の付着のため単位等は不明、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 108 図 13 P L . 110	土師器 甕	10.5cm 口縁部～胴 部上位片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 108 図 14 P L . 110	土師器 甕	37.0cm 口縁部～胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にふい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 108 図 15 P L . 110	土師器 甕	2号電 口縁部～胴 部上位片	①22.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	埋土と接合
第 108 図 16 P L . 111	土師器 甕	16.0cm 口縁部～胴 部上位片	①23.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にふい赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め・縦方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 108 図 17 P L . 111	土師器 甕	11.5～24.5 口縁部～胴 部上位片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 108 図 18 P L . 111	土師器 甕	2.0cm 口縁部～胴 部上位片	①25.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位はヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 109 図 19 P L . 111	土師器 甕	10.5～50.0 口縁部～胴 部上位片	①25.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。	
第 109 図 20 P L . 111	土師器 甕	0～2.0cm 3/4	①20.3 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、胴部は底部からの縦方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 109 図 21 P L . 111	土師器 甕	8.0～29.0 1/2	①21.2 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③にふい黄橙色	口縁部は横ナデ、胴部は底部からの縦方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 109 図 22 P L . 111	土師器 甕	13.0～21.0 口縁部～胴 部上位片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 109 図 23 P L . 111	土師器 甕	14.0～23.0 口縁部～胴 部上位片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 109 図 24 P L . 112	土師器 甕	1.0～4.0cm 1/2	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上位が横方向、中位から下位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 110 図 25 P L . 112	土師器 甕	2.0～35.0 3/4	①23.7 ② 5.1 ③33.2	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ。胴部は上位が横方向、中位から下位は斜め方向のヘラ削り。底部は斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 110 図 26	土師器 甕	埋没土 胴部下位片	① ② 7.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にふい橙色	胴部下位は斜め方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 110 図 27 P L . 111	土師器 甕	4.0～19.0 胴部下半片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	胴部下半は斜め方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 110 図 28 P L . 111	須恵器 甕	埋没土 底部片	① ② 7.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。胴部下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 110図 30 P L .112	須恵器 甕	18.0cm 口縁部片	①26.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部内面に於て具痕が残る。		
第 111図 31 P L .112	須恵器 甕	1.0~52.0 胴部片	① ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰ぎみ ③にぶい黄橙色	外面は平行叩き、内面は同心円状であて具痕が残る。		
挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 110図29 P L .111	石製品 敲石	2.0cm	①17.5 ③4.0	②8.9 ④900	粗粒安山岩	下端及び両側面に敲打痕が認められる。左側面上位に痕跡が著しく、同位置右側面は剥離している。右側面は全体に敲打痕があり、下位にも剥離がある。表面と裏面下端にも使用による剥離がある。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 111図32 P L .112	鉄器 带状品	埋没土	①6.4 ③0.2・0.25	②1.35・0.5 ④6.53	両端欠損。幅が狭くなるにつれねじりがある。刃闊、棟闊とも不明確。刃部にあたる部分には2ヶ所めくれがある。		刀子？
第 111図33 P L .112	鉄器 带状品	埋没土	①残12.65 ③0.35	②2.15 ④18.99	左端欠損。全体に錆ぶくれあり。緩やかな反りを持つ。中央には著しい欠損箇所があり、めくれがみられる。右端は廃棄時には現在の状態。		刀？
第 111図34 P L .112	鉄器 鉄鏃	埋没土	①8.2 ③4.0	②2.8 ④10.50	ほぼ完形。錆ぶくれはあるが状態は良い。刃部最端が欠損、茎尻も僅かに欠損している。表面の渦巻は錆ぶくれを潰した痕跡。		37号住居資料と接合
図版番号	出土位置	動物名	部 位	長さ×幅(厚)	特 徴		
(22066)	竈	小動物	肢骨片		焼骨。骨片3片。分析No5		
(22067)	竈	トリ	種子骨		焼骨。分析No14		
(22068)	竈	小動物	肋骨片など		焼骨。骨片多数。分析No9		
(22069)	竈	小動物	肋骨片など		焼骨。骨片数片。分析No8		

60号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 115図 1 P L .112	土師器 杯	埋没土 1/4	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 115図 2 P L .112	土師器 杯	埋没土 1/2	①11.8 ② ③ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 115図 3 P L .112	土師器 杯	-26.5cm 1/4	①14.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 115図 4 P L .112	土師器 鉢	19.0cm 口縁部片	①26.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部はヘラ削り。	
第 115図 5 P L .112	土師器 盤	埋没土 口縁部～底部片	①20.0 稜径17.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 115図 6	土師器 杯	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②軟質 ③橙色	底部外面はヘラ削り、内面はヘラ研磨。	
第 115図 7 P L .112	土師器 杯	48.0cm 1/4	①12.0 ②10.6 ③ 2.5	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。内面の口縁部と底部に放射状暗文。	
第 115図 8 P L .113	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①16.0 ②10.0 ③ 3.4	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。口縁部の内面に雑な放射状暗文。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 115図 9 P L .113	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①17.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中央部は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 115図 10 P L .113	須恵器 杯	101.0cm 1/3	①12.0 ② 7.0 ③ 4.1	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。口縁部最下位に1～2段のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 115図 11 P L .113	須恵器 杯	埋没土 1/3	①12.0 ② 8.0 ③ 3.8	①細砂粒 ②還元焰 ③浅黄色	ロクロ整形、回転は右回りか。口縁部最下位に1段の回転ヘラ削り、底部は回転ヘラ削り。	
第 115図 12 P L .113	須恵器 杯	竈 底部片	① ② 7.5 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部最下位に1～2段のヘラ削り、底部は回転ヘラ削りか。	
第 115図 13	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 115図 14 P L .113	土師器 甕	23.0cm 口縁部～胴 部上位片	①21.5 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部や頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 115図 15 P L .113	土師器 甕	46.0cm 口縁部～胴 部	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 115図 16 P L .113	土師器 甕	-5.5cm 胴部下位～ 底部片	① ② 4.5 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
図版番号 (60017)	出土位置 竈	動物名 小動物	部位 肋骨片	長さ×幅(厚)	特徴 焼骨。	分析No16

22・60号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 116図 1 P L .113	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②軟質 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 116図 2 P L .113	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②軟質 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 116図 3 P L .113	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 116図 4 P L .113	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 8.5 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部最下位に1条の凹線が巡る。底部は回転ヘラ削り。	
第 116図 5 P L .113	土師器 甕	埋没土 口縁部小片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤灰色	口縁部は横ナデ。	
第 116図 6 P L .113	須恵器 甕	埋没土 胴部～底部 片	① ②10.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部は下位に叩き目、最下位に2～3段の回転ヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り、内面にあて具痕が残る。	

23号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 122図 1 P L .113	土師器 杯	埋没土 1/6	①10.0 ② ③ 2.7	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 122図 2 P L .113	土師器 杯	31.0cm 3/4	①10.0 ② ③ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は中位に凹線が1条巡る。上半は横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第122図 3 P.L.113	土師器 杯	埋没土 1/3	①10.0 ② ③ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第122図 4 P.L.113	土師器 杯	埋没土 1/6	①10.8 ② ③ 3.8	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第122図 5 P.L.113	土師器 杯	埋没土 1/4	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第122図 6 P.L.113	土師器 杯	埋没土 1/3	①10.4 ② ③ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削りで上位に僅かに無調整部分が残る。底部は不定方向のヘラ削り。	
第122図 7 P.L.113	土師器 杯	1.8cm 2/3	①10.8 ② ③ 3.0	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第122図 8	土師器 杯	埋没土 1/6	①13.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデと無調整、下半は横方向のヘラ削り。	
第122図 9 P.L.113	土師器 杯	床面密着 1/4	①12.2 ② ③ 3.8	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第122図 10 P.L.113	土師器 杯	埋没土 1/6	①13.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位から下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第122図 11 P.L.113	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は外面が横方向のヘラ研磨、内面は上下2段に斜放射状暗文、放射状暗文の間に螺旋状暗文を施文。	畿内産
第122図 12 P.L.113	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	底部外面はヘラ削り、内面に漆が付着。	
第122図 13 P.L.114	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は不定方向のヘラ削り。	
第122図 14 P.L.114	須恵器 杯蓋	埋没土 1/6	①10.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は右回りか。蓋は欠落しているが乳頭状か。天井部は回転ヘラ削り、内面に身受けのカエリをもつ。	
第122図 15 P.L.114	須恵器 杯	埋没土 1/3	① 7.0 ② 6.8 ③ 4.7	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は不定方向のヘラ削り。	
第122図 16 P.L.114	須恵器 高杯	埋没土 脚部片	① ② ④11.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第122図 17 P.L.114	須恵器 盤	埋没土 1/6	①21.2 ②18.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部はカキ目。	
第122図 18 P.L.114	須恵器 長頸壺	59.0cm 胴部片	胴部最大 24.0 ③	①細砂粒 ②やや酸化焰ざみ ③浅黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部外面の肩部より上位は回転ヘラ削り、下位は平行叩目、内面の肩より下位はあて具痕が残る。	
第122図 19 P.L.114	須恵器 双耳壺	63.0cm 口縁部～胴部 中位片	① 8.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向不明。胴部上位に把手を貼付、把手はヘラ削り。	
第122図 20 P.L.114	須恵器 長頸壺	埋没土 底部～脚部 片	① ② 8.2 ③ ④12.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ナデ、脚部は貼付。	
第122図 21 P.L.114	須恵器 長頸壺	埋没土 脚部片	① ② ④12.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第122図 22 P.L.114	須恵器 小型壺	63.0cm 口縁部～胴 部中位片	①11.0 胴部最大径 11.4	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。		
第123図 23 P.L.114	土師器 甕	3.0cm 口縁部片	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、体部上位は横方向へら削り。		
第123図 24 P.L.114	土師器 甕	69.0cm 口縁部片	①21.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のへら削り。		
第123図 25 P.L.114	土師器 甕	69.0cm 口縁部片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③灰褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のへら削り。		
第123図 26 P.L.114	土師器 甕	48.0～56.0 口縁部～胴 部上位片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部～頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のへら削り、内面はへらナデ。		
第123図 27 P.L.114	土師器 甕	4.0～56.0 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	胴部外面は縦方向のへら削り。内面はへらナデ。		
第123図 28 P.L.114	土師器 甕	24.0cm 口縁部～胴 部上位片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のへら削り、内面はへらナデ。		
第123図 29 P.L.114	土師器 甕	1.5cm 口縁部～胴 部片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のへら削り、内面はへらナデ。		
第123図 30 P.L.114	土師器 甕	1.0～15.5 口縁部～胴 部中位片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上半は縦方向のへら削り。内面胴部はへらナデ。		
第123図 31 P.L.115	土師器 甕	床面密着 完形	①23.2 ②5.6 ③36.3	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は頸部付近が横方向、他は縦方向のへら削り。底部は不定方向のへら削り。内面胴部はへらナデ。		
第124図 32 P.L.114	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のへら削り。		
第124図 33 P.L.115	土師器 甕	2.0～21.5 口縁部～胴 部片	①24.0 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のへら削り。内面胴部はへらナデ。		
挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石材	特徴その他	備考
第124図34 P.L.115	石製品 擦石?	床面密着	①13.9 ③3.5	②7.8 ④550	粗粒安山岩	裏面から側面、表面にかけて黒煤が付着する。表面には付着物が認められる。全面に使用の痕跡があり、裏面に著しい。	
第124図35 P.L.115	石製品 こもあみ石	床面密着	①10.0 ③4.6	②6.0 ④400	変質安山岩	上端欠損。下端に弱い敲打痕がある。側面中位の角に剝離がある。黒煤が裏面、割れ口、側面に付着する。	
第124図36 P.L.115	石製品 こもあみ石	2.0cm	①12.1 ③4.6	②5.9 ④600	石英閃緑岩	両端に敲打痕が認められる。両側面中位の角にも敲打痕及び剝離がみられる。黒煤が表面、側面に付着し、被熱によるひびがある。	
第124図37 P.L.115	石製品 砥石	12.0cm	①7.0 ③3.6	②6.8 ④150	変質デイサイト	両端及び裏面欠損。現存する表面、両側面を研ぎ面とする。表面中央が窪む。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴		備考
第124図38 P.L.115	鉄器 帯状品	46.5cm	①10.9 ③0.2	②1.9・1.7 ④14.07	ほぼ完形。平坦で四角は丸く仕上げられる。中位はやや幅を増す。留金具等の痕跡はみられない。		
第124図39 P.L.115	鉄器 角釘	埋没土	①6.5 ③0.5 頭1.1	②4.5 ④12.10	下端欠損。弱く屈曲するが残存状態は良い。下端は強く屈曲する。		

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴	備 考
第 124図40 P L .115	鉄器 角釘?	床面密着	①2.9 ③0.4	②0.9 ④1.59	上端欠損。偏平で下端が屈曲している。	
第 124図41 P L .115	鉄器 角釘?	埋没土	①2.5 ③0.5	②0.5 ④1.60	上端欠損。緩やかなカーブを描く。他に接合しない小片1片あり。	
図版番号	出土位置	動 物 名	部 位	長さ×幅(厚)	特 徴	
(23047)	床面密着				焼骨。細骨片数10片。	
(23048)	竈				焼骨。微細骨片数10片。	
(23049)	竈	小動物	寛骨片など		焼骨。骨片数片。	分析No19
(23050)	竈	トリ	未節骨など		焼骨。骨片6片。	分析No20

24号住居

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 127図 1 P L .115	須恵器 杯	埋没土 底部小片	① ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向不明。底部は不定方向のヘラ削り。	8 C前半代
第 127図 2 P L .115	須恵器 椀	47.0cm 1/2	①11.4 ② 5.2 ③ 3.8	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。やや酸化焰。	
第 127図 3 P L .115	須恵器 杯	9.5~41.0 口縁部の一 部欠	①11.0 ② 5.0 ③ 3.5	①粗砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。やや酸化焰。	
第 127図 4 P L .115	須恵器 杯	埋没土 口縁部小片	①12.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③明赤褐色	ロクロ整形、回転方向不明。	
第 127図 5 P L .115	須恵器 羽釜	3.0~21.0 口縁部~胴 部上位片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	ロクロ整形。鏝は貼付。	
第 127図 6 P L .115	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部~胴 部上位片	①24.2 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③赤褐色	ロクロ整形。鏝は貼付。	

25号住居

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 130図 1 P L .115	須恵器 杯	20.0cm 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	ロクロ整形。	
第 130図 2 P L .115	須恵器 椀	掘り方 1/4	①11.0 ②5.4④5.4 ③ 4.1	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転方向不明。底部切り放し技法は高台貼付時のナデのため不明。	
第 130図 3 P L .115	須恵器 椀	18.0cm 口縁部片	① ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	ロクロ整形、回転方向不明。口縁部上位に自然釉が付着。	煙道部より
第 130図 4 P L .116	須恵器 椀	埋没土 口縁部片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰オリーブ色	ロクロ整形、回転方向不明。	
第 130図 5 P L .116	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 5.4 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③橙色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
第 130図 6 P L .116	須恵器 羽釜	28.0cm 口縁部片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、鏝は貼付。	煙道部より
第 130図 7 P L .116	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③浅黄色	ロクロ整形、鏝は貼付。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 131図 9	須恵器 羽釜	39.0cm 口縁部～胴 部上位片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③灰黄色	ロクロ整形、鏝は貼付。		
第 131図 10 P L .116	須恵器 羽釜	5.0cm 口縁部～胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③黄灰色	ロクロ整形、鏝は貼付。		
第 131図 11 P L .116	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部～胴 部上位片	① ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③におい黄褐色	ロクロ整形、胴部に輪積痕が残る。鏝は貼付。		
第 131図 12 P L .116	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③におい黄褐色	ロクロ整形、鏝は貼付。		
第 131図 13 P L .116	須恵器 羽釜	17.0～30.0 胴部下半片	① ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③淡黄色	ロクロ整形、胴部に輪積痕が残る。胴部下半は縦 方向へラ削り。	煙道部より	
第 131図 14 P L .116	須恵器 羽釜	10.0～30.0 口縁部～胴 部中位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③淡黄色	ロクロ整形、胴部に輪積痕が残る。鏝は貼付。胴 部下半は、縦方向へラ削り。	煙道部より	
第 131図 15 P L .116	須恵器 羽釜	埋没土 胴部下位片	① ② 8.0 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③におい橙色	ロクロ整形、胴部に輪積痕が残る。胴部下半は縦 方向へラ削り。		
第 132図 17 P L .116	須恵器 甕	埋没土 底部小片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	胴部外面は平行叩き目が残る。底部の整形は不明。 内面はナデ。		
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考	
第 129図 8 P L .116	鉄器 角釘	埋没土	①5.6 ③0.4	②0.5 ④2.73	両端欠損。中位が膨れている。上端が屈曲 している。		
挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石材	特徴その他	備考
第 131図16 P L .116	石製品 敲石	床面密着	①16.8 ③4.2	②5.9 ④700	粗粒安山岩	裏面が大きく剝離する。両端及び表面左角 中位に敲打痕が認められる。	

26号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 134図 1 P L .116	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②軟質 ③橙色	外面は底部・口縁部ともへラ削りか。内面は口縁 部に放射状、底部に同心円状暗文。	
第 134図 2	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②軟質 ③橙色	外面は底部・口縁部ともへラ削りか。内面は口縁 部に放射状暗文。	
第 134図 3 P L .116	須恵器 椀	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰オリーブ色	ロクロ整形、回転方向不明。	
第 134図 4 P L .116	土師器 甕	19.0cm 口縁部～胴 部上位片	①20.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部は横ナデ。 胴部上位は横方向へラ削り、内面はへラナデ。	
第 134図 5 P L .116	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①19.8 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ。胴部は縦方向へラ削り。	
第 134図 6 P L .116	土師器 甕	床面密着 胴部下半片	① ② 3.5 ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部下半は縦方向へラ削り、内面はへラナデ。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 134図7 P L .116	鉄器 鉄鏃	埋没土	①残5.7 ③0.55・0.65	②残3.6 復元4.4 ④15.20	逆刺部、刃部先端、茎部欠損。全体に錆ぶくれが多く、裏面は身部が剝離している。関は裏面片側に僅かに残る。頸部～関にかけて錆ぶくれで膨らんでいる。茎部は錆により剝離している。	

27号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 138図 1 P L .116	土師器 杯	埋没土 1/4	①11.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、中位は無調整。下位から底部にかけてはヘラ削り。	
第 138図 2 P L .116	土師器 杯	埋没土 1/4	①11.2 ② ③ 3.2	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部はヘラ削り。	
第 138図 3 P L .116	土師器 杯	8.0～11.0 1/2	①12.0 ② ③ 3.4	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不定方向ヘラ削り。	
第 138図 4 P L .116	土師器 杯	31.6cm 1/2	①12.6 ② ③ 4.0	①微砂粒 ②良好 ③明褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不定方向ヘラ削り。	
第 138図 5 P L .117	土師器 杯	埋没土 1/2	①12.6 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不定方向ヘラ削り。	
第 138図 6 P L .117	土師器 杯	2.5～6.5 完形	①12.6 稜径10.9 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部と底部の間に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向ヘラ削り。	
第 138図 7 P L .117	土師器 杯	14.0～31.0 1/3	①13.0 ② ③ 4.5	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、横ナデ下に若干の無調整が残る。下半から底部にかけてはヘラ削り。	
第 138図 8 P L .117	土師器 杯	埋没土 4/5	①12.4 ② ③ 3.7	①微砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不定方向ヘラ削り。	
第 138図 9 P L .117	土師器 杯	15.5～30.0 1/4	①15.4 ②10.2 ③ 3.9	①粗砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向ヘラ削り。底部はヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。	
第 138図 10 P L .117	土師器 杯	15.5cm 1/4	①16.0 稜径13.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部と底部の間に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向ヘラ削り。	
第 138図 11 P L .117	土師器 杯	26.0～40.0 1/2	①16.0 稜径13.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部と底部の間に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向ヘラ削り。	
第 138図 12 P L .117	須恵器 蓋	埋没土 1/6	①11.6 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は回転ヘラ削り。内面にカエリをもつ。	
第 138図 13 P L .117	須恵器 杯	埋没土 1/5	①12.0 ② 7.4 ③ 3.6	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は不定方向ヘラ削り。	
第 138図 14 P L .117	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②11.2 ④11.4	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。	
第 138図 15 P L .117	土師器 甕	28.0cm 口縁部～胴部 上位小片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、胴部上位は横方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 138図 16 P L .117	土師器 甕	27.0cm 口縁部～胴部 上位小片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、胴部上位は縦方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第138図 17 P.L.117	土師器 甕	埋没土 胴部下位～ 底部片	① ② 5.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	胴部下位は斜め方向、底部は不定方向へラ削り。		
第138図 18	土師器 甕	埋没土 胴部下位～ 底部片	① ② 6.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③灰オリーブ色	胴部下位は斜め方向、底部は不定方向へラ削り。		
挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石材	特徴その他	備考
第138図19 P.L.117	石製品 敲石	床面密着	①17.0 ③3.8	②6.2 ④600	粗粒安山岩	上端に弱い敲打痕が認められる。左側面に打ちかけられた痕跡がある。	

28号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第141図 1 P.L.117	須恵器 蓋	埋没土 口縁部小片	①13.8 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は回転へラ削り。内面にカエリをもつ。	8C.前半代	
第141図 2 P.L.117	須恵器 椀	床面密着 1/2	①13.0 ②7.0④7.2 ③ 5.2	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り。高台は貼付。		
第141図 3 P.L.117	須恵器 椀	埋没土 1/3	①15.0 ②7.0④7.8 ③ 5.9	①細砂粒 ②酸化焰 ③浅黄橙色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り。高台は貼付。		
第141図 4 P.L.117	須恵器 椀	床面密着 1/3	① ②6.8④7.2 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り。高台は貼付。		
第141図 5 P.L.117	灰釉陶器 椀	埋没土 1/6	① ②9.0④9.0 ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③淡黄色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部の切り放し技法は回転ナデにより不明。施釉方法は漬け掛けか、内面は全面的に釉薬が付着。		
第141図 6 P.L.117	須恵器 皿	5.0cm 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。		
第141図 7 P.L.117	須恵器 甕	埋没土 口縁部小片	①17.4 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。		
第141図 8 P.L.117	須恵器 羽釜	10.7cm 1/6	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③浅黄橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。胴部は縦方向へラ削り。		
第141図 9 P.L.117	灰釉陶器 長頸壺	埋没土 胴部上位片	① ② ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部は全面的に施釉されているが一部剥落。		
第141図 10 P.L.118	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。胴部は縦方向へラ削り。		
第141図 11 P.L.118	須恵器 甕	12.3cm 底部片	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転は右回り。外面の整形は不鮮明。		
第141図 12 P.L.118	須恵器 羽釜	5.0cm 胴部下位～ 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部は縦方向へラ削り。底部は不定方向へラ削り。		
挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石材	特徴その他	備考
第142図13 P.L.118	石製品 敲石?	床面密着	①14.5 ③4.7	②11.4 ④1100	粗粒安山岩	表面、左側面、裏面に黒煤が付着する。上端に敲打痕、下端に弱い敲打痕が認められる。表、裏面に使用の痕跡がある。	
第142図14 P.L.118	石製品 竈構築材?	床面密着	①16.4 ③7.5	②13.1 ④2600	粗粒安山岩	一辺のみ残存する。割れ口に及ぶ黒煤付着が認められる。	

挿図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 142図15 P L .118	石製品 敲石	床面密着	①14.1 ③4.0	②7.6 ④800	粗粒安山岩	下端欠損。上端に敲打痕が認められる。裏面に黒煤が付着する。	
第 142図16 P L .118	石製品 敲石	埋没土	①13.8 ③3.9	②7.3 ④600	石英閃緑岩	上端及び両側面に敲打痕が認められる。下端に弱い敲打痕あり。表面～右側面には敲打による剥離がある。	

29号住居

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 145図 1 P L .118	土師器 杯	埋没土 1/5	①10.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部にかけてはへら削り。口縁部横ナデ下に僅かに無調整部分が残る。	
第 145図 2 P L .118	土師器 杯	埋没土 1/4	①11.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部にかけてはへら削り。口縁部横ナデ下に僅かに無調整部分が残る。	
第 145図 3	土師器 杯	埋没土	①11.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向へら削り。	
第 145図 4 P L .118	土師器 杯	4.0～6.0 3/4	①12.0 ② 9.2 ③ 3.7	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は無調整。底部は不定方向へら削り。	
第 145図 5 P L .118	土師器 杯	6.0～14.5 4/5	①11.4 ② ③ 3.6	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口唇部は横ナデ、口縁部から底部にかけては不定方向へら削り。口唇部下に無調整部分が部分的に残る。	
第 145図 6	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①11.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位以下は横方向へら削り。	
第 145図 7 P L .118	土師器 杯	埋没土 1/2	①12.4 ② ③ 3.9	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部にかけては不定方向へら削り。口縁部横ナデ下に無調整部分が僅かに残る。	
第 145図 8	土師器 杯	埋没土	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、底部はへら削り。	
第 145図 9	土師器 杯	6.0cm 1/4	①12.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部にかけてはへら削り。口縁部横ナデ下に僅かに無調整部分と指頭痕が見られる。	
第 146図 10 P L .118	土師器 杯	埋没土	①13.0 稜径12.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへら削り。	
第 146図 11 P L .118	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ。	
第 146図 12 P L .118	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへら削り。	
第 146図 13 P L .118	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に稜をもち、口縁部に2条の凹線が巡る。口縁部は横ナデ、底部はへら削り。	
第 146図 14 P L .118	土師器 杯	埋没土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへら削り。	
第 146図 15 P L .118	土師器 杯	26.5cm 1/2	①11.6 ② ③ 4.0	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ。口縁部は横方向のへら削り、底部は不定方向のへら削り。	
第 146図 16 P L .118	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位が無調整、下位はへら削り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第146図 17	土師器 杯	埋没土	①16.4 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位は横方向のヘラ削り。	
第146図 18 P.L.118	土師器 杯	埋没土 1/5	①13.0 稜径11.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向ヘラ削り。内面はヘラ研磨。	内面赤灰色
第146図 19 P.L.118	土師器 杯	埋没土	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第146図 20 P.L.118	土師器 杯	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	底部はヘラ削り。	底部内面に「+」の刻書
第146図 21 P.L.119	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②軟質 ③橙色	口縁部外面は格子状のヘラ研磨、内面は横方向のハケ目。	22、30住と接合
第146図 22 P.L.119	須恵器 蓋	17.0cm 摘欠	①8.8 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。摘は貼付であるが剥落。天井部は周辺部を除いて回転ヘラ削り。	
第146図 23 P.L.119	須恵器 蓋	埋没土 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	内面に身受けのカエリをもつ。ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中央部分は回転ヘラ削り。	
第146図 24 P.L.119	須恵器 杯	埋没土 1/4	①11.0 ②8.0 ③3.8	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は不定方向のヘラ削り。	
第146図 25 P.L.119	須恵器 杯?	埋没土 口縁部小片	①11.4 ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	口縁部外面横位に「++」の刻書
第146図 26 P.L.119	須恵器 杯	埋没土 1/5	①13.0 ②9.0 ③3.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部の最下位に一段の回転ヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第146図 27 P.L.119	須恵器 碗	21.0~26.5 1/4	①17.0 ②12.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。高台は貼付であるが剥落。	
第146図 28 P.L.119	須恵器 盤	埋没土 口縁部小片	①28.0 ②25.6 ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。内外面の整形は器面が剥落しているため不鮮明であるが底部は回転ヘラ削り。	
第146図 29 P.L.119	須恵器 高台盤	埋没土 底部片	① ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。杯身底部は回転ヘラ削り。杯身と脚部の接合面は凹凸を施している。	
第146図 30 P.L.119	須恵器 高杯	3.0cm 脚部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第146図 31 P.L.119	須恵器 長頸壺	埋没土 底部片	① ②11.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。高台は貼付。	
第146図 32	土師器 甕	埋没土 口縁部小片	①11.4 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい赤橙色	口縁部は横ナデ。	
第147図 33 P.L.119	土師器 甕	2.0cm 口縁部へ胴部上位片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部から頸部は横ナデ。胴部は縦方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第147図 34 P.L.119	土師器 甕	6.0cm 口縁部片	①21.8 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向ヘラ削り。	
第147図 35	土師器 甕	17.0cm 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ。胴部上位はヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考	
第 147図 36	土師器 甕	床面密着 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③淡赤橙色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ。 胴部上位はヘラ削り。		
第 147図 37 P L .119	土師器 甕	2.0~6.0 口縁部片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ。 胴部上位はヘラ削り。		
第 147図 38 P L .119	土師器 甕	埋没土 口縁部片	①20.6 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向ヘラ削り。		
第 147図 39 P L .119	土師器 甕	3.0cm 口縁部~胴 部中位片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ。胴部はヘラ削り、内面 はヘラナデ。		
第 147図 40 P L .119	須恵器 甕	54.0cm 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。		
第 147図 41 P L .119	土師器 甕	1.5~26.5 口縁部~胴 部中位片	①18.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ。胴部は横方向ヘラ削り、 内面はヘラナデ。		
第 147図 42 P L .119	土師器 甕?	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	甕底部の孔か。		
第 148図 43	須恵器 甕	70.0cm 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	胴部外面は平行叩き、内面は同心円状のあて具痕 が残る。		
第 148図 44 P L .120	須恵器 甕	埋土・掘方 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部は凹線で区 画され、その中に波状文が施されている。		
第 148図 45 P L .120	須恵器 椀	埋没土 1/8	①11.6 ② 6.6 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部の切り放し技 法は高台貼付時のナデのため不明。		
第 148図 46 P L .120	須恵器 羽釜	埋没土 底部片	① ② 7.0 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転は右回りか。胴部は縦方向ヘラ 削り。	内面灰褐色	
第 148図 47 P L .120	須恵器 羽釜	埋没土	① ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。		
挿図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 148図48 P L .120	石製品 敲石	床面密着	①19.3 ③4.8	②6.9 ④900	変質安山岩	両端に弱い敲打痕が認められる。表面及び 裏面に擦痕あり。	
第 148図49 P L .120	石製品 敲石	2.0cm	①10.9 ③2.7	②6.6 ④300	粗粒安山岩	上端一部欠損。両端に敲打痕があり、下端 には幅広く認められる。	
第 148図50 P L .120	石製品 敲石	床面密着	①12.5 ③5.0	②7.8 ④600	珩質変質岩	下端に敲打痕が認められる。	
第 148図51 P L .120	石製品 敲石	7.0cm	①10.8 ③6.0	②7.8 ④850	粗粒安山岩	上端に敲打痕が認められる。裏面に鋭利な 工具による条線が6本みられる。	
第 148図52 P L .120	石製品 敲石	2.0cm	①9.8 ③5.0	②5.2 ④400	ひん岩	下端に敲打痕、上端に弱い敲打痕が認めら れる。	
第 148図53 P L .120	石製品 敲石	床面密着	①11.2 ③4.3	②10.5 ④800	珩質変質岩	下端に敲打痕が認められ、裏面に使用の痕 跡がある。	
第 149図54 P L .120	石製品 敲石	床面密着	①18.9 ③5.4	②9.3 ④1750	ひん岩	上端に敲打痕が認められる。下端の角、右 側面角にも弱い敲打痕がある。	
第 149図55 P L .120	石製品 擦石	床面密着	①12.2 ③4.9	②12.3 ④1000	粗粒安山岩	表及び側面で自然面の目が著しくつぶれて おり、使用の痕跡が認められる。	
第 149図56 P L .120	石製品 敲石	1.5cm	①20.0 ③3.1	②5.2 ④400	頁岩	両端に敲打痕が認められ、共に著しい剥離 がある。	
第 149図57 P L .120	石製品 敲石	床面密着	①11.9 ③3.8	②8.1 ④500	ひん岩	上・下端及び右側面頂部に敲打痕が認めら れる。裏面に使用の痕跡がある。	

挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 149図58 P L .120	石製品 砥石?	床面密着	①10.6 ③2.9	②8.1 ④400	粗粒安山岩	表に3ヶ所、裏に2ヶ所、鋭利な工具の痕跡がある。	
第 149図59 P L .120	石製品 擦石?	2.0cm	①6.5 ③5.0	②5.5 ④250	粗粒安山岩	上端に使用の痕跡が認められる。	
第 149図60 P L .120	石製品 敲石	床面密着	①10.9 ③3.2	②6.3 ④300	頁岩	両端に敲打痕が認められる。上端に使用による剥離が著しい。	
第 149図61 P L .120	石製品 敲石	35.0cm	①14.0 ③8.4	②13.1 ④2000	変質玄武岩	上端に敲打痕が認められる。	
第149図62 P L .120	石製品 擦石	床面密着	①13.2 ③5.5	②14.4 ④1500	粗粒安山岩	表面に使用の痕跡が認められる。	
第149図63 P L .120	石製品 擦石	床面密着	①8.2 ③4.7	②8.1 ④400	粗粒安山岩	表、裏面に使用の痕跡が認められ、特に表では自然面の目のつぶれが全域に広がる。	

30号住居

挿図番号 図版番号	種類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 153図 1 P L .121	土師器 杯	埋没土 1/4	①10.0 ② ③ 2.9	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位から底部はヘラ削り。	
第 153図 2	土師器 杯	埋没土 1/6	①11.0 ② ③ 2.6	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部は不定方向のヘラ削り、下半には無調整部分が一部残る。	
第 153図 3 P L .121	土師器 杯	38.5cm 2/3	①10.4 ② ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位は横方向のヘラ削り、下位から底部は不定方向のヘラ削り。	
第 153図 4 P L .121	土師器 杯	埋没土 1/3	①10.6 ② ③ 3.4	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位・下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 153図 5 P L .121	土師器 杯	埋没土 2/3	①11.0 ② ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位・下位は横方向のヘラ削り、内面の上半に回転によるヘラ先痕が見られる。	
第 153図 6 P L .121	土師器 杯	埋没土 1/5	①10.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位は横方向のヘラ削り、下位から底部は不定方向のヘラ削り。	
第 153図 7	土師器 杯	6.5cm 1/5	①11.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 153図 8 P L .121	土師器 杯	埋没土 1/3	①11.4 ② ③ 4.0	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位から底部は不定方向のヘラ削り。	
第 153図 9 P L .121	土師器 杯	埋没土 1/3	①11.6 ② ③ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位から底部はヘラ削り。	内面橙色
第 153図 10	土師器 杯	埋没土 1/6	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 153図 11 P L .121	土師器 杯	50.1cm 1/6	①12.0 ② ③ 3.0	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 153図 12 P L .121	土師器 杯	埋没土 1/8	①12.0 稜径11.6 ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、稜は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 153図 13 P L .121	土師器 杯	埋没土 1/8	①12.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部はヘラ削り。	
第 153図 14 P L .121	土師器 杯	6.5cm 1/4	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 153 図 15 P L . 121	土師器 杯	埋没土 1/6	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位から底部はヘラ削り。	
第 153 図 16 P L . 121	土師器 杯	掘り方埋土 1/8	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。外面の口縁部から底部の一部と内面の口唇部の一部に漆が付着する。	
第 153 図 17 P L . 121	土師器 杯	埋没土	①13.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部から底部はヘラ削り。	
第 153 図 18 P L . 121	土師器 杯	25.8~37.0 3/4	①14.0 ② ③4.9	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位が無調整、下位は横方向のヘラ削り、底部は一定方向のヘラ削り。内面に煤が付着。	
第 153 図 19 P L . 121	土師器 杯	埋没土	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。	
第 153 図 20 P L . 121	土師器 杯	埋没土 1/4	①13.0 ② 4.1 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	内面は黒色処理。口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、稜下から底部はヘラ削り。内面はヘラ研磨。	
第 153 図 21 P L . 121	土師器 杯	17.0cm 2/3	①10.2 ② ③ 5.1	①細砂粒 ②良好 ③橙色	内面は黒色処理。口縁部は上半が横ナデ、下半はヘラ削り後ヘラ研磨、底部はヘラ削り。内面は口縁部が横方向、底部は不定方向のヘラ研磨。	
第 153 図 22 P L . 121	土師器 杯	46.5cm ほぼ完形	①14.4 ② ③ 5.4	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	内面は黒色処理。口縁部は上半が横ナデ、下半から底部はヘラ削り。内面は全面的にヘラ研磨。	
第 153 図 23 P L . 121	須恵器 杯蓋	埋没土 1/2	① 9.4 摘径1.5 ③ 2.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。摘は貼付、天井部の中央部は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 153 図 24 P L . 121	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は口唇部を除き回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 154 図 25 P L . 122	須恵器 杯蓋	埋没土 1/6	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。摘は貼付か。天井部の中心部は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 154 図 26 P L . 122	須恵器 杯蓋	12.5cm ほぼ完形	①13.8 摘径5.0 ③ 2.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は右回り。摘は偏平で貼付。天井部の中心部は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 154 図 27 P L . 122	須恵器 蓋	35.1cm 1/4	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黒色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中心部は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 154 図 28 P L . 122	須恵器 杯	床面密着 3/4	① 9.7 ② 7.6 ③ 3.2	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 154 図 29 P L . 122	須恵器 鉢	埋没土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③浅黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。体部は回転ヘラ削り。	
第 154 図 30 P L . 122	須恵器 鉢	26.0cm 1/4	① ②11.4 ④11.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部はヘラ切り後回転ヘラ削り、高台は貼付。	
第 154 図 31 P L . 122	須恵器 短頸壺	埋没土 口縁部~胴部上位小片	①10.0 胴部最大径 12.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 154 図 32	須恵器 短頸壺	掘り方埋土 口縁部~胴部上位小片	胴部最大径 10.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 154 図 33 P L . 122	須恵器 長頸壺	26.0cm 頸部小片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。頸部下位に接合痕が見られる。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 154図 34 P L .122	須恵器 長頸壺	埋没土 頸部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。頸部中程に凹線が2条巡る。内面に自然釉が付着。		
第 154図 35 P L .122	須恵器 長頸壺	埋没土 脚部小片	① ② ④12.0 ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。		
第 154図 36 P L .122	須恵器 高台盤	埋没土 脚部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。脚部と杯身の接合部にカキ目状の凹線が見られる。		
第 154図 37 P L .122	土師器 甕	8.0~12.5 口縁部~胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 154図 38 P L .122	土師器 甕	1.4~8.0cm 口縁部~胴 部上位片	①22.0 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 154図 39 P L .122	土師器 台付甕	50.5cm	① ② 5.7 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	胴部下位はヘラ削り、内面はヘラナデ。		
第 154図 40 P L .122	土師器 台付甕	埋没土 台部片	① ② ④9.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	台部は上半が横方向のヘラ削り、下半は横ナデ。		
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石材	残存状態及び特徴	備考
第 154図41 P L .122	鉄器 鉄鏃	埋没土	①残6.5 ③0.4	②0.6・0.5 ④4.79		刃部、頸部~茎欠損。鏃身関部が僅かに残る。茎に近いほど厚みを増す。	
第 154図42 P L .122	鉄器 角釘	埋没土	①残4.0 ③0.4	②0.4 ④2.39		両端欠損。上半は良く残り下半は錆による剥離で細くなる。	
第 154図43 P L .122	鉄器 角釘	埋没土	①残3.5 ③0.3	②0.4 ④1.37		下端欠損。部分的に錆による剥離はあるものの全体的に残存状態は良い。	
挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石材	特徴その他	備考
第 155図44 P L .122	石製品 こもあみ石	4.0cm	①9.1 ③3.1	②7.1 ④350	ひん岩	中位~上位にかけて摩耗様の使用の痕跡が認められる。	
第 155図45 P L .122	石製品 こもあみ石	4.0cm	①7.6 ③3.8	②4.9 ④200	粗粒安山岩	裏面に使用の痕跡の可能性はある。	
第 155図46 P L .122	石製品 敲石	床面密着	①12.9 ③3.9	②6.6 ④500	粗粒安山岩	両端に敲打痕及び表~裏面にかけて使用の痕跡が認められる。黒煤が付着する。	
第 155図47 P L .122	石製品 擦石	6.5cm	①11.6 ③5.8	②10.4 ④1100	流紋岩質凝灰岩	裏面に使用の痕跡が認められる。	
第 155図48 P L .122	石製品 敲石	床面密着	①14.0 ③4.3	②7.2 ④800	溶結凝灰岩	上端に敲打痕があり一部剥離している。表裏に使用の痕跡が認められる。	
第 155図49 P L .123	石製品 こもあみ石	床面密着	①15.0 ③4.5	②8.8 ④650	粗粒安山岩	自然面を残さない割れ石。	
第 155図50 P L .123	石製品 こもあみ石	床面密着	①9.4 ③4.2	②11.5 ④400	粗粒安山岩	自然面を表の一部にのみ残す割れ石。	
第 155図51 P L .123	石製品 擦石?	床面密着	①10.8 ③5.4	②10.1 ④750	粗粒安山岩	両端に弱い使用の痕跡が認められる。	
第 155図52 P L .123	石製品 擦石?	2.0cm	①12.1 ③4.4	②7.55 ④650	粗粒安山岩	表裏に使用の痕跡が認められる。	
第 155図53 P L .123	石製品 擦石?	床面密着	①14.8 ③7.9	②13.3 ④2300	流紋岩	表裏に使用の痕跡が認められる。	
第 156図54 P L .123	石製品 こもあみ石	床面密着	①10.1 ③4.2	②7.5 ④450	ひん岩	下端に敲打痕がみられる。	
第 156図55 P L .123	石製品 こもあみ石	4.0cm	①7.6 ③6.15	②9.4 ④650	粗粒安山岩	2条の浅い条線が認められる。	
第 156図56 P L .123	石製品 敲石?	1.6cm	①7.0 ③5.05	②6.8 ④350	珪質頁岩	一部に敲打の剥離があり、裏に条線が3ヶ所みられる。	

挿図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 156図57 P L .123	石製品 擦石	床面密着	①7.4 ③3.65	②6.8 ④250	粗粒安山岩	表裏に使用の痕跡の可能性ある。	

33号住居

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 158図 1 P L .123	土師器 杯	埋没土 1/4	①11.2 ② ③ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 158図 2 P L .123	土師器 杯	埋没土 1/8	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 158図 3 P L .123	土師器 杯	43.5cm 1/3	①13.0 ② ③ 3.4	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位・下位はヘラナデのような整形、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 158図 4 P L .123	土師器 杯	37.0cm 3/4	①14.8 ② ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 158図 5 P L .123	土師器 杯	埋没土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。内面は口縁部に斜格子状暗文。	
第 158図 6 P L .124	土師器 杯	40.0cm 1/3	①13.6 ② 9.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部が放射状、底部は螺旋状暗文。	
第 158図 7 P L .123	土師器 杯	37.0cm 口縁部の一部を欠	①13.8 ② ③ 4.2	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部が放射状、底部は螺旋状暗文。	内面口縁部に「卍」のヘラ描き
第 158図 8 P L .124	土師器 杯	55.0cm 1/2	①14.2 ② 8.4 ③ 4.5	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位・下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部、底部とも放射状暗文。	
第 158図 9	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 7.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	内面黒色
第 158図 10 P L .123	土師器 杯	埋没土 小片	①15.0 ② 8.0 ③ 4.3	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位・下位は横方向のヘラ削り、底部はヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。	
第 158図 11 P L .124	須恵器 椀	埋没土 口縁部下半 ～底部片	① ②6.2④6.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部の切り出し技法は高台貼付時のナデのため不明。	
第 158図 12 P L .123	須恵器 杯	4.0cm 1/3	①15.8 ②11.0 ③ 3.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ切り。	
第 158図 13 P L .124	須恵器 盤	81.0cm 口縁部片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部から口縁部下半は回転ヘラ削り。	
第 158図 14	須恵器 蓋	埋没土 口縁部小片	①17.5 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 158図 15 P L .124	須恵器 長頸壺	30.0cm 頸部～胴部 片	頸部径11.0 ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。頸部と胴部の接続は2段構成。	
第 159図 16 P L .124	須恵器 長頸壺	69.0cm 頸部～胴部 片	頸部径6.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。頸部と胴部の接続は2段構成。	
第 159図 17	須恵器 長頸壺	91.0cm 頸部～胴部 小片	頸部径7.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。頸部と胴部の接続は2段構成。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 159 図 18 P L . 124	土師器 甕	82.5cm 口縁部～胴 部上位片	①13.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、 胴部上位は横方向のヘラ削り。	
第 159 図 19 P L . 124	土師器 甕	埋没土 口縁部片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、 胴部上位は横方向のヘラ削り。	
第 159 図 20	土師器 甕	66.5cm 口縁部～胴 部上位片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、 胴部上位は横方向のヘラ削り後、縦方向のヘラ削 り。	
第 159 図 21 P L . 124	土師器 甕	17.5～55.0 口縁部～胴 部中位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、 胴部上位は横方向、中位は斜め方向のヘラ削り。 内面胴部はヘラナデ。	
第 159 図 22 P L . 124	土師器 甕	55.0～61.5 口縁部～胴 部上位片	①23.3 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、 胴部上位は横方向のヘラ削り。	
第 159 図 23 P L . 124	土師器 甕	35.0～47.0 口縁部～胴 部中位片	①21.6 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	
第 159 図 24 P L . 124	土師器 甕	27.0～71.0 口縁部～胴 部下位片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上位が横方向、 中位から下位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘ ラナデ。	
第 159 図 25 P L . 125	土師器 甕	56.0cm 胴部下位片	① 4.4 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向の ヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 159 図 26 P L . 125	土師器 甕	埋没土 胴部下位片	① ② 5.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下位は縦方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 160 図 27 P L . 125	土師器 甕	1.0～42.0 胴部片	胴部径32.2 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部は上位が斜め方向、中位から下位が横方向の ヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面胴部 はヘラナデ。	
第 160 図 28 P L . 125	土師器 甕	27.0～35.0 胴部下位片	① ② 5.0 ③	①粗砂粒 ②良好 ③赤褐色	胴部は下位が縦方向、最下位は横方向のヘラ削り。 内面はヘラナデ。	
第 160 図 29 P L . 125	土師器 甕	35.0cm 底部片	① ② 4.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部最下位は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向 のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 160 図 30 P L . 125	須恵器 甕	81.0cm 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部に凸帯が 2 条巡る。口縁部は区画凹線内に波状文を 3 段 + α 施 文。	
第 160 図 31	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部に凹線が 1 条巡る。	
第 160 図 32	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部に凸帯を 1 条貼付。	
第 160 図 33 P L . 125	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	①16.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 160 図 34 P L . 125	須恵器 壺類	57.0cm 胴部下位片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。高台は貼付、胴部 下位は回転ヘラ削り。	
第 160 図 35 P L . 125	須恵器 甕	埋没土 胴部下位片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部最下位は回転 ヘラ削り。	
第 160 図 36 P L . 125	須恵器 甕	21.0～53.0 口縁部～胴 部片	①34.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部に凹線が 1 条巡る。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第161図 37	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③赤褐色	内面黒色処理。外面の整形は器面剥落のため不明。 内面は口縁部が横方向のヘラ研磨。		
第161図 38 P.L.125	須恵器 杯	60.0cm 1/3	①12.4 ②7.0 ③3.6	①粗砂粒 ②酸化焙ぎみ ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。		
挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石材	特徴その他	備考
第161図39 P.L.125	石製品 砥石	埋没土	①11.3 ③3.5	②5.35 ④850	砥沢石	上端欠損。小口も内湾する。表裏左右の面を研ぎ面としている。左右側面及び小口に幾条もの刃物の条線がある。	
第161図40 P.L.125	石製品 擦石	43.5cm	①9.0 ③6.2	②8.8 ④700	粗粒安山岩	表裏に使用の痕跡が認められ、裏面に著しい。	
第161図41 P.L.125	石製品 台石?	47.0cm	①28.3 ③8.7	②11.8 ④2600	角閃石安山岩	舟形を呈し、表は平坦となる。上位に円形の僅かな窪みがある。削り痕跡が僅かに残る。	
第161図42 P.L.126	石製品 砥石	54.5cm	①7.3 ③2.8	②4.6 ④100	砥沢石	上端の一部残存。残存部分では表、左側面を研ぎ面に使用している。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴		備考
第161図43 P.L.126	銅製品 鈴	5.5cm	①5.5 ③4.0	②3.8 ④68.33	完形。八稜形をなし鈴全体と鈕は一体で鑄造している。蠟型鑄造である。腹部は2条の隆起した帯が巡り、口は長方形を呈し縁が一段肥厚する。肥厚する幅は八稜の一辺の長さ等に等しい。上半部では鈕を挟んで両側に型もちに使用した釘の小孔があく。		
第161図44 P.L.126	鉄器 鉄鏃	埋没土	①2.5 ③0.2	②1.7 ④2.00	鏃身破片で刃部の状態は悪い。		
第161図45 P.L.126	鉄器 角釘	埋没土	①4.3 ③0.4	②0.5 ④1.89	両端欠損。残存部の状態は良い。		
図版番号	出土位置	動物名	部位	長さ×幅(厚)	特徴		
(33046)	埋没土	シカ	角片	*26.6×15.0	焼骨。同一の角が崩壊したもの。		
(33047)	14.0cm	ウマカウシ(?)	肢骨片	*52.0×31.0	半生?骨片多数。後世のものとの可能性あり。		
(33048)	31.0cm	シカ	角片	*28.6×24.0	焼骨。角片多数。		

41号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第167図 1 P.L.126	土師器 杯	埋没土 1/4	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半の整形は不鮮明、底部はヘラ削りであるが単位・方向は不明。	
第167図 2 P.L.126	土師器 杯	埋没土 1/5	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 3 P.L.126	土師器 杯	埋没土 1/5	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 4 P.L.126	土師器 杯	埋没土 1/3	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、一部に無調整が残り、無調整に指ナデ、下半から底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 5 P.L.126	土師器 杯	59.0cm 1/4	①11.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 6 P.L.126	土師器 杯	93.0cm 1/3	①11.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、横ナデ下に無調整が残る。下半は横方向のヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第167図 7 P.L.126	土師器 杯	32.5cm 1/2	①11.4 稜径10.6 ③3.5	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 8 P.L.126	土師器 杯	110.0cm 1/4	①11.0 稜径10.6 ③3.6	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 9 P.L.126	土師器 杯	44.0cm 1/3	①11.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位・下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 10 P.L.126	土師器 杯	49.5～132 1/4	①11.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 11 P.L.126	土師器 杯	竈・埋没土 1/2	①11.4 稜径11.0 ③3.7	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	33住埋土と接合
第167図 12 P.L.126	土師器 杯	埋没土 ほぼ完形	①11.3 稜径10.2 ③3.3	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 13 P.L.126	土師器 杯	埋没土 1/4	①12.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、稜下に無調整が残る、底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 14 P.L.126	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①13.4 稜径12.8 ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③にぶい褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第167図 15 P.L.126	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第167図 16 P.L.126	土師器 杯	46.0cm 1/3	①11.0 ② ③4.3	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部と底部はヘラ削りであるが単位・方向は不鮮明。	
第167図 17 P.L.127	土師器 杯	22.0～57.0 2/3	①12.5 ② ③4.7	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 18 P.L.127	土師器 杯	21.0cm 1/2	①12.8 ② ③4.7	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は上半が横方向のヘラ削り、下半から底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 19 P.L.127	土師器 杯	埋没土 1/2	①14.0 ②4.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部から底部は横方向のヘラ削り。	
第167図 20 P.L.127	土師器 杯	68.0cm 1/4	①14.5 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第167図 21 P.L.127	土師器 杯	竈掘り方 1/4	①14.0 ② ③3.4	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	33住埋土と接合
第167図 22 P.L.127	須恵器 杯蓋	70.5cm 1/6	①10.4 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。天井部は口唇部を除いて回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第167図 23 P.L.127	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ②9.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	
第167図 24 P.L.127	土師器 甕	35.0～72.0 口縁部～胴部上位片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第167図 25 P.L.127	土師器 甕	18.5cm 口縁部～胴部上位片	①18.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③暗赤褐色	口縁部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第168図 26 P.L.127	土師器 甕	7.5cm 3/4	①20.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部に輪積痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部は斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第168図 27 P.L.127	土師器 甕	7.5cm 1/4	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第168図 28 P.L.127	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 上位片	①16.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第168図 29 P.L.127	土師器 甕	67.0cm 底部～胴部 下位片	① ② 5.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第168図 30 P.L.127	須恵器 甕	99.0cm 口縁部片	①26.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部に平行叩き痕が僅かに残る。内面に自然釉が付着。	
第168図 31 P.L.128	土製品 鞆羽口	24.0cm 先端部片	外径6.8 内径2.3 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③橙色	外面はヘラ削りか。先端部の溶解炉の内面に接する部分は紫赤色のアメ状に溶解する。	
第168図 32 P.L.128	須恵器 椀	91.0cm 底部片	① 9.0 ② 8.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部の切り放し技法は高台貼付時のナデ等により不明。	
図版番号	出土位置	動物名	部位	長さ×幅(厚)	特徴	
PL.128 33	竈	シカ	前肢末節骨遠位半片	23.2×15.1	焼骨。	(41035)
PL.128 34	竈	シカ	種子骨	16.2×7.1	焼骨。	(41036)
PL.128 35	竈	シカ	中節骨近位端	15.4+	焼骨。	(41037)
PL.128 36	竈	シカ	基節骨遠位端		焼骨。	(41038)
PL.128 37	竈	シカ	基節骨遠位端	21.1×8.8	焼骨。	(41039)
PL.128 38	竈	ノウサギ	距骨	12.2	焼骨。	(41040)
(41041)	床面密着	ウマカウシ	骨片	23.9×19.9	焼骨(?)。細骨片。	
(41042)	竈			25.5×9.3	焼骨片。	
PL.128 39	2号竈	シカ	中節足近位骨端	33.5×19.0	焼骨。骨端離脱。	(41043)
PL.128 40	竈	イノシシ	左上腕骨大結節片	35.0×27.0	焼骨。	(41044)
(41045)	竈	シカ	脛骨(?)片など	*25.0×13.2	焼骨。細骨片16片。	
PL.128 41	13.5cm	イノシシ	左尺骨半月切痕付近	51.1×13.7	焼骨。	(41046)
(41047)	竈	トリ	指骨(?)		焼骨。骨片2片。保存良好。	分析No21
(41048)	竈				焼骨。骨片3片。	分析No21
(41049)	竈	中型鳥類	中節骨		焼骨。	分析No21
(41050)	竈	トリなど	中節骨近位端など		焼骨。細骨片10数片。	分析No21
(41051)	竈	中動物	肢骨片など		焼骨。骨片3片。	分析No22

34号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第176図 1 P.L.128	土師器 杯	竈掘り方 1/4	①12.0 ②10.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部はヘラ削り、口縁部下半にヘラ先痕が見られる。	埋土と接合
第176図 2	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② 9.0 ③ 3.0	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部はヘラ削り。	
第176図 3	須恵器 杯	竈埋没土 底部片	① ② 8.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り後中程に不定方向のヘラ削り。	
第176図 4 P.L.128	須恵器 杯	9.3cm 1/4	①12.0 ② 4.6 ③ 3.8	①細砂粒 ②還元焰 ③明赤褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 176図 5	須恵器 杯	埋土・掘方 底部	① ② 6.2 ③	①細砂粒 ②還元焰燻焼成 ③橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 6 P L .128	須恵器 杯	埋土・掘方 底部片	① ② 5.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 7 P L .128	須恵器 杯	埋没土 底部	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 8 P L .128	須恵器 杯	埋没土 底部	① ② 6.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 9	須恵器 杯	埋没土 底部	① ② 6.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 10	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 5.6 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 11	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 7.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 12	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 6.8 ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 13 P L .128	須恵器 杯	-10.0cm 2/3	①12.6 ② 5.0 ③ 3.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 14 P L .128	須恵器 杯	-13.5cm 完形	①14.0 ② 6.5 ③ 3.7	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 15 P L .128	須恵器 杯	埋土・掘方 1/2	①13.6 ② 6.2 ③ 4.0	①細砂粒 ②還元焰燻焼成 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 16 P L .128	須恵器 杯	埋没土 1/4	①13.8 ② 6.0 ③ 3.9	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 17 P L .128	須恵器 杯	竈・埋没土 1/8	①13.6 ② 5.8 ③ 3.6	①細砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転糸切り。	
第 176図 18 P L .128	須恵器 杯	埋土・掘方 1/2	①14.0 ② 6.2 ③ 3.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 19 P L .128	須恵器 杯	埋土・掘方 1/3	①14.0 ② 6.5 ③ 4.2	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 177図 20 P L .128	須恵器 杯	竈・埋没土 1/4	①13.0 ② 4.8 ③ 4.2	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 177図 21 P L .128	須恵器 杯	埋没土 1/4	①13.0 ② 6.0 ③ 4.3	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 177図 22 P L .128	須恵器 杯	掘り方埋土 1/4	①12.9 ② 5.6 ③ 4.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 177図 23 P L .129	須恵器 杯	2.5cm 1/4	①14.0 ② 6.5 ③ 4.2	①粗砂粒 ②やや酸化焰ぎみ ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第177図 24	須恵器 椀	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第177図 25 P.L.129	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①粗砂粒 ②還元焰やや軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第177図 26 P.L.129	須恵器 椀	床面密着 1/4	①15.2 ②6.5④6.5 ③5.2	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。高台は貼付。	
第177図 27 P.L.129	須恵器 椀	2.5cm 1/2	①14.0 ②6.2④6.2 ③4.5	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。 高台は貼付。	
第177図 28 P.L.129	須恵器 椀	埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰オリーブ色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第177図 29 P.L.129	須恵器 椀	埋土・掘方 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。体部下半の一部に ヘラナデ。	
第177図 30 P.L.129	須恵器 杯	27.8cm 3/4	①14.5 ②6.0④5.8 ③5.3	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。 高台は削り出し？	
第177図 31 P.L.129	須恵器 椀	2.0cm 1/2	①15.6 ②7.2 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、 高台は剥落しているが貼付。	底部外面に 「宅」の墨書
第177図 32 P.L.129	須恵器 椀	竈・埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	口縁部外面 逆位に「王代」の刻書
第177図 33 P.L.129	須恵器 椀	埋没土 1/3	①15.6 ②8.4④8.6 ③4.9	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、 高台は貼付。	
第177図 34 P.L.129	須恵器 杯	16.8cm 底部	① ②5.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第177図 35 P.L.129	須恵器 椀	埋土・掘方 口縁部片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第178図 36 P.L.129	須恵器 椀	埋土・掘方 1/5	① ②8.0④7.6 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③明赤褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、 高台は貼付。	
第178図 37 P.L.130	須恵器 椀	埋土・掘方 1/2	① ②6.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③浅黄橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、 高台は剥落しているが貼付。	
第178図 38	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②6.6④6.8 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③褐灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、 高台は貼付。	
第178図 39	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②6.6④6.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、 高台は貼付。	
第178図 40	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②6.6④6.2 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、 高台は貼付。	
第178図 41	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②6.8④6.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、 高台は貼付。	
第178図 42 P.L.130	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②7.0④7.6 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転糸切り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 178 図 43 P L .130	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②6.0④5.8 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転糸切り。	
第 178 図 44	須恵器 椀	一括 底部片	① ②7.6④8.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 178 図 45	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②7.0④7.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 178 図 46 P L .130	須恵器 椀	竈 底部片	① ②6.0④6.2 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 178 図 47	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②7.8④7.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 178 図 48	須恵器 椀	埋没土 体部下半片	① ② 6.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転糸切り、高台は貼付であるが剥落している。	
第 178 図 49	須恵器 椀	竈・竈掘方 底部片	① ②6.0④6.4 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部の切り出し技法は不明、高台は貼付。	
第 178 図 50	須恵器 椀	埋没土 底部	① ②7.0④6.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 178 図 51	須恵器 椀	竈・埋没土 底部	① ②7.6④6.4 ③	①細砂粒 ②還元焰燻焼成 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 178 図 52	須恵器 椀	埋没土 底部	① ②8.2④7.6 ③	①細砂粒 ②還元焰燻焼成 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 178 図 53	須恵器 椀	6.5cm 底部	① ②7.8④7.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 179 図 54 P L .130	須恵器 椀	7.6cm 底部	① ②6.8④7.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 179 図 55	須恵器 椀	5.0cm 底部片	① ② 6.6 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付であるが剥落している。	
第 179 図 56 P L .130	須恵器 椀	埋没土 底部	① ②6.2④6.8 ③	①細砂粒 ②酸化焰ぎみ ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 179 図 57 P L .130	須恵器 椀	埋没土 底部	① ②7.2④7.4 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 179 図 58 P L .130	須恵器 椀	埋没土 1/8	①14.4 ②8.2④8.2 ③ 4.3	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部の切り出し技法は不明、高台は貼付。	
第 179 図 59 P L .130	須恵器 皿	埋没土 1/6	①13.6 ②6.0④5.8 ③ 2.9	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 179 図 60 P L .130	須恵器 皿	-18.7cm 口縁部の一 部を欠	①13.4 ②7.0④7.0 ③ 2.5	①細砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 179 図 61 P L .130	灰釉陶器 椀	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③褐灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。施釉範囲は内面口縁部上半、施釉方法は不明。釉調はやや透明感のある緑灰色。	

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 179 図 62 P L .130	灰釉陶器 椀	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①緻密 ②還元焰緻密 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部下位は回転ヘラ削り。施釉方法はハケ塗りか、釉調はやや透明感のある緑灰色。	
第 179 図 63 P L .130	灰釉陶器 椀	埋没土 口縁部片	①16.2 ② ③	①緻密 ②還元焰緻密 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。施釉方法はハケ塗り、釉調は透明感のない灰色。	
第 179 図 64 P L .130	灰釉陶器 椀	埋没土 口縁部片	①13.4 ② ③	①緻密 ②還元焰緻密 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。施釉範囲は内面口縁部、施釉方法は不明。釉調は透明感のある緑灰色。	
第 179 図 65 P L .130	灰釉陶器 椀	埋没土 口縁部小片	①14.4 ② ③	①緻密 ②還元焰緻密 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。施釉範囲は内外面、施釉方法は不明。釉調はやや透明感のある灰色。	
第 179 図 66 P L .130	灰釉陶器 長頸壺	床面密着 胴部片	胴部径17.2 ② ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下半は回転ヘラ削り。施釉方法は不明。釉調は透明感のある緑灰色。	
第 179 図 67	土師器 甕	竈・埋没土 口縁部～胴部上位片	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 179 図 68 P L .130	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	①11.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部に輪積痕が残る。口唇部に凹線が1条巡る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 179 図 69	陶器 瓶類	埋没土 把手片	① ② ③	①細砂粒 ②酸化焰ぎみ ③にぶい褐色	器面はヘラナデ。	
第 179 図 70 P L .130	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 179 図 71 P L .130	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は不定方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 180 図 72	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 180 図 73	土師器 甕	12.0cm 口縁部～胴部上位片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデであるが中程に無調整部分が残る、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 180 図 74	土師器 甕	竈掘り方 口縁部～胴部上位片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はハケ目。	
第 180 図 75	土師器 甕	竈 口縁部～胴部上位片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 180 図 76	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	①22.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	「コ」の字状口縁甕。口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はハケ目。	
第 180 図 77	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	①17.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 180 図 78 P L .130	土師器 甕	埋土・掘方 口縁部～胴部上位片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 180 図 79	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 180 図 80	土師器 甕	埋土・掘方 口縁部～胴部上位片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部は横ナデであるが中程に無調整部分が残る、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	竈掘り方と 接合

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第180図 81	土師器 甕	埋土・掘方 口縁部～胴 部上位片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はハケ目。	
第180図 82 P.L.130	土師器 甕	埋没土 口縁部片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削りか。	
第180図 83 P.L.130	土師器 甕	埋没土 口縁部片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削りか。	
第180図 84 P.L.130	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削りか。内面胴部はヘラナデ。	
第181図 85 P.L.131	土師器 甕	掘り方埋土 口縁部片	①17.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第181図 86 P.L.131	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①18.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③淡赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第181図 87 P.L.131	土師器 甕	9.8cm 口縁部～胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第181図 88	土師器 甕	埋没土 胴部下位片	① ②4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	胴部下位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第181図 89 P.L.131	土師器 甕	埋没土 胴部下半片	① ②4.8 ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下半は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第181図 90	土師器 甕	1.6cm 胴部下位片	① ②4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	胴部下位は不定方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第181図 91	土師器？ 瓶	埋没土 胴部下位片	① ②5.0 ③	①微砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部はヘラ削りか。	
第181図 92	土師器 甕	埋没土 胴部下位片	① ②4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下位は不定方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第181図 93	須恵器 甕	床面密着 胴部下位片	① ②15.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部は回転ヘラ削り。	
第181図 94 P.L.131	須恵器 甕	埋土・掘方 胴部下半片	① ② ③	①粗砂粒 ②やや酸化焰 ③暗赤褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下位は部分的ヘラナデ。内面はヘラナデ。	
第181図 95	須恵器 甕	埋没土 胴部下位片	① ②22.0 ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③暗青灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部は内外面ともヘラナデ。	
第181図 96	須恵器 甕	埋没土 胴部下位片	① ②14.0 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下位はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第182図 97	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①20.0 ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付、胴部は縦方向のヘラ削りか。	
第182図 98	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①20.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③灰褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付、胴部は縦方向のヘラ削り。	
第182図 99 P.L.131	須恵器 羽釜	甕 胴部上位片	鏝径25.2 ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付、胴部は縦方向のヘラ削りか。内面胴部はヘラナデ。	内面灰白色

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 182 図 100	須恵器 羽釜	床面密着 胴部片	① ② ③	①粗砂粒 ②やや酸化焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部は縦方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 182 図 101	須恵器 羽釜	竈 胴部下位片	① ② 9.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 182 図 102 P L .131	須恵器 羽釜	埋没土 胴部下位片	① ② 8.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下位はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 182 図 103 P L .131	須恵器 碇	埋没土 面片	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。碇面は刷り磨かれている。内面に朱墨が付着。	
第 182 図 104	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 ②10.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部はヘラ削り。	
第 182 図 105 P L .131	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② 7.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部はヘラ削り。	
第 182 図 106 P L .131	土師器 盤	埋没土 1/6	①18.0 ②17.0 ③ 4.0	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデで、下位に無調整部分が僅かに残る。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 182 図 107 P L .131	土師器 杯	埋没土 1/8	①16.2 ②10.0 ③ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状?暗文。	
第 182 図 108 P L .131	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面口縁部に放射状暗文。	
第 182 図 109	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面口縁部に放射状暗文。	
第 182 図 110	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面口縁部に放射状暗文。	
第 183 図 111 P L .131	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。内面口縁部に放射状暗文。	
第 183 図 112	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面口縁部に放射状暗文。	
第 183 図 113	土師器 杯	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下半と底部はヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。	
第 183 図 114	土師器 杯	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	底部はヘラ削り。内面に螺旋状暗文。	
第 183 図 115	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横方向のヘラ削り。内面に放射状暗文。	
第 183 図 116	土師器 杯	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下半と底部はヘラ削り。内面口縁部に花卉状暗文。	
第 183 図 117	須恵器 蓋	埋没土 天井部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。天井部は回転ヘラ削り、摘は環状で貼付。	
第 183 図 118 P L .131	須恵器 杯	埋没土 1/2	①16.0 ② 9.8 ③ 3.8	①細砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ切り、口縁部下位も回転ヘラ切り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第183図 119 P.L.131	須恵器 杯	埋没土 1/4	①13.4 ②7.2 ③3.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ切り 後回転ヘラ削り。		
第183図 120 P.L.131	須恵器 椀	埋没土 1/4	①13.4 ②9.8④8.8 ③4.4	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、 高台は削り出し。		
第183図 121 P.L.131	須恵器 杯	埋没土 1/2	①12.8 ②9.6 ③3.7	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ切り。		
第183図 122 P.L.131	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①18.0 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位はヘラ削り。 内面胴部はヘラナデ。		
第183図 123 P.L.131	須恵器 長頸壺	埋没土 頸部片	頸部径6.6 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。頸部に凹線が2条 巡る。		
第183図 124 P.L.132	須恵器 甕	掘り方埋土 口縁部片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部下に貼付さ れた凸帯が1条巡る。	内面灰白色	
第183図 125 P.L.132	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部下に貼付さ れた凸帯が1条巡る。		
第183図 126	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部に凸帯が1 条巡り、口縁部に波状文(単位6)が施文。		
第183図 127	須恵器 高杯	埋没土 底部～脚部 片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。杯部と脚部は接合。		
第183図 128 P.L.132	須恵器 盤	掘り方 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部外面は不定方 向のヘラ削り、内面はカキ目。		
第184図 129 P.L.132	土製品 鞆羽口	8.6cm 1/2	外径7.5 孔径2.7 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	外面はヘラ削り。先端部の溶解炉の内面に接する 部分は紫赤色のアメ状に溶解する。		
第184図 130 P.L.132	土製品 鞆羽口	埋没土 先端部片	外径7.0 孔径2.5 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	外面はヘラ削り。先端部の溶解炉の内面に接する 部分は紫赤色のアメ状に溶解する。		
第184図 131 P.L.132	土製品 鞆羽口	2.5cm 1/2	外径9.2 孔径2.6 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	外面はヘラ削り。先端部の溶解炉の内面に接する 部分は紫赤色のアメ状に溶解する。		
第184図 132 P.L.132	土製品 鞆羽口	埋没土 先端部片	① ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面はヘラ削り。先端部の溶解炉の内面に接する 部分は紫赤色のアメ状に溶解する。		
挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石材	特徴その他	備考
第184図133 P.L.132	石製品 竈構築材	9.6cm	①10.7 ③4.1	②8.3 ④400	未固結凝灰岩	一面残存するのみ。面が荒れているが面取 りしていると思われる。	
第184図134 P.L.132	石製品 敲石?	床面密着	①17.5 ③5.3	②16.6 ④2000	石英閃緑岩	表の一部と裏に使用の痕跡がある。上端に 敲打痕があり、一部剝離している。左側下 端に赤く焼けた箇所がある。	
第184図135 P.L.132	石製品 敲石	床面密着	①18.0 ③4.0	②11.0 ④1350	粗粒安山岩	上端に敲打痕が認められる。両側面が打ち 欠かれている。	
第185図136 P.L.132	石製品 砥石	5.0cm	①15.9 ③4.8	②5.5 ④650	砥沢石	小口を中心に面が荒れている。表裏左右を 研ぎ面としている。表隅に3条の条線があ る。	
第185図137 P.L.132	石製品 敲石	-13.0cm	①13.6 ③6.7	②9.7 ④1050	流紋岩	左側面一部欠損。下端に敲打痕がある。	
第185図138 P.L.132	石製品 竈構築材	2.0cm	①11.4 ③7.7	②10.0 ④1000	未固結凝灰岩 (安山岩質)	表～側面の一部残存。面の荒れが著しい。	

挿図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第185図139 P L .132	石製品 炉構築材?	床面密着	①19.1 ③8.3	②14.2 ④2100	粗粒安山岩	左側欠損。2号炉の構築材か。	
第185図140 P L .132	石製品 竈構築材	4.0cm	①12.0 ③6.3	②7.5 ④500	未固結凝灰岩 (安山岩質)	表～側面の一部残存。面の荒れが著しいが 削りが僅かに残る。	
第185図141 P L .133	石製品 竈構築材	3.6cm	①10.6 ③7.6	②9.9 ④500	未固結凝灰岩 (安山岩質)	一角のみ残存。面が荒れるが深い削りが表・ 側面・小口に僅かに残る。	
第185図142 P L .133	石製品 竈構築材?	5.6cm	①10.8 ③7.6	②11.4 ④400	角閃石安山岩	鋭利な工具による削りがみられる。	
第186図143 P L .133	石製品 竈構築材	27.5cm	①12.8 ③8.4	②11.0 ④1000	未固結凝灰岩 (安山岩質)	表～側面の一部残存。面は荒れているが片 面に削りの痕跡が認められる。	
第186図144 P L .133	石製品 竈構築材	18.0cm	①9.0 ③6.4	②9.7 ④470	未固結凝灰岩 (安山岩質)	表～側面の一部残存。面が荒れるが表に削 りが残る。割れ口に黒煤の付着。	
第186図145 P L .133	石製品 竈構築材	床面密着	①8.3 ③6.3	②7.9 ④300	未固結凝灰岩	表～側面の一部残存。面が著しく荒れてい る。	
第186図146 P L .133	石製品 竈構築材	28.0cm	①24.5 ③13.1	②16.1 ④5700	火山礫質凝灰岩	両端欠損。全体的に面が荒れる。表、両側 面は面取りしているが裏面は割れた状態を なす。当初の姿が半截された割れ口を呈す るか不詳。表から側面の一部、裏面に被熱 の痕跡がみえる(弱い黒煤)。	
第186図147 P L .133	石製品 竈構築材	4.8cm	①22.9 ③14.5	②19.4 ④7300	火山礫質凝灰岩	片端欠損。全体的に面が荒れている。側面 及び小口に削りの痕跡が残る。片面のみ赤 みを帯び、片面は灰白色を呈す。	
第186図148 P L .133	石製品 竈構築材	埋没土	①7.0 ③5.4	②5.0 ④100	未固結凝灰岩	一側縁のみ残る。面が著しく荒れている。	
第187図149 P L .133	石製品 角柱状品	-13.0cm	①15.6 ③8.1	②10.2 ④1400	火山礫質凝灰岩	不正多角形柱状を呈し、下端欠損。四面及 び小口に削りを施す。削り単位面は平坦で はなくやや内湾している。	
第187図150 P L .133	石製品 竈構築材	4.5cm	①10.4 ③5.4	②9.0 ④400	未固結凝灰岩 (安山岩質)	表～側面の一部残存。面が荒れるが削りの 痕跡が残る。	
第187図151 P L .133	石製品 台石?	2.6cm	①26.4 ③8.9	②17.9 ④5000	粗粒安山岩	約1/4欠損。一部側縁に敲打痕がある。表に 白色付着物があり黒く焦げている部分がみ られる。台石か?	
第188図152 P L .133	石製品 竈構築材	埋没土	①39.3 ③11.2	②19.9 ④6900	火山礫質凝灰岩	片端欠損。面の荒れが著しく削りの痕跡は 一部のみ残存する。中央部分を除いて両端 小口に黒煤が付着する。未実測の面は黒煤 は両端に僅かにみられるのみ。	
第188図153 P L .134	石製品 竈構築材	30.6cm	①22.3 ③9.2	②18.7 ④2300	未固結凝灰岩	両端欠損。全体的に面が荒れるが、特に側 面に削りの痕跡が残る。	
第188図154 P L .134	石製品 竈構築材	-12.5～-9	①24.8 ③8.3	②8.5 ④1900	未固結凝灰岩 (安山岩質)	表～側面の一部残存。全体的に面が荒れる。	
第189図155 P L .134	石製品 竈構築材	17.5cm	①48.9 ③14.4	②21.7 ④14100	火山礫質凝灰岩	3片接合。ほぼ完形。片端断面は三角形に 近い。表裏左右側面に削りの痕跡が残る。 両小口は面が荒れて削り痕がみられないが 面取りしていると思われる。裏面では削り の痕跡は一部のみみられる。両端のみ色調 が赤みを帯びない。削りは曲面を呈す。	竈天井、右 壁に使用
第190図156 P L .135	石製品 竈構築材	20.5cm	①54.6 ③15.0	②21.1 ④6700	土塊?	片端欠損。残存端部と表側部は面が崩れる が埋没時には現状に近い状態と推定できる。 調査時はほぼ完形だったがその後崩壊する。 表は削りが良く残る。削り単位面は曲面を なす。側面及び裏面は面が荒れており、裏 面が著しい。裏面の一部に黒煤が付着する。 表一面に弱く煤が付着する。	
挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴	備 考	
第190図157 P L .135	鉄器 鉄鏃	埋没土	①残5.5 ③0.3・0.6	②3.0・0.9 ④12.25	鏃身一部と茎尻を欠損。錆ぶくれがあるが 面の状態は良い。関は残る。		

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴	備 考
第190図158 P L .135	鉄器 板状品	埋没土	①残2.3 ③0.4	②残2.0 ④3.54	上端、左端部欠損。全体にカーブをなす。 左端欠損の一部には木質あり。	未製品？
第190図159 P L .135	鉄器 鉄鎌	埋没土	①残11.4 ③0.6・0.65・0.3	②2.2・0.7・0.3 ④12.02	茎尻と鉄身の一部欠損。関は立体的に作り 茎と段差を有する。	
第190図160 P L .135	鉄器 板状品	埋没土	①残7.0 ③0.5	②3.0 ④15.96	右端欠損。錆ぶくれがあるが面の状態は良 い。	
第190図161 P L .135	鉄器 板状品	埋没土	①残3.9 ③0.3	②3.0 ④15.10	四周は埋没時の様相を示す。錆ぶくれは若 干あるが地金はしっかりする。	
第191図162 P L .135	鉄器 角釘	埋没土	①3.7 ③0.5	②0.7 ④5.96	下端欠損。頭が銀杏葉形に広がる。重くしっ かりとした作り。	
第191図163 P L .135	鉄器 棒状品	埋没土	①5.3 ③0.5・0.4	②0.8 ④4.49	下端欠損。上端は扁平となる。	
第191図164 P L .135	鉄器 楔状品	埋没土	①9.9 ③0.7	②1.3 ④41.14	ほぼ完形であるが、錆による剥離のため細 くなっている。上端は折曲げて肥厚させる。	
第191図165 P L .135	鉄器 棒状品	埋没土	①残7.1 ③0.5	②0.5 ④4.18	錆による剥離で旧状を留める面は少ない。 断面は丸みとなるか？	
第191図166 P L .135	鉄器 棒状品	埋没土	①残4.7 ③0.8・0.5	②0.6・1.0 ④8.06	両端欠損。中位から幅を増し、かつ錆によ る剥離で偏平化している。	
第191図167 P L .135	鉄器 棒状品	掘り方 埋没土	①残4.1 ③0.4	②0.5 ④2.44	上端欠損。全体に緩く屈曲しねじれが加わ る。中位に関状の段差あり。	
第191図168 P L .135	鉄器 角釘	埋没土	①4.9 ③0.5	②0.6 ④2.33	両端欠損。上端は頭が欠損し、僅かに幅の 広がりが残る。	
第191図169 P L .135	鉄器 角釘	掘り方 埋没土	①残5.2 ③0.7	②0.7 ④5.93	両端欠損。上端は頭に向かうラインが残る。 頭は全面に大きく張り出すと思われる。	
第191図170 P L .135	鉄器 带状品	掘り方 埋没土	①残7.3 ③0.3	②0.8 ④3.63	両端欠損。細身だが刃部あり。	刀子？
第191図171 P L .135	鉄器 角釘	埋没土	①6.3 ③0.4	②0.4 ④4.20	下端欠損のみ。ほぼ完形。僅かに反りを持 つ。頭は強く張り出す。面の状態は良い。	
第191図172 P L .135	鉄器 火打金	埋没土	①残1.2 ③0.4	②残4.15 本体0.9 ④2.66	左端、上端欠損。	
第191図173 P L .136	鉄器 銚鉄？	埋没土	①2.8 ③0.7	②1.5 ④4.78	完形。四周とも良く残る。	
第191図174 P L .136	鉄器 板状品	埋没土	①残4.65 ③0.2	②残1.9 ④5.52	一部の端部を残すのみ。左側は屈曲し始め る。	
第191図175 P L .136	鉄器 棒状品	埋没土	①残4.5 ③0.45	②0.8 ④5.87	両端欠損。下端にいくほど幅、厚みを減じ る。	
第191図176 P L .136	鉄器 飾り金具？	埋没土	①板部2.6 銚3.1 ③板部2.0 銚0.6	②板部2.8 銚0.6 ④14.96	銚先端及び表板の一部が欠損。板は矩形 ～菱形を呈し対角が緩く屈曲する。銚は裏 板から1.45cm足が出る。	

図版番号	出土位置	動物名	部位	長さ×幅(厚)	特 徴
(34215)	竈掘り方		角片	*21.0×10.6	半生。同一の角が崩壊したものの。
(34216)	床上竈西そば	ウマ	下顎白歯	*31.0×10.4	4片。
(34217)	竈				焼骨。微細骨片1片。
(34218)	掘り方埋土			*8.9×7.4	焼骨。微細骨片5片。

35号住居

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第195図 1 P L .136	須恵器 椀	埋没土 1/8	①12.0 ② 4.0 ③ 4.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転糸切り。	
第 195図 2 P L .136	須恵器 椀	竈・埋没土 1/8	①14.0 ② 4.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部切り放し技法 は高台貼付時のナデのため不明。	

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考	
第 195図 3 P L .136	須恵器 椀	床面密着 1/8	① ②7.2④7.4 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部切り放し技法は高台貼付時のナデのため不明。		
第 195図 4 P L .136	須恵器 椀	34.0cm 底部片	① ②7.0④8.0 ③	①微砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。		
第 195図 5 P L .136	土師器 甕	12.0cm 口縁部～胴 部上位小片	①20.0 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面は頸部から胴部上位にかけて横方向のハケ目。		
第 195図 6 P L .136	土師器 甕	竈・埋没土 口縁部小片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③灰黄色	口縁部は横ナデ、胴部上位はヘラ削りか。		
第 195図 7 P L .136	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部小片	①20.0 ② ③	①粗砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。		
第 195図 8 P L .136	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部小片	①19.6 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。鏝下部に胴部ヘラ削りの際のヘラ痕が見られる。		
第 195図 9 P L .136	須恵器 羽釜	5.0cm 口縁部小片	①20.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③浅黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。		
第 195図 10 P L .136	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部下半 ～胴部片	① ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③浅黄橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。胴部はヘラ削りであるが、摩耗のため単位・方向等は不明。		
第 195図 11 P L .136	須恵器 羽釜	竈 底部小片	① ② 8.4 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	胴部最下位は横方向、底部は不定方向のヘラ削り。		
挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴	備 考	
第 195図12 P L .136	鉄器 刀子	埋没土	①残8.8 ③0.3	②1.3 ④8.03	茎尻、切先欠損。棟関が良く残り、刃関も僅かに残る。刃部は切先に向かって急激に幅を減ずる。		
挿図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 195図13 P L .136	石製品 竈構築材	5.5cm	①12.8 ③7.6	②8.0 ④550	未固結凝灰岩 (安山岩質)	表～両側面の一部残存。上端は小口の可能性があるが面が荒れて不詳。被熱する。	

62号住居

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 197図 1 P L .136	土師器 杯	掘り方埋土 小片	①12.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 197図 2	土師器 杯	掘り方埋土 口縁部小片	①11.4 稜径10.6 ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 197図 3 P L .136	須恵器 椀	掘り方埋土 1/5	①13.8 ②6.0④6.0 ③ 5.3	①細砂粒 ②還元焰燻焼成 ③灰黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。高台は貼付。	
第 197図 4 P L .136	土師器 甕	掘り方埋土 口縁部～胴 部中位片	①15.6 胴部最大径 17.6	①細砂粒 ②良好 ③赤褐色	口縁部から頸部は横ナデであるが、頸部に無調整が残る。胴部は上位が横方向、中位が縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

36号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 201図 1 P L .137	須恵器 蓋	埋没土 口縁部小片	①18.4 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部に凹線が1条巡る。天井部の中央部は回転ヘラ削り。	
第 201図 2	須恵器 椀	埋没土 口縁部小片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。外面に自然釉が付着。	
第 201図 3	須恵器 杯	埋没土 底部小片	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部切り放し技法は不明。	
第 201図 4	須恵器 杯	埋没土 底部小片	① ② 6.4 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部切り放し技法は不明。	
第 201図 5	須恵器 杯	埋没土 底部小片	① ② 6.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部切り放し技法は不明。	
第 201図 6	須恵器 杯	埋没土 底部小片	① ② 8.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転糸切り。	
第 201図 7 P L .137	須恵器 杯	10.0cm 底部	① ② 7.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	内面褐灰色
第 201図 8 P L .137	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②6.8④7.0 ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部切り放し技法は不明、高台は貼付。	
第 201図 9	須恵器 椀	埋没土 口縁部片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 201図 10 P L .137	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①17.4 ② ③	①細砂粒 ②還元焰燻焼成 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。	内面褐灰色
第 201図 11 P L .137	須恵器 椀	7.0cm 底部～体部 下半片	① ②10.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切りで一部にナデ痕が見られる。	
第 201図 12 P L .137	須恵器 椀	床面密着 1/4	① ②16.2 ④15.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、体部下位も回転ヘラ削り、高台は削り出しか。	
第 201図 13 P L .137	黒色土器 杯	3.0cm 1/2	①12.6 ② 5.6 ③ 3.5	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。内面黒色処理。内面は口縁部・底部ともヘラ研磨。	底部外面に「+」の墨書
第 202図 14 P L .137	土師器 甕	床面密着 口縁部～胴 部中位片	①12.4 胴部最大径 14.4 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上半は横方向、下半は縦方向のヘラ削り。	
第 202図 15	土師器 甕	埋没土 口縁部片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。	
第 202図 16 P L .137	土師器 甕	16.5cm 口縁部～胴 部上位片	①20.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 202図 17 P L .137	須恵器 羽釜	13.0～43.0 口縁部～胴	①20.2 鏝径23.8 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。胴部は縦方向のヘラ削り。	
第 202図 18	土師器 甕	埋没土 底部片	① ② 4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③灰褐色	胴部下位は縦方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	内面にぶい赤褐色
第 202図 19 P L .137	土師器 台付甕	埋没土 底部片	① ② 3.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	胴部下位は横方向のヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考	
第 202図 20 P L .137	須恵器 鉢	埋没土 口縁部片	①17.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。		
第 202図 21 P L .137	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部に凹線が1条巡る。		
第 202図 22 P L .137	須恵器 甕	20.0cm 口縁部片	①25.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰やや軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。頸部にカキ目状の整形痕が残る。		
第 202図 23 P L .137	須恵器 長頸壺	埋没土 脚部片	① ② ④12.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。		
第 202図 24	須恵器 甕	埋没土 底部片	① ② 9.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③橙色	底部は不定方向のヘラ削り。	内面にぶい 橙色	
第 203図 27 P L .137	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①10.0 稜径8.4 ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。		
第 203図 28 P L .137	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①11.4 稜径8.2 ③	①微砂粒 ②軟質 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削りであるが、単位・方向などは不明。		
第 203図 29 P L .137	須恵器 杯	埋没土 口縁部小片	①12.8 ② 9.2 ③ 2.7	①細砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部切り放し技法は不明。内面の口縁部中位に重ね焼き痕、口唇部を除き自然釉が附着。		
第 203図 30 P L .137	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②軟質 ③橙色	外面は横方向のヘラ研磨。内面は雑な放射状暗文。		
挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴	備 考	
第 202図25 P L .137	鉄器 板状品	埋没土	①2.3 ③0.1	②1.3 ④0.79	四周欠損。表面に大きな凹凸があり、裏面には細かな凹凸がある。全体的に上位が内弯している。	未製品？	
挿図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 202図26 P L .138	石製品 砥石	23.5cm	①16.7 ③4.1	②10.4 ④1000	粗粒安山岩	下端欠損。表裏左右の四面を研ぎ面として使用している。右側面に4条の刃物条線がある。	

37号住居

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 205図 1 P L .138	須恵器 杯蓋	口縁部片	①16.2 ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 205図 2 P L .138	須恵器 杯	17.5cm 1/6	①13.2 ② 5.6 ③ 4.5	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転系切り、体部下位に不定方向のナデ。	煙道部より
第 205図 3 P L .138	須恵器 杯	埋没土 底部～体部 片	① ② 5.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部切り放し技法は不明。	
第 205図 4 P L .138	須恵器 杯	22.0cm 2/3	①14.7 ② 6.5 ③ 4.8	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り。	
第 205図 5	須恵器 椀	埋没土 底部～体部 片	① ② 6.6 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 205図 6 P L .138	須恵器 杯	20.5cm 底部～体部 片	① ② 4.0 ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。		
第 206図 7 P L .138	須恵器 椀	-11.0cm 底部片	① ②7.4④7.4 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。		
第 206図 8	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②7.0④7.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③浅黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部切り放し技法は高台貼付時のナデのため不明。		
第 206図 9 P L .138	須恵器 椀	56.0cm 底部～体部 下位片	① ②7.2④6.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黒色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。		
第 206図 10 P L .138	灰釉陶器 椀	埋没土 口縁部小片	①14.0 ② ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。施釉方法は不明、釉調は不透明な灰色。		
第 206図 11 P L .138	灰釉陶器 椀	埋没土 体部片	① ② ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。体部下位は回転ヘラ削り、高台は貼付。施釉方法は不明。釉調は不透明なやや緑灰色。		
第 206図 12 P L .138	土師器 甕	18.0～20.5 口縁部～胴 部上位片	①19.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は雑な横ナデで中程に凹線が1条巡る。胴部上位は横方向のヘラ削り。内面は横方向のハケ目(単位不明)。	煙道部より	
第 206図 13 P L .138	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①19.5 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面は横方向のハケ目。		
第 206図 14 P L .138	土師器 甕	埋土・掘方 口縁部～胴 部中位片	①21.0 胴部最大径 22.0	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上半が横方向、下半は縦方向のヘラ削り。内面は頸部に横方向のハケ目、胴部はヘラナデ。		
第 206図 15 P L .138	土師器 甕	26.0～36.5 口縁部～胴 部上位片	①18.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	頸部に凹線が1条巡る。口縁部は横ナデ、頸部から胴部上位は無調整、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	煙道部より	
第 206図 16 P L .138	土師器 甕	23.5cm 口縁部～胴 部上位片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部に凹線が1条巡る。口縁部は横ナデ、頸部は無調整、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	煙道部より	
第 206図 17 P L .138	須恵器 壺	24.0cm 底部	① ② 3.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は不定方向のヘラ削り。		
第 206図 18 P L .138	須恵器 羽釜	-13～56.0 口縁部～胴 部上位片	①20.0 鏝径26.0 ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付、胴部は底部方向からのヘラ削りで、一部鏝まで達している。		
第 206図 19 P L .139	須恵器 羽釜	埋没土 底部～胴部 下位片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③明褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部は最下位が横方向のヘラ削り、下位は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	内面灰白色	
第 207図 22 P L .139	須恵器 杯	-6.5cm 1/3	①13.8 ②10.0 ③ 2.8	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ切り。		
挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 206図20 P L .139	石製品 砥石	20.0cm	①5.0 ③1.7	②5.5 ④100	砥沢石	両端欠損。研ぎ面は表裏左右を使用。両側面に条線が認められる。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 207図21 P L .139	鉄器 角釘	44.0cm	①残10.6 ③0.5	②0.6 ④10.94	上端欠損。全体にねじれがみられる。中位から幅・厚みを減じる。		

38号住居

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 212図 1	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.2 稜径13.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 212図 2	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①10.6 稜径10.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 212図 3 P L .139	土師器 杯	埋没土 1/8	①11.6 稜径11.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 212図 4 P L .139	土師器 杯	埋没土 3/4	①10.8 稜径10.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 212図 5 P L .139	土師器 杯	31.5cm 完形	①10.8 稜径10.8 ③ 3.8	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 212図 6 P L .139	土師器 杯	埋没土 1/3	①11.2 稜径11.0 ③ 3.2	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 212図 7	土師器 杯	埋没土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第 212図 8	土師器 杯	埋没土 1/6	①14.4 稜径14.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削りであるが器面の剝離のため単位・方向は不鮮明。	
第 212図 9 P L .139	土師器 杯	埋没土 1/3	①13.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 212図 10	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①15.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。	
第 212図 11 P L .139	土師器 杯	埋没土 1/5	①15.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位が横方向、下位から底部は不定方向のヘラ削り。	
第 212図 12 P L .139	土師器 杯	埋没土 1/4	①14.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 212図 13 P L .139	土師器 杯	埋没土 1/2	①14.4 ② ③ 4.5	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位・下位は横方向、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 212図 14 P L .139	須恵器 杯蓋	19.7cm ほぼ完形	①11.6 ② ③ 3.0	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は不定方向のヘラ削り。外面に自然釉が付着。	
第 212図 15 P L .139	須恵器 杯	埋没土 口縁部小片	①12.4 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰ぎみ ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部はヘラ削りか。	
第 212図 16 P L .139	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 212図 17 P L .139	土師器 甕	11.4cm 胴部上半片	① ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③明赤褐色	頸部は横ナデ、胴部は上位が横方向、中位は縦方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	火床面より
第 212図 18 P L .139	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	①10.4 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 212図 19 P L .139	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	①16.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 213図 20 P L .140	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③浅黄橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向の ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 213図 21 P L .140	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部中位片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削 り。内面胴部はヘラナデ。		
第 213図 22 P L .140	土師器 甕	17.0～24.5 口縁部～胴 部上位片	①22.0 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削 り。内面胴部はヘラナデ。		
第 213図 23 P L .140	土師器 甕	0～30.5 胴部の一部 を欠	①21.8 ② 5.6 ③42.3	①細砂粒 ②良好 ③淡黄色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削 り、底部は不定方向のヘラ削り。内面胴部はヘラ ナデ。		
第 213図 24 P L .140	土師器 甕	66.5cm 胴部下位	① ② 7.2 ③	①粗砂粒 ②良好 ③橙色	胴部は斜め方向、底部は不定方向のヘラ削り。内 面はヘラナデ。		
第 214図 25 P L .140	土師器 甕	60.5～68.0 1/2	①22.6 ② ③35.0	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上位と下位が横 方向のヘラ削り。中位は斜め方向のヘラ削り。内 面胴部はヘラナデ。		
第 214図 26 P L .140	土師器 甕	49.5cm 胴部下位片	① ② 9.6 ③	①粗砂粒 ②良好 ③橙色	内面に輪積痕が残る。胴部はヘラ削り後縦方向の ヘラ研磨、底部は不定方向のヘラ削り。内面はヘ ラナデ。	内面淡黄色	
第 214図 27 P L .140	土師器 甕	50.0cm 底部	① ② 9.0 ③	①粗砂粒 ②良好 ③浅黄橙色	胴部はヘラ削りであるが方向・単位は不鮮明。内 面はヘラナデ。		
第 214図 28 P L .141	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①23.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③浅黄橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 214図 29 P L .141	土師器 甕	竈・埋没土 胴部下位片	① ② 5.8 ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	内面に輪積痕が残る。胴部は縦方向のヘラ削り後 縦方向の雑なヘラ研磨。内面はヘラナデ。		
第 214図 30 P L .141	土師器 甕	埋没土 胴部下位片	① ② 5.0 ③	①粗砂粒 ②良好 ③褐灰色	胴部は斜め方向のヘラ削り、底部の整形は不鮮明。 内面はヘラナデ。	内面にぶい 橙色	
第 214図 31 P L .141	土師器 甕	4.5cm 胴部下半片	① ② 3.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下半は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナ デ。	火床面より	
第 215図 32 P L .141	土師器 甕	埋没土 胴部上半片	① ② 4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄橙色	胴部下半は縦方向のヘラ削り。底部はヘラ削り。 内面胴部はヘラナデ。		
第 215図 33 P L .141	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁部は2段の波状文(単位3)、胴部は平行叩き。		
第 215図 35 P L .141	土製品 土玉	埋没土 完形	① 径1.2 高1.1	①細砂粒 ②良好 ③褐灰色	面が荒れるがナデか。孔は両側からの刺突により 空けられる。		
第 215図 37 P L .141	須恵器 杯	埋没土 1/2	①13.0 ② 7.0 ③ 4.0	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	体部外面に 墨痕	
第 215図 38 P L .141	須恵器 椀	埋没土 2/3	①14.0 ②6.2④6.4 ③6.1	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、 高台は貼付。	体部外面逆 位に「玉」の 墨書	
第 215図 39 P L .141	灰釉陶器 椀	埋没土 底部小片	① ②7.0④6.8 ③	①緻密 ②還元焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ナデ、 高台は貼付。施釉方法は不明。		
挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 215図34 P L .141	石製品 台石?	床面密着	①16.7 ③4.4	②15.0 ④1950	粗粒安山岩	下端及び裏側を欠損。表に使用の痕跡が認 められる。下方先端に敲打痕がみられる。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 215図36 P L .141	銅製品 銭	竈埋没土	①径2.4 ③0.1	② ④1.86	1/2欠損。□?□竇。残存部裏面に文様はみられない。	
図版番号	出土位置	動物名	部位	長さ×幅(厚)	特徴	
(38046)	-10.5cm				焼骨。超微細骨片10数片。	
PL141 40	6.0cm	シカ	角中第一枝分岐部	62.0×42.0	(38047)	
(38048)	竈				焼骨?細骨片数片。	
(38049)					微細骨片多数。	
(38050)	-23.0cm				微細骨片多数。	
(38051)	-10.5cm				微細骨片多数。	
(38052)	竈		肢骨片	11.2×8.3	焼骨。	
(38053)	埋没土				焼骨。微細骨片5片。	
PL141 41		シカ	中節骨近位骨端など	15.4	焼骨。(38054)	
(38055)	竈	シカカイノシシ	肋骨など	*18.7×12.2	焼骨。骨片3片。	
(38056)	竈埋没土	小へ中動物	大腿骨遠位部片		焼骨。骨片2片。分析No.31	
(38057)	-26.0cm	シカ	角片	*19.6×18.2	細角片多数。	
(38058)	-26.0cm				細骨片多数。	

39号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 216図 1 P L .142	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部上位は横方向のヘラ削り。	
第 216図 2 P L .142	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	

42号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 221図 1	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 稜径11.2 ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 221図 2 P L .142	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 稜径12.4 ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 221図 3 P L .142	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①16.4 稜径14.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 221図 4 P L .142	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.0 稜径10.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 221図 5 P L .142	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 稜径11.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 221図 6	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。	
第 221図 7 P L .142	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位が無調整、下位はヘラ削り。	
第 221図 8	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位が無調整、下位から底部はヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 221 図 9 P L . 142	土師器 杯	埋没土 1/4	①10.0 ② ③ 3.2	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位が無調整、下位が横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 221 図 10 P L . 142	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② 7.6 ③	①微砂粒 ②良好 ③赤橙色	口縁部下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面口縁部に放射状暗文。		
第 221 図 11 P L . 142	土師器 杯	埋没土 底部片	①11.4 ② ③ 2.7	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 221 図 12 P L . 142	土師器 杯	埋没土 1/5	①12.0 稜径11.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、稜は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 221 図 13 P L . 142	土師器 杯	埋没土 1/4	①11.6 稜径11.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、稜は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 221 図 14 P L . 142	土師器 杯	埋没土 3/4	①10.6 ② ③ 4.0	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位が無調整、下位から底部は不定方向のヘラ削り。		
第 221 図 15 P L . 142	須恵器 蓋	埋没土 1/8	①13.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は端部を除いて回転ヘラ削り。		
第 221 図 16 P L . 142	土師器 杯	埋没土 1/6	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。		
第 221 図 17 P L . 142	須恵器 杯	埋没土 底部～口縁部 下位片	① ② 9.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ切り。		
第 221 図 18 P L . 142	須恵器 杯	埋没土 底部	① ② 7.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り後周辺部を回転ヘラ削り、口縁部下位にも1段の回転ヘラ削り。		
第 222 図 19 P L . 142	須恵器 長頸壺	4.0cm 1/5	① 6.8 胴部径14.0 ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。頸部と胴部の接合は2段接合、口縁部に輪積痕が残る。		
第 222 図 20 P L . 142	須恵器 高杯	埋没土 脚部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。		
第 222 図 21 P L . 142	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 上位片	①26.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削りであるが器面が剥落しているため方向・単位は不鮮明。内面胴部はヘラナデ。		
第 222 図 22 P L . 143	土師器 甕	竈掘り方 口縁部～胴部	①18.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 222 図 23 P L . 143	土師器 甕	20.0cm 底部	① ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	底部はヘラ削り。		
第 222 図 24 P L . 143	土師器 甕	竈掘り方 胴部下片	① ② 4.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下半は縦方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	埋土と接合	
第 222 図 25 P L . 143	須恵器 杯蓋	埋没土 天井部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は回転ヘラ削り。		
挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備考
第 222 図26 P L . 143	石製品 擦石	埋没土	①11.3 ③3.9	②9.5 ④700	粗粒安山岩	表裏に使用の痕跡があり裏面に著しい。鉄分の付着がみられる。	
第 222 図27 P L . 143	石製品 敲石	床面密着	①11.7 ③3.8	②9.8 ④500	粗粒安山岩	右側面の一部を欠損。両端に弱い敲打痕がある。表裏に使用の痕跡がみられる。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 222図28 P L .143	鉄器 板状品	埋没土	①残4.3 ③0.3	②残6.3 ④16.56	二端部残存。緩い角をなす。	
第 222図29	鉄器 板状品	埋没土	①2.4 ③0.4	②3.1 ④8.56	両端欠損。表裏に多くの気泡を含む。	スラグ? 未製品?
図版番号	出土位置	動物名	部位	長さ×幅(厚)	特徴	
(42032)		?	肢骨片	*10.2×7.6	焼骨。細骨片2片。	

43号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 224図 1 P L .143	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 稜径11.6 ③	①微砂粒 ②軟質 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。内面は横ナデと斜めのナデ。	
第 224図 2 P L .143	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.2 稜径11.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 224図 3 P L .143	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.0 稜径9.6 ③	①微砂粒 ②軟質 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 224図 4 P L .143	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.0 稜径9.0 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 224図 5 P L .143	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 稜径10.6 ③	①微砂粒 ②軟質 ③にぶい橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 224図 6 P L .143	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 稜径11.4 ③	①微砂粒 ②軟質 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 224図 7 P L .143	土師器 杯	埋没土 1/2	①12.8 稜径10.8 ③3.5	①細砂粒 ②軟質 ③橙色	内面は黒色処理。口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。内面口縁部は横方向のヘラ磨き。	
第 224図 8 P L .143	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 稜径12.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 224図 9	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半がヘラ削り。	
第 224図 10	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 224図 11 P L .143	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半がヘラ削り。内面に放射状暗文?	
第 224図 12 P L .143	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部小片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焙 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部に凹線が1条巡る。	
第 224図 13 P L .143	土師器 短頸壺	24.0cm 1/4	① 7.6 胴部径9.2 ③	①微砂粒 ②軟質 ③橙色	口縁部は横ナデ、胴部は横方向の細かいヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 224図 14 P L .143	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②軟質 ③橙色	口縁部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 224図 15 P L .144	土師器 壺	埋没土 胴部下位片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	胴部下位は横方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 224図 16 P L .144	土師器 壺	5.0cm 口縁部～胴部片	①10.6 胴部径16.4 ③	①細砂粒 ②軟質 ③橙色	口縁部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 224図 17 P L .144	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①18.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。 内面胴部はヘラナデ。	
第 224図 18	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のヘラ削り。 内面胴部はヘラナデ。	
第 224図 19 P L .144	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り。	
第 224図 20 P L .144	須恵器 長頸壺	埋没土 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部は回転ヘラ削り 後ヘラナデ、底部は1回のヘラ削り。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 224図21 P L .144	鉄器 鋤先?	埋没土	①残6.7 ③0.5	②残2.4 ④15.03	一部のみ残存。端部はL字状に屈曲し、外 形も緩いカーブを描く。	

44号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 228図 1 P L .144	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①微砂粒 ②軟質 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削りであ るが単位・方向は不明。	44・45住埋 土
第 228図 2 P L .144	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①微砂粒 ②軟質 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り であるが単位・方向は不明。内面に放射状暗文。	
第 228図 3 P L .144	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削りであ るが単位・方向は不明。内面に放射状暗文。	
第 228図 4	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② 8.0 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③褐灰色	底部はヘラ削り。内面に弧状暗文。	
第 228図 5	土師器 杯	埋没土 底部～口縁 部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明褐色	底部・口縁部下位ともヘラ削り。内面口縁部に放 射状暗文。	
第 228図 6	土師器 杯	埋没土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位から下位は横方向の ヘラ削り。内面に放射状暗文。	
第 228図 7	土師器 杯?	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	底部はヘラ削り。内面に放射状暗文。	
第 228図 8	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。 内面に放射状暗文。	
第 228図 9 P L .144	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①10.8 ② 7.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 228図 10 P L .144	須恵器 盤	掘り方埋土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部端部に凹線が 1条巡る。	
第 228図 11 P L .144	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 7.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削 り。	
第 228図 12 P L .144	土師器 甕	埋没土 口縁部片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 228 図 13 P L .144	土師器 甕	埋没土 胴部下位片	① ② 5.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下半は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削りか。内面はヘラナデ。	
第 228 図 14 P L .144	須恵器 甕	埋没土 頸部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部と胴部の接合部に補強帯が巡る。	
図版番号	出土位置	動物名	部位	長さ×幅(厚)	特徴	
PL144 15	竈	シカ	右下顎第 1 後臼歯、第 2 後臼歯、第 3 後臼歯		総数18片。	(44022)
(44023)	竈		四肢	*23.7×10.6	焼骨 3 片。	
PL144 16	22.5cm	シカ	左下顎第 2 後臼歯片、第 3 後臼歯	*25.8×11.8		(44024)

45号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 230 図 1	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半はヘラ削り。内面に斜放射状暗文。	
第 230 図 2	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部・底部ともヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。	
第 230 図 3 P L .145	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部・底部ともヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。	
第 230 図 4 P L .145	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。内面は放射状暗文。	
第 230 図 5	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①12.4 ② ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第 230 図 6 P L .145	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①11.6 稜径10.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 230 図 7 P L .145	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①12.0 稜径11.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 230 図 8 P L .145	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①13.6 ②10.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 230 図 9 P L .145	須恵器 杯蓋	埋没土 1/6	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中心部は回転ヘラ削り。	
第 230 図 10 P L .145	須恵器 杯蓋	掘り方埋土 1/4	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。内外面に重ね焼き痕が見られる。	44・45住掘り方埋土
第 230 図 11	須恵器 杯	掘り方 底部片	① ②11.3 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転糸切り。	
第 230 図 12	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 9.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	
第 230 図 13 P L .145	須恵器 杯	10.0cm 1/3	①12.0 ② 5.3 ③ 3.9	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切りか。	内面褐灰色
第 230 図 14 P L .145	土師器 杯	6.5~7.5cm 3/4	①13.6 ② ③ 4.1	①微砂粒 ②軟質 ③橙色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 230図 15 P L .145	須恵器 杯	埋没土 1/4	①15.4 ②10.0 ③ 3.9	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、口縁部下位に1～2段の回転ヘラ削り。	
第 230図 16	土師器 甕	2.5cm 口縁部小片	①14.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部は横ナデ。	
第 230図 17	土師器 甕	埋没土 口縁部小片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り。	
第 230図 18 P L .145	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①10.0 ② ③	①細砂粒 ② ③にぶい橙色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 230図 19 P L .145	土師器 台付甕	-8.0cm 台部欠	①13.0 ② 4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上半が横方向、下半は縦方向のヘラ削り。胴部と台部の接合部は横ナデ。内面胴部はヘラナデ。	ピット底面 から 4 cm
第 230図 20 P L .145	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①21.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 231図 21 P L .145	土師器 甕	15.5cm 1/4	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部内面に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上位が横方向、中位は斜め方向のヘラ削り。胴部内面はヘラナデ。	
第 231図 22	土師器 杯	埋没土 1/8	① 稜径9.7 ③	①細砂粒 ②良好 ③黒褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。内面底部に放射状のヘラ研磨。	
第 231図 23 P L .145	土師器 杯	埋没土 1/6	①12.0 稜径10.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③黒褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。内面底部に放射状のヘラ研磨。	44住と接合
第 231図 24	須恵器 椀	埋没土 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 231図 25 P L .145	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 9.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 231図26 P L .145	鉄器 角釘	埋没土	①4.7 ③0.5	②0.7・0.5 ④3.66	先端、頭の一部欠損。頭が張り出す。L字に屈曲し、先端にいくほどねじれが加わる。	
第 231図27 P L .145	鉄器 板状品	埋没土	①2.1 ③0.25	②1.6 ④1.19	四周欠損。一辺のごく一部のみ残る。	未製品？
第 231図28 P L .145	鉄器 鎌	掘り方	①残7.3 ③0.3	②4.3 ④31.21	先端欠損。刃部は着柄側から上部へ弯曲する。棟は直線的に伸びる。錆ぶくれが多い。	
第 231図29 P L .145	鉄器 棒状品	埋没土	①5.9 ③0.6・1.0	②1.3 ④12.76	両端欠損。上端ほど平坦。下端は幅を減じ厚みを増す。下端が柄状になるか？	

46号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 236図 1	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半が無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 236図 2 P L .146	土師器 杯	埋没土 1/4	①13.0 ② ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半が無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 236図 3 P L .146	土師器 杯	掘り方埋土 1/6	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半が無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 236 図 4 P L .146	土師器 杯	竈 1/6	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半が無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 236 図 5 P L .146	土師器 杯	掘り方埋土 1/3	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半が無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 236 図 6	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面に斜格子状暗文。	
第 236 図 7 P L .146	土師器 杯	掘り方埋土 1/5	①13.8 ② 8.6 ③ 3.6	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状暗文。	
第 236 図 8 P L .146	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状暗文。	
第 236 図 9	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①14.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状暗文。	内面口縁部に煤が付着
第 236 図 10 P L .146	土師器 杯	埋没土 1/6	①12.0 ② 6.4 ③ 3.5	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。	
第 236 図 11 P L .146	土師器 杯	埋没土 1/4	①14.4 ② 8.2 ③ 4.2	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。	
第 236 図 12 P L .146	土師器 杯	5.0cm 1/4	①14.2 ② 7.4 ③ 4.0	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部はヘラ削り。内面は口縁部に斜格子状、底部に弧状暗文。	
第 236 図 13 P L .146	土師器 杯	9.5cm 完形	①12.2 ② 8.0 ③ 4.0	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。	
第 236 図 14 P L .146	土師器 杯	床面密着 1/8	①16.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位・下位は横方向のヘラ削り。内面はハケ目状工具によるナデ後放射状暗文。	
第 236 図 15 P L .146	土師器 杯	埋没土 1/8	①15.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状暗文。	
第 236 図 16	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面は口縁部に雑な放射状暗文。	
第 236 図 17 P L .147	土師器 杯	7.0~16.0 1/2	①15.8 ②10.8 ③ 4.7	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。	
第 236 図 18	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状暗文。	
第 236 図 19	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第 236 図 20 P L .147	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。	
第 236 図 21	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状暗文。	
第 236 図 22	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② 7.6 ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③にぶい黄褐色	底部はヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 237 図 23 P L .147	土師器 皿	埋没土 口縁部片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤橙色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。内面に放射状暗文。	
第 237 図 24 P L .147	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③オリーブ黒色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は全面的に厚く自然釉が付着。	
第 237 図 25 P L .147	須恵器 杯蓋	埋没土 1/2	①15.6 摘径4.6 ③3.1	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。摘は環状で貼付。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	38住と接合
第 237 図 26 P L .147	須恵器 杯蓋	60.5cm 口縁部片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。摘は形状は不明であるが貼付。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
第 237 図 27 P L .147	須恵器 杯蓋	埋没土 1/4	①20.0 摘径5.6 ③ 3.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。摘は環状で貼付。天井部は中程まで回転ヘラ削り、周辺部はカキ目。	摘内部にヘラ描き
第 237 図 28 P L .147	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①12.6 ② 8.0 ③ 4.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 237 図 29	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 237 図 30 P L .147	須恵器 杯	埋没土 1/6	①12.0 ② 8.0 ③ 3.9	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削り。口唇部に自然釉が付着。	
第 237 図 31 P L .147	須恵器 杯	埋没土 1/6	①12.0 ② 7.0 ③ 3.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部最下部、底部は回転ヘラ削り。	
第 237 図 32 P L .147	須恵器 杯	埋没土 1/4	①13.0 ② 7.8 ③ 3.7	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ切り後回転ヘラ削り。	
第 237 図 33 P L .147	須恵器 杯	55.5cm 1/2	①12.0 ② 7.5 ③ 3.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削り。口縁部に自然釉が付着。	
第 237 図 34 P L .147	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①12.8 ② 9.2 ③ 3.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削りか。	
第 237 図 35 P L .147	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② 8.8 ③ 3.2	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	内面灰白色
第 237 図 36 P L .147	須恵器 杯	埋没土 1/6	①14.0 ② 8.4 ③ 3.9	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部最下部、底部は回転ヘラ削り。	
第 237 図 37 P L .147	須恵器 杯	21.5cm 2/3	①13.4 ② 8.4 ③ 4.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ切り後一部に薄い粘土板を貼付し回転ヘラ削り。	
第 237 図 38 P L .147	須恵器 杯	25.5cm 1/3	①12.4 ② 6.8 ③ 4.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。口縁部の一部に自然釉が付着。	
第 237 図 39 P L .147	須恵器 杯	埋没土 1/5	①14.6 ② 9.0 ③ 4.2	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	
第 237 図 40 P L .148	須恵器 椀	埋没土 1/6	①16.0 ②12④11.6 ③ 3.4	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部切り放し技法は不明、高台は貼付。	
第 237 図 41 P L .148	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③オリーブ黒色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は不定方向のヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考	
第 237図 42 P L .148	須恵器 杯	竈・埋没土 1/3	①15.0 ② 8.2 ③ 4.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後 回転ヘラ削り、口縁部最下部に1段の回転ヘラ削り。		
第 238図 43	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 9.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ切り 後周辺部を回転ヘラ削り。		
第 238図 44 P L .148	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 8.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	割れた後に 漆が付着	
第 238図 45 P L .148	須恵器 杯	掘り方埋土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰燻焼成 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。		
第 238図 46 P L .148	須恵器 椀	埋没土 1/4	①17.2 ②11.8 ③6.1④11	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削り、 高台は貼付。		
第 238図 47 P L .148	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ② 9.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り、 高台は貼付。		
第 238図 48	土師器 甕	竈 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	外面は全体的に器面が剥落しており整形については 不明。内面胴部はヘラナデ。		
第 238図 49 P L .148	土師器 甕	46.0cm 口縁部～胴 部上位片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 238図 50 P L .148	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①20.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤褐色	口縁部は横ナデ、胴部上位は横方向と縦方向のヘ ラ削りが見られる。内面胴部はヘラナデ。		
第 238図 51 P L .148	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①24.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 238図 52 P L .148	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 238図 53 P L .148	土師器 甕	61.5cm 口縁部～胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 238図 54 P L .148	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①22.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデで指頭痕が残る。胴部上 位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 238図 55 P L .148	土師器 甕	15.0cm 胴部下位～ 底部片	① ② 4.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③暗青灰色	胴部下位は斜め方向のヘラ削り、底部は不定方向 のヘラ削り。内面はヘラナデ。		
第 238図 56	土師器 甕	埋没土 胴部下位～ 底部片	① ② 7.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	胴部下位は斜め方向のヘラ削り、底部は不定方向 のヘラ削り。内面はヘラナデ。		
第 238図 57 P L .148	土師器 甕	埋没土 胴部下位片	① ②12.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下位はヘラ削り。内面はヘラナデ。		
第 239図 58 P L .148	土師器 甕	36.0cm 口縁部～胴 部上位片	①20.5 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
挿図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 239図59 P L .148	石製品 敲石?	22.5cm	①15.5 ③4.8	②5.6 ④650	粗粒安山岩	両端に敲打痕があり、下端に著しい。両側 面に打ち欠かれた箇所があり、剝離及び敲 打痕が同位置を全周する。	
第 239図60 P L .148	石製品 敲石	2.0cm	①14.4 ③3.8	②10.2 ④950	粗粒安山岩	下端に敲打による剝離がある。表裏に使用 の痕跡が認められる。	

挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 239図61 P L .148	石製品 敲石	13.5cm	①13.2 ③5.3	②7.4 ④850	粗粒安山岩	両端に敲打痕が認められる。表裏に使用の痕跡がある。	周溝より
挿図番号 図版番号	種類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 239図62 P L .149	鉄器 棒状品	埋没土	①11.5 ③0.5・0.7・0.3	②0.5 ④13.77	上端欠損。断面は長方形を呈し、下位ほど厚みを減じる。		
第 239図63 P L .149	鉄器 角釘	埋没土	①5.4 ③0.6	②1.3 ④14.47	両端欠損。頭部が幅を増す。		
第 239図64 P L .149	鉄器 鎌?	掘り方	①4.4 ③0.4	②2.0 ④10.90	四周欠損。右端に屈曲が残る。下端左側も僅かに屈曲する。		
図版番号	出土位置	動 物 名	部 位		長さ×幅(厚)	特 徴	
(46077)	28.5cm	ウシカウマ	橈骨近位端片(?)			生。	
(46078)						焼骨。微細骨片10数片。	
(46079)		小動物				焼骨。骨片1片。 分析No23	
(46080)		小動物				焼骨。骨片1片。 分析No24	

47号住居

挿図番号 図版番号	種類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 242図 1 P L .149	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 242図 2 P L .149	須恵器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部に凹線が1条巡る。	
第 242図 3 P L .149	須恵器 椀	埋没土 口縁部小片	①13.2 ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③にぶい褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 242図 4 P L .149	須恵器 椀	埋没土 口縁部小片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 242図 5 P L .149	須恵器 椀	埋没土 口縁部片	①13.6 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 242図 6 P L .149	須恵器 椀	埋没土 口縁部片	①13.8 ② ③	①細砂粒 ②還元焰燻焼成 ③オリブ黒色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 242図 7 P L .149	須恵器 杯	埋没土 1/4	①15.0 ② 6.0 ③ 5.3	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 242図 8 P L .149	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 5.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 242図 9 P L .149	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 4.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 242図 10 P L .149	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。罫は貼付。	
第 242図 11 P L .149	須恵器 壺類	埋没土 把手片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	把手は貼付、外側はヘラナデ、内側は無調整。	
第 242図 12 P L .149	土製品 不明	埋没土	① ② ③	①微砂粒 ②酸化焰軟質 ③淡黄色	外面はヘラナデか。	

48号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 244図 1 P L .149	土師器 杯	埋没土 1/8	①11.0 ②10.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。口縁部と底部の間に僅かな無調整部分が残る。	
第 244図 2 P L .149	土師器 杯	埋没土 1/4	① 9.6 ② ③ 3.0	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 244図 3	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①11.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第 244図 4	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①10.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第 244図 5 P L .149	土師器 杯	41.4cm 2/3	① 9.8 ② ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 244図 6	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①10.2 稜径10.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 244図 7 P L .149	土師器 杯	埋没土 口縁部片	① 9.8 稜径9.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 244図 8 P L .149	土師器 杯	5.0cm 2/3	①11.0 ② ③ 3.9	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 244図 9 P L .149	土師器 杯	埋没土 1/4	①11.8 ② ③ 3.5	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半はヘラ削り後横ナデか、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 244図 10	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.6 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は上半が無調整、下半は横方向のヘラ削り。	
第 244図 11	土師器 杯	埋没土 1/6	①13.0 ② ③ 3.0	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 244図 12 P L .149	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 244図 13	須恵器 甕	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。内面に自然釉が付着。	
第 244図 14 P L .149	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部に段をもち、口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 244図 15 P L .149	須恵器 甕	埋没土 底部片	① ② 4.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄橙色	胴部下位・底部ともヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 244図 16 P L .149	土師器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①21.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。天井部は端部を除いて回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	

49号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 248図 1 P L .150	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部はヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 248図 2 P L .150	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位は横方向のヘラ削り。		
第 248図 3 P L .150	土師器 杯	埋土・掘方 1/6	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 248図 4 P L .150	土師器 杯	掘り方 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③暗赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。内面に放射状暗文。		
第 248図 5 P L .150	土師器 杯	竈・埋没土 3/4	①16.4 ② ③ 6.0	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 248図 6 P L .150	須恵器 盤	竈 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部はヘラ削り。		
第 248図 7 P L .150	須恵器 盤	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部はヘラ削り。		
第 248図 8 P L .150	須恵器 瓶類	埋没土 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部中程に細かい凹線が数条見られる。		
第 248図 9 P L .150	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	①20.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 248図 10 P L .150	土師器 甕	竈 底部片	① ② 3.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③淡橙色	胴部下位は斜め方向のヘラ削り、底部は木葉痕が残る。		
第 248図 11 P L .150	土師器 甕	2.5cm 底部片	① ② 5.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下位は斜め方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。		
挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 248図12 P L .150	石製品 砥石?	1.5cm	①14.7 ③4.3	②7.2 ④700	石英閃緑岩	両端に敲打痕があり、上端は著しく剝離している。表裏に使用の痕跡があり、両面に幾条もの刃物の条線が刻まれている	
図版番号	出土位置	動物名	部 位	長さ×幅(厚)	特 徴		
(49014)	竈	トリ?		9.4×4.9	焼骨。細骨片。		

50号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 253図 1 P L .150	土師器 杯	埋没土 1/2	①11.0 稜径10.4 ③ 3.4	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部中程に弱い稜をもつ。口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 253図 2 P L .150	土師器 杯	7.5cm 完形	①12.0 ② 8.2 ③ 3.2	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整で指頭痕が残る、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 253図 3 P L .150	土師器 杯	-4.0~3.0 底部の一部 を欠	①12.0 ② 8.4 ③ 3.4	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整で指頭痕が残る、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 253図 4 P L .150	土師器 杯	-4.0~10.5 1/4	①12.4 ②10.0 ③ 4.0	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 253図 5	須恵器 杯蓋	-7.0cm 1/8	①16.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③紫灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中程までは回転ヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 253図 6	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ②10.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り、口縁部下位は1段の回転ヘラ削り。	
第 253図 7 P L .150	土師器 鉢	3.0cm 口縁部片	①22.6 ②10.0 ③ 7.0	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は上位に僅かに無調整部分が残るがその下は横方向のヘラ削り。	
第 253図 8 P L .150	須恵器 杯	-2.0~5.5 1/8	①13.0 ② 7.0 ③ 4.5	①細砂粒 ②酸化焰 ③明褐色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り。	
第 253図 9	須恵器 杯	-16.5cm 底部片	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り。	
第 253図 10 P L .150	須恵器 杯	2.5cm 完形	①12.6 ② 6.5 ③ 4.1	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	口縁部外面 正位に「㊦」 の墨書
第 253図 11 P L .151	須恵器 杯	18.5cm 1/2	①12.6 ② 6.0 ③ 3.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 253図 12 P L .151	須恵器 杯	床面密着 口縁部の一 部を欠	①13.7 ② 6.8 ③ 4.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 253図 13 P L .151	須恵器 杯	埋没土 1/4	①13.8 ② 6.6 ③ 3.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 253図 14	須恵器 椀	埋没土 口縁部小片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 253図 15	須恵器 椀	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 254図 16 P L .151	須恵器 椀	埋没土 1/2	①13.6 ②6.2④6.2 ③ 5.6	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	51住と接合
第 254図 17 P L .151	須恵器 椀	床面密着 口縁部の一 部を欠	①13.4 ②5.6④5.6 ③ 4.9	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 254図 18 P L .151	須恵器 椀	2.0cm 1/3	①14.0 ②6.6④6.6 ③ 5.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 254図 19 P L .151	須恵器 椀	-14.0cm 4/5	①14.0 ②6.8④6.8 ③ 5.9	①細砂粒 ②還元焰燻焼成 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 254図 20 P L .151	須恵器 椀	床面密着 1/4	①15.2 ②7.0④7.4 ③ 5.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 254図 21 P L .151	須恵器 杯	-2.5~1.0 2/3	①14.8 ② 7.4 ③ 4.7	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 254図 22	須恵器 杯	-2.0cm 1/4	①14.0 ② 7.6 ③ 3.5	①細砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 254図 23 P L .151	須恵器 椀	7.0cm 完形	①15.4 ②7.0④7.0 ③ 5.6	①細砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	体部外面逆 位に「得」の 墨書3ヶ所
第 254図 24 P L .152	須恵器 椀	16.5cm 完形	①15.4 ②6.8④6.9 ③ 5.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	底部内面に 「+」の墨書

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考	
第 255図 25 P L .152	土師器 甕	18.0cm 1/4	①11.0 胴部径12.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 255図 26	土師器 甕	-14.0cm 口縁部小片	①19.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位はヘラ削り。		
第 255図 27	土師器 甕	23.0cm 口縁部～胴部上位片	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部は横方向のハケ目。		
第 255図 28 P L .152	土師器 甕	-4.0cm 口縁部～胴部上位片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 255図 29 P L .152	土師器 甕	-2.0cm 口縁部～胴部中位片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向、中位は斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 255図 30 P L .152	土師器 甕	13.0cm 口縁部片	①20.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部は横ナデ。		
第 255図 31 P L .152	土師器 甕	-19～-9.0 口縁部～胴部上位片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 255図 32 P L .152	土師器 甕	-11.5～2.5 口縁部～胴部中位片	①19.0 胴部径25.0 ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上位が横方向、中位が縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 255図 33 P L .152	土師器 甕	-14～-10.5 胴部下半片	① ② 3.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	内面に輪積痕が残る。胴部下半は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 255図 34	土師器 甕	埋没土 胴部下位片	① ② 3.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③灰褐色	胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 255図 35 P L .152	土師器 甕	竈掘り方 胴部下位片	① ② 4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	埋土と接合	
第 255図 36 P L .152	須恵器 甕	埋没土 口縁部小片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。		
第 256図 37 P L .152	須恵器 壺	埋没土 口縁部片	①14.4 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③オリーブ灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部に凸帯が1条巡る。		
第 256図 38 P L .152	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部小片	①17.2 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。鏝は貼付。		
挿図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 256図39 P L .152	石製品 台石?	床面密着	①18.0 ③9.1	②16.1 ④3000	粗粒安山岩	右端欠損。左端のみ肥厚するが他は平坦をなす。平坦面に使用の可能性あり。	
第 256図40 P L .152	石製品 擦石?	床面密着	①12.0 ③3.0	②5.9 ④350	デイサイト	表裏に使用の痕跡が認められる。鉄分の付着がある。	
第 256図41 P L .152	石製品 電構築材?	床面密着	①13.6 ③8.6	②11.1 ④1300	粗粒安山岩	黒煤の付着が認められる。	
第 256図42 P L .153	石製品 電構築材	-6.3cm	①26.2 ③11.8	②14.4 ④5200	火山礫質凝灰岩	片端欠損。表裏両側面に削りがよく残っている。小口は面が荒れるが削りの痕跡がある。工具幅は最大4.5cmを測る。黒煤付着があり、割れ口にもみられる。	
挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 257図43 P L .153	鉄器 鋤先	5.0cm	①残3.0 ③1.2	②残14.6 ④66.71	刃部欠損。板を折曲げて成形。本体装着部のみV字状に開く。		

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 257図44 P L .153	鉄器 刀子	埋没土	①推定残15.3 ③刃0.5 茎0.3	②刃1.5 茎0.9 ④19.89	刃部中位、切先欠損。棟間は残存するが刃間は不明確。茎が強く曲がっている。	復元残存長 19.6
第 257図45 P L .153	鉄器 角釘	埋没土	①残3.0 ③0.2	②0.4 ④0.97	両端欠損。断面長方形。上端が僅かに開き気味となる。	
第 257図46 P L .153	鉄器 角釘	埋没土	①残8.4 ③0.4	②0.5 ④7.72	両端欠損。全体にねじれが加わる。中位に錆ぶくれと剝離があり、ねじれ面が不明確。	

51号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 261図 1 P L .153	土師器 甕	18.5cm 口縁部片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。	
第 261図 2 P L .153	土師器 甕	7.0~28.5 口縁部~胴部 中位片	①21.0 胴部径22.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	「コ」の字状口縁甕。口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上位が横方向、中位からは縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 261図 3 P L .153	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部~胴部 上位小片	罅径22.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。罅は貼付、胴部は底部からの縦方向のヘラ削り。	
第 261図 4 P L .153	土師器 甕	埋没土 底部	① ② 3.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 261図5 P L .153	銅製品 単脚足金物	21.5cm	①5.25 ③1.7	②1.0 ④12.68	完形。やや潰れて鞘の形状を損なっている。佩表~佩裏に二本の条線が鑿で掘り込まれる。吊手の環状金具と責金具状金具は一体の鑄造で鑿による環状のくり込みを有す。吊手金具の位置は潰れているため定かではないが、責金具状金具のほぼ真上かやや佩裏に寄る程度であろう。方頭大刀につく足金物の可能性が考えられる。	

52号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 266図 1 P L .153	土師器 杯	埋没土 1/6	①10.3 ② ③ 2.6	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位から底部は不定方向のヘラ削り。	
第 266図 2 P L .153	土師器 杯	1.5cm 口縁部の一 部を欠	①11.2 稜径11.0 ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 266図 3	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は上半が無調整、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 266図 4 P L .153	土師器 杯	1.5cm 完形	①11.4 ② ③ 4.0	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 266図 5 P L .153	土師器 杯	埋没土 5/6	①12.7 ② ③ 4.1	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 266図 6 P L .153	土師器 杯	埋没土 1/5	①14.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 267図 7 P L .153	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位から下位は横方向のヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第267図 8 P.L.153	土師器 杯	30.0cm 口縁部の一部を欠	①12.0 ② ③4.5	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄橙色	内面黒色処理。口縁部は横ナデ後横方向のヘラ研磨、底部はヘラ削り後不定方向のヘラ研磨。内面は口縁部が横方向、底部は不定方向のヘラ研磨。		
第267図 9 P.L.153	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ②9.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部と口縁部最下位は回転ヘラ削り。		
第267図 10 P.L.153	須恵器 杯	埋没土 1/4	①15.6 ②7.6 ③3.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。		
第267図 11 P.L.154	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②7.0④7.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。高台は貼付。		
第267図 12 P.L.154	須恵器 壺	埋没土 胴部上位片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黒色	ロクロ整形、回転方向は不明。肩部から胴部上位は回転ヘラ削り。		
第267図 13 P.L.154	土師器 甕	1.0~25.0 各部の一部を欠	①18.8 ②5.4 ③23.2	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上位から中位まで縦方向、下位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	煙道部より	
第267図 14 P.L.154	土師器 甕	1.0~9.0 胴部下半	① ②4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	内面に輪痕が残る。胴部は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り、内面胴部はヘラナデ。	煙道部より	
第267図 15 P.L.154	土師器 甕	1.0~25.0 胴部の一部を欠	①18.5 ②5.4 ③29.1	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	煙道部より	
第268図 16 P.L.154	須恵器 壺	13.5cm 口縁部~胴部上位片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部に凸帯が1条巡る。	煙道部より	
第268図 17	土師器 甕	甕 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は横ナデ。		
挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石材	特徴その他	備考
第268図18 P.L.154	石製品 敲石	2.0cm	①13.7 ③4.9	②6.7 ④700	ひん岩	下端欠損。上端に弱い敲打痕が認められる。使用の痕跡がある。	
第268図19 P.L.154	石製品 こもあみ石	床面密着	①13.35 ③5.15	②6.1 ④650	蛇紋岩	下端に弱い敲打痕が認められる。裏面に黒煤が付着する。	
第268図20 P.L.154	石製品 こもあみ石	床面密着	①14.5 ③4.0	②4.8 ④500	ひん岩	下端に弱い敲打痕が認められる。表に使用の痕跡がある。	
第268図21 P.L.154	石製品 こもあみ石	4.0cm	①12.9 ③2.6	②7.0 ④450	ひん岩	表裏に使用の痕跡が認められる。	
第268図22 P.L.154	石製品 こもあみ石	床面密着	①11.7 ③3.1	②5.0 ④300	ひん岩	表裏に使用の痕跡が認められる。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴		備考
第268図23 P.L.154	鉄器 Ω状品	埋没土	①残3.4 ③0.5	②残2.3 ④4.66	上部欠損。上端右側は内弯し始める。推定形状は引手壺に似る。		
第268図24 P.L.154	鉄器 円形品	埋没土	①残1.8 ③0.3	②残2.9 ④2.03	端部が割れ口か不詳。埋没時には現状となる。中央孔の端部僅かにコーナーが残る。		鉄銭か小刀鏝か？

53号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第273図 1 P.L.155	土師器 杯	埋没土 1/3	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、中程に無調整部分が僅かに残る。下半から底部はヘラ削り。	
第273図 2 P.L.155	土師器 杯	埋没土 1/4	①10.4 ② ③3.9	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は上位が無調整、中位から下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考	
第 273図 3 P L .155	土師器 杯	4.1cm 完形	①10.6 ② ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は上位が無調整、中位から下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	内面底部に「卍」の刻書 煙道部より	
第 273図 4 P L .155	土師器 杯	17.5cm 完形	①10.4 ② ③ 3.7	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は上位が無調整、中位から下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 273図 5	土師器 杯	17.5cm 口縁部片	①10.6 稜径10.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 273図 6 P L .155	土師器 杯	埋没土 1/4	①10.8 稜径10.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 273図 7 P L .155	土師器 杯	4.1cm ほぼ完形	①20.4 ② ③ 7.9	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	煙道部より	
第 273図 8 P L .155	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ②10.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。		
第 273図 9 P L .155	須恵器 長頸壺	埋没土 胴部下位片	① ② 9.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下位は回転ヘラ削り、高台は貼付。		
第 273図 10 P L .155	須恵器 長頸壺	埋没土 胴部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。		
第 273図 11 P L .155	土師器 甕	埋土・掘方 口縁部～胴 部上位片	①18.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 273図 12 P L .155	土師器 甕	6.5cm 口縁部～胴 部上位片	①22.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③淡黄色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 273図 13	土師器 甕	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③黄灰色	底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。		
挿図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 273図14 P L .155	石製品 砥石	左壁石組	①6.8 ③2.8	②3.6 ④150	砥沢石	両端欠損。表裏左右の4面を研ぎ面として使用。「×」が刻まれている。	
挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 274図15 P L .155	鉄器 J字状刀子	埋没土	①残6.3 ③0.45	②0.9 ④5.94	関、茎欠損。刃部端が屈曲し、屈曲部の錆による剥離が著しい。刃部の直線的な状態から屈曲して焼きを入れたものか？		
第 274図16 P L .155	鉄器 刀子	埋没土	①残8.8 ③0.5	②1.5 ④13.20	両端、刃部欠損。棟関は明確に残るが刃関は不明確。刃部は浅く内湾する(研ぎべりの可能性が高い)。茎残存部は緩く屈曲し始めている。		
第 274図17 P L .155	鉄器 鑿	埋没土	①7.5 ③1.0	②2.4 ④55.41	最大幅は刃部にあり、中位が最小幅。左右の厚みが異なる。頭部に打痕は無い。		小鉄斧？
第 274図18 P L .155	鉄器 J字状品	埋没土	①残5.65 ③0.5	②0.75 ④5.44	両端欠損。茎様を呈す。残存部に関は認められない。端部が曲折する。		刀子？

54号住居

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 277図 1 P L .156	土師器 杯	埋没土 1/4	① 9.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 277 図 2 P L . 156	土師器 杯	5.0cm 完形	①10.0 ② ③ 3.6	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 277 図 3 P L . 156	土師器 杯	埋没土 1/3	①11.2 ② ③ 4.3	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は上位が無調整、中位から下位は横方向のヘラ削り。		
第 277 図 4 P L . 156	土師器 杯	埋没土 1/6	①12.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。		
第 277 図 5 P L . 156	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ②12.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 277 図 6	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半はヘラ削り。		
第 277 図 7 P L . 156	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半はヘラ削り。内面に放射状暗文。		
第 277 図 8 P L . 156	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半はヘラ削り。内面に放射状暗文。		
第 277 図 9 P L . 156	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①15.2 ②12.0 ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部はヘラ削り。内面は斜格子状暗文。		
第 277 図 10 P L . 156	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①15.2 ② ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位から下位は横方向のヘラ削りであるが摩耗のため単位は不明。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。		
第 277 図 11	土師器 杯	埋没土 底部片	① ②10.2 ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。		
第 277 図 12 P L . 156	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は中程まで回転ヘラ削り。		
第 277 図 13 P L . 156	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②11.0 ④11.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。		
第 277 図 14	須恵器 杯	埋没土 底部小片	① ② 9.4 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転糸切り。		
第 277 図 15 P L . 156	須恵器 長頸壺	埋没土 頸部	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。頸部と胴部の接合は2段構成。		
第 278 図 16 P L . 156	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 上位片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 278 図 17 P L . 156	須恵器 横瓶	埋没土 口縁部～頸部	①12.8 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部は平行叩き。内面は同心円状あて具痕が残る。		
第 278 図 18 P L . 156	土師器 甕	9.5cm 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	胴部外面はヘラ削り、内面はヘラナデ。		
挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 278 図19 P L . 156	石製品 砥石	埋没土	①8.8 ③1.4	②3.6 ④100	砥沢石	下端が欠損し、上端小口は面が荒れる。表裏左右の4面を研ぎ面として使用している。割れ口に条線が刻まれており、欠損後も使用した可能性がある。	
第 278 図20 P L . 156	石製品 台石?	床面密着	①17.1 ③5.9	②12.6 ④1700	溶結凝灰岩	表に弱く、裏に著しく使用の痕跡が認められる。	

挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 278図21 P L .156	石製品 敲石	床面密着	①17.7 ③6.8	②8.7 ④1600	ひん岩	両端に弱い敲打痕が認められる。裏面は大きく剝離する。	
第 278図22 P L .156	石製品 擦石?	床面密着	①14.1 ③5.1	②9.3 ④1000	石英閃緑岩	上端欠損し、全体的に面が荒れて剝離している。表に使用の痕跡が認められる。	

55号住居

挿図番号 図版番号	種類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 282図 1	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。	
第 282図 2	土師器 杯	掘り方埋土 口縁部片	①10.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半はヘラ削り。	
第 282図 3	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。	
第 282図 4	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.5 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半はヘラ削り。	
第 282図 5 P L .157	土師器 杯	埋没土 口縁部～底 部片	①13.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は横ナデ、下位に僅かに無調整が残る、底部はヘラ削り。	
第 282図 6	土師器 皿	埋没土 口縁部～底 部片	①14.0 ② ③ 1.9	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。内面底部に放射状暗文。	
第 282図 7 P L .157	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①15.0 ② 9.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削りであるが単位は摩耗のため不明。内面は口縁部に放射状暗文。	
第 282図 8 P L .157	土師器 杯	20.0cm 完形	①12.0 ② 9.0 ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に斜格子状、底部に螺旋状暗文。	
第 282図 9	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状暗文。	
第 282図 10	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状暗文。	
第 283図 11 P L .157	土師器 杯	埋没土 2/3	①14.6 ② 9.0 ③ 4.2	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状暗文、底部はヘラ研磨か。	
第 283図 12 P L .157	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	底部は外面がヘラ削り。内面は螺旋状暗文。	底部外面に「×」の刻書
第 283図 13	須恵器 杯蓋	掘り方 口縁部片	①16.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。内面に身受けのカエリをもつ。外面に自然釉が付着。	
第 283図 14 P L .157	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中央部は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 283図 15	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ② 9.0 ③ 4.1	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。内面に自然釉が付着。	
第 283図 16 P L .157	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①14.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。外面に自然釉が付着。	

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 283図 17 P L .157	須恵器 杯	埋没土 1/4	①13.4 ② 8.6 ③ 3.4	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後 周辺部を回転ヘラ削り。	
第 283図 18 P L .157	須恵器 杯	掘り方 P I 3/4	①13.0 ② 8.0 ③ 3.4	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ切り 後回転ヘラ削り、口縁部最下位にも1段の回転ヘ ラ削り。	埋土と接合
第 283図 19 P L .157	須恵器 椀	埋没土 口縁部～底 部片	①18.6 ②13.4④12 ③4.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削 り、口縁部下位も1段の回転ヘラ削り、高台は貼 付。	
第 283図 20 P L .157	須恵器 杯	埋没土 1/4	①13.9 ② 8.0 ③ 3.7	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後 回転ヘラ削り、口縁部最下位にも1段の回転ヘラ 削り。	
第 283図 21 P L .157	須恵器 杯	5.0cm 1/2	①14.0 ②10.0 ③ 3.8	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削 り、口縁部下位も1段の回転ヘラ削り。	
第 283図 22 P L .157	土師器？ 杯？	埋没土 口縁部下半 ～底部片	① ② 8.5 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘ ラ削り。	
第 283図 23	須恵器 杯	埋没土	① ② ③	①微砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削 りか。	
第 283図 24	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ②10.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削 り。	
第 283図 25	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 8.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削 り。	
第 283図 26 P L .157	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②11.6 ④10.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削 り、口縁部は下位も1段の回転ヘラ削り、高台は 貼付。	
第 284図 27 P L .157	須恵器 椀	埋土・掘方 底部小片	① ②10.0 ④10.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部切り放し技法 は不明、高台は貼付。	
第 284図 28 P L .157	土師器 甕	埋没土 口縁部片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。	
第 284図 29 P L .157	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①16.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 284図 30 P L .157	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①23.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 284図 31 P L .158	土師器 甕	27.5cm 口縁部～胴 部上位片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③灰白色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 284図 32 P L .158	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 284図 33 P L .158	土師器 甕	埋没土 口縁部片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ。	
第 284図 34 P L .158	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①17.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向の ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 284図 35 P L .158	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 284図 36 P L .158	土師器 甕	埋没土 底部片	① ②11.0 ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下位、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 284図 37	土師器 甕	埋没土 底部片	① ② 8.0 ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	胴部下位、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 284図 38	土師器 甕	埋没土 胴部下位～ 底部片	① ② 5.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部もヘラ削り、 内面胴部はヘラナデ。	
第 284図 39	土師器 甕	掘り方埋土 胴部下位～ 底部片	① ② 5.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部下位は斜め方向のヘラ削り、底部もヘラ削り、 内面胴部はヘラナデ。	
第 285図 40 P L .158	須恵器 壺	掘り方 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部に凸帯が1 条巡る。	
第 285図 41 P L .158	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	①16.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。内面に自然釉が付 着。	
第 285図 42 P L .158	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 285図 43 P L .158	須恵器 短頸壺？	埋没土 底部～胴部 下位片	① ②10.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削 り、胴部下位にも1段の回転ヘラ削り、高台は貼 付。内面底部に自然釉が付着。	
第 285図 44 P L .158	須恵器 鉢	埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③青黒色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 285図 45 P L .158	土製品 紡錘車	埋没土 完形	径4.9～3.0 孔径0.8 高2.2	①緻密 ②酸化焰硬質 ③にぶい橙色	全面にナデ。上面は指圧痕による窪みが一周する。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②最大幅 ③厚み	④重量	残存状態及び特徴	備考
第 285図46 P L .158	鉄器 棒状品	埋没土	①残3.9・10.4 ③0.8	②0.9 ④38.42	中位、下端欠損。頭部不定形に残存。幅・厚み ともに大きい。中位と下端の剥離が顕著。	
第 285図47 P L .158	鉄器 棒状品	埋没土	①残3.6・2.0 ③0.3	②0.4 ④2.32	中位、頭部欠損。中位欠損部の上が大きく 剥離。下端の断面は菱形を呈す。	
第 285図48 P L .158	鉄器 棒状品	埋没土	①残2.8 ③0.5	②0.65 ④1.78	両端欠損。面の剥離箇所が多い。	
第 285図49 P L .158	鉄器 鉄鎌	埋没土	①残7.35 推定11.0 ③茎0.4 頸部0.5	②茎0.4 頸部0.5 ④8.33	鎌身、茎下端欠損。頸部は上位ほど扁平となる。 関は立体的に作られる。頸部中位で曲折する。	
第 285図50 P L .158	鉄器 板状品	埋没土	①残3.4 ③0.75	②残2.6 ④13.20	四周欠損。裏面は平坦で表面凹凸あり。	未製品？
第 285図51 P L .158	鉄器 角釘	埋没土	①残5.2 ③0.6	②0.6 ④4.05	下端欠損。側面全体に緩いカーブを描く。 下位にねじれが加わる。	
第 285図52 P L .159	鉄器 袋状品	埋没土	①残3.1 ③0.5	②1.8 ④2.90	両端欠損。錆により芯が膨れている。刃状 を呈さない。	
第 285図53 P L .159	鉄器 板状品	埋没土	①残2.6 ③0.2	②残2.0 ④2.38	三辺欠損。面の凹凸が著しい。	未製品？
第 285図54 P L .159	鉄器 板状品	埋没土	①残2.5 ③0.3	②残2.2 ④3.82	三辺欠損。面の凹凸が著しい。	未製品？
第 285図55 P L .159	鉄器 板状品	埋没土	①残2.95 ③0.1	②残1.4 ④0.83	四周欠損。面の剥離が著しい。僅かに角が 残る。	
図版番号	出土位置	動物名	部位	長さ×幅(厚)	特徴	
(55054)	竈				焼骨。微細骨片数片。	
(55055)	竈				焼骨。超微細骨片数片。	
(55058)	竈	小動物	肢骨片など		焼骨。骨片数片。	分析№27

図版番号	出土位置	動物名	部位	長さ×幅(厚)	特徴
(55059)	竈	小動物	肢骨片		焼骨。他に骨片2片。分析No.28
(55060)	竈	トリなど	肋骨片、肢骨片		焼骨。骨片5片。分析No.29

56号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第290図 1	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、中程に無調整部分が残る、下半は横方向のヘラ削り。	
第290図 2	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位は横方向のヘラ削り。	
第290図 3 P.L.159	土師器 杯	6.0cm 1/8	①14.0 ② ③4.1	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第290図 4 P.L.159	土師器 杯	埋土・1層 1/5	①12.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、中程に無調整部分が残る、下半から底部はヘラ削り。	
第290図 5 P.L.159	土師器 杯	埋土・2層 1/4	①11.0 ② ③3.2	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第290図 6	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③にぶい橙色	底部外面は不定方向のヘラ削り、内面に螺旋状暗文。	内面橙色
第290図 7 P.L.159	土師器 杯	埋土・1.5層 1/6	①14.0 ② ③4.0	①細砂粒 ②軟質 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、底部はヘラ削りであるが、摩耗のため単位・方向は不明。	
第290図 8 P.L.159	土師器 杯	18.0cm 1/4	① ②9.0 ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横方向のヘラ削り後ヘラ研磨、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。	
第290図 9 P.L.159	土師器 杯	43.0cm 1/4	①13.8 ② ③4.2	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。	
第290図 10 P.L.159	土師器 杯	床面密着 1/2	①13.8 ② ③4.3	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。	
第290図 11 P.L.159	須恵器 椀	埋没土 1/5	①15.8 ②12④10.2 ③3.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は削り出し。	
第290図 12 P.L.159	土師器 杯	床面密着 1/2	①17.0 ② ③4.7	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に斜格子状、底部に螺旋状暗文。	
第290図 13	須恵器 杯	1層 底部片	① ②7.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第290図 14 P.L.159	須恵器 杯	埋没土 口縁部小片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第290図 15	土師器 甕	埋没土 口縁部片	①11.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ。	
第291図 16 P.L.159	土師器 甕	埋土・5層 口縁部～胴部上位片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③灰赤色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第291図 17 P.L.159	土師器 甕	埋土・5層 口縁部～胴部上位片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考	
第 291図 18 P L .160	土師器 甕	1.5~15.0 口縁部~胴 部中位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向、中位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 291図 19 P L .160	土師器 甕	埋土・1層 口縁部~胴 部上位片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向、斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 291図 20 P L .160	土師器 甕	2.5~15.0 口縁部~胴 部上位片	①23.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向、斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 291図 21 P L .160	土師器 甕	3.0cm 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	胴部外面は縦方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。		
第 291図 22 P L .160	土師器 甕	埋土・2層 口縁部~胴 部中位片	①22.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上位が横方向及び斜め方向、中位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 291図 23 P L .160	土師器 鉢	埋没土 口縁部片	①30.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、体部は縦方向のヘラ削り。		
第 292図 24 P L .160	須恵器 横瓶	5.5~39.5 1/2	頸部径10.6 胴部径25.3 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰オリーブ色	ロクロ整形、胴部外面は平行叩き。内面には同心円状のあて具痕が残る。頸部から口縁部にかけては横ナデ。		
挿図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 293図25 P L .160	石製品 台石?	11.0cm	①31.8 ③9.0	②24.7 ④5850	粗粒安山岩	表全域に面取り及び使用の痕跡が認められる。	
第 293図26 P L .161	石製品 こもあみ石	9.5cm	①13.6 ③6.2	②11.8 ④1520	石英閃緑岩	周囲頂部および表裏に敲打痕が認められる。被熱の可能性があり、一部火はねしている。	
第 293図27 P L .161	石製品 こもあみ石	3.5cm	①9.2 ③3.7	②4.1 ④200	粗粒安山岩	両端に敲打痕が認められる。全体に面の使用痕跡がある。	
第 293図28 P L .161	石製品 こもあみ石	6.0cm	①7.8 ③5.65	②6.3 ④400	粗粒安山岩	両端及び裏面に敲打痕が認められる。	
挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 293図29 P L .161	鉄器 板状品	埋没土	①8.9 ③0.7	②2.8 ④21.47	下端欠損。上端は刃部となる。大刀の茎に似るが関が無くバチ状に開く。		工具?
第 293図30 P L .161	鉄器 刀子	埋没土	①残5.6 ③刃0.7 茎0.7	②刃1.5 茎1.0 ④10.80	両端欠損。刃関、棟関は良く残る。錆ぶくれ、剝離有り。		
第 293図31 P L .161	鉄器 刀子	埋没土	①残3.8 ③刃0.4 茎0.4	②刃1.5 茎1.0 ④4.20	茎尻、刃部欠損。刃関、棟関は明確に残る。		
第 293図32 P L .161	鉄器 板状品	埋没土	①2.3 ③0.4	②2.9 ④2.65	全体に弯曲し表裏の凹凸が激しい。		スラグ?
図版番号	出土位置	動 物 名	部 位		長 さ × 幅 (厚)	特 徴	
(56033)	竈焚き口付近				9.4×4.6	焼骨。微細骨片。	

57号住居

挿図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 297図 1 P L .161	土師器 杯	埋没土 1/5	①12.4 ② ③ 3.1	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、稜は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 297図 2	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	底部外面は不定方向のヘラ削り、内面は螺旋状暗文。	
第 297図 3	土師器 杯	29.0cm 口縁部片	①13.2 ② ③	①微砂粒 ②軟質 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面は放射状暗文。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 297図 4	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①18.4 ②10.4 ③ 5.2	①細砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位は横方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。		
第 297図 5 P L .161	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①16.0 ②14.6 ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部はヘラ削り。内面は口縁部に放射状暗文。		
第 297図 6 P L .161	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② 8.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にふい橙色	口縁部は横方向、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部は線状、円弧状暗文。		
第 297図 7 P L .161	土師器 盤	42.0cm 1/4	①17.8 ②15.2 ③ 3.9	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 297図 8 P L .161	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①15.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は中程まで回転ヘラ削り。		
第 297図 9	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①11.0 ② 6.0 ③ 3.2	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。		
第 297図 10 P L .161	須恵器 杯	2.0cm 完形	①12.8 ② 6.9 ③ 4.1	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。		
第 297図 11 P L .161	須恵器 杯	竈・掘り方 口縁部～底部片	①15.6 ②11.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。		
第 297図 12	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 7.2 ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。		
第 297図 13	土師器 甕	掘り方 口縁部片	①12.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	外面の器面は剝落が見られるが、口縁部から頸部は横ナデ。		
第 297図 14 P L .161	土師器 甕	24.0cm 口縁部～胴部 中位片	① 胴部径31.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向、中位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 297図15 P L .162	石製品 竈構築材	2.0cm	①13.3 ③8.0	②11.0 ④1200	粗粒安山岩	一部に自然面を残して割れている。割れ口に焼土が付着する。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 297図16 P L .161	銅製品 キセル雁首	竈・埋没土	①残3.4 ③2.9	②1.8 ④4.87	筒状端部欠損。筒状端部はやや潰れて楕円形を呈している。		

58号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 299図 1 P L .162	土師器 杯	埋没土 1/4	①12.8 稜径12.4 ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。		
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 299図2 P L .162	鉄器 角釘	埋没土	①残3.5 ③0.6	②0.8 ④3.37	両端欠損。下端は緩やかにカーブを描き、軽いねじれを生じる。厚さは左右側面で均一ではない。		

59号住居

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 302図 1 P L .162	土師器 杯	埋没土 口縁部～底 部小片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 302図 2 P L .162	土師器 甕	床面密着 1/2	①17.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	内面は黒色処理。頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上半は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 302図 3 P L .162	土師器 甕	床面密着 胴部の一部 を欠	①19.4 ② 4.6 ③30.3	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 302図 4 P L .162	土師器 甕	床面密着 胴部の一部 を欠	①22.0 ② 6.0 ③36.8	①細砂粒 ②良好 ③におい赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 302図 5 P L .162	土師器 台付甕	床面密着 1/3	胴部径12.8 ② 6.5 ③10.4	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部下半と台部上半は縦方向のヘラ削り、台部端部は横ナデ。内面胴部はヘラナデ。	
第 302図 6 P L .162	土師器 台付甕	埋没土 底部～上部 上位片	① ② 5.0 ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③淡橙色	胴部内面は黒色処理。胴部下位と台部上位は縦方向のヘラ削り。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 302図7 P L .162	鉄器 角釘	竈埋没土	①残5.6 ③0.4	②0.4 ④2.64	上端欠損。下位が緩やかなカーブを描く。中位～上位面の剝離が著しい。	
第 302図8 P L .162	鉄器 板状品	埋没土	①残2.5 ③0.2	②3.1 ④4.96	左端欠損。刃は無く左にやや開き気味に伸びる。	

2号掘立柱建物

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 307図 1 P L .163	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削りか。内面口縁部に放射状暗文。	

7号掘立柱建物

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 312図1 P L .163	鉄器 鉄鏃	埋没土	①残13.9 ③莖0.4 頸部0.4	②莖0.3 頸部0.4 ④9.11	頸部中位、莖尻欠損。頸部からやや幅を広げて関部となり関は強く張り出す。片面に刃がよく残る。	②刃0.6 ③刃0.25

12号掘立柱建物

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 318図 1 P L .163	須恵器 杯	埋没土 底部小片	① ② 8.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部の整形は不鮮明であるがヘラ削りか。	

23号土坑

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 321図 1 P L .163	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.8 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に稜を持つ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 321図 2 P L .163	土師器 杯	埋没土 1/8	①15.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 321図 3 P L .163	須恵器 高杯	埋没土 身部1/3	① 9.8 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、脚部は貼付。	
第 321図 4 P L .163	須恵器 高杯	埋没土 脚部片	脚径9.8 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	

24号土坑

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 322図 1 P L .163	土師器 杯	埋没土 1/2	① 9.8 稜径9.6 ③ 3.6	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に稜を持つ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 322図 2 P L .163	土師器 杯	埋没土 1/2	①11.2 稜径10.4 ③ 3.3	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜を持つ。口縁部は横ナデ、稜下は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 322図 3 P L .163	土師器 杯	24.5cm 3/4	①11.6 稜径11.4 ③ 3.4	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜を持つ。口縁部は横ナデ、稜下は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 322図 4 P L .163	須恵器 甕	3.5cm 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁部外反し、波状文が施される。下端に突帯の痕跡あり。	322図 6 と同一個体か
第 322図 5 P L .163	土師器 甕	5.0cm 口縁部小片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ。	
第 322図 6	須恵器 甕	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	中位に突帯が巡り上下に波状文を施す。	

76号土坑

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 324図 1 P L .163	土師器 杯	埋没土 1/2	①13.0 稜径13.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜を持つ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 324図 2 P L .163	灰釉陶器 長頸壺	埋没土 胴部上位片	① ② ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。釉調は透明感のある緑灰色。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 324図 3 P L .163	鉄器 J 字帯状品	埋没土	①残4.25 ③0.5	②1.35 ④5.33	上端欠損。全体的に錆により剥離している。左側外形は直線的で棟状をなすが棟関はなく刃関も明らかではない。刃側の一部にめくれがみられる。	刀子？

91号土坑

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 327図 1 P L .163	須恵器 杯蓋	埋没土 1/4	①19.6 摘径5.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り、摘は輪状で貼付。	

93号土坑

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 328図 1 P.L.163	土師器 杯	埋没土 1/4	①11.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位は横方向のヘラ削り。	
第 328図 2	須恵器 盤	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	

143号土坑

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 335図 1 P.L.163	須恵器 椀	埋没土 1/3	① ②8.4④9.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部の切り離し技法は高台の貼付時のナデのため不明。	

110号ピット

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 336図 1 P.L.164	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	

245号ピット

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 337図 1 P.L.164	土師器 杯	埋没土 5/6	①11.6 稜径10.6 ③ 3.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口縁部下に弱い稜を持つ。口縁部は横ナデ、稜下は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	

256号ピット

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 338図 1 P.L.164	土師器 杯	埋没土 2/3	①12.0 ② ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	

313号ピット

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 339図 1 P.L.164	土師器 杯	埋没土 1/6	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	

329号ピット

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 340図 1 P.L.164	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。底部もヘラ削り。	

406号ピット

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 341図 1 P L .164	土師器 杯	埋没土 1/5	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。底部もヘラ削り。	

478号ピット

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 344図 1 P L .164	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①16.0 ② ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面は放射状暗文。	

482号ピット

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 345図 1 P L .164	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。	

512号ピット

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 347図 1 P L .164	土師器 杯	埋没土 1/6	①10.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、中程に無調整、下半から底部はヘラ削り。	
第 347図 2 P L .164	土師器 杯	埋没土 1/8	①13.0 ② ③ 3.0	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 347図 3 P L .164	須恵器 蓋	埋没土 1/5	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。天井部の中程までは回転ヘラ削り。	

543号ピット

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 348図 1 P L .164	鉄器 鉋?	埋没土	①残4.15 ③茎0.2 刃0.15	②茎0.2 刃0.95 ④1.81	上端欠損。中位から幅を増し厚みを減じる。下端で急激に屈曲する。	鉋?

756号ピット

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 349図 1 P L .164	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①19.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上位が横ナデであるが、一部に中・下位と同様に横方向のヘラ削り。内面は横方向の間隔のあいたヘラ研磨後放射状暗文。	
第 349図 2 P L .164	須恵器 杯蓋	9.7cm 1/2	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り、摘は貼付。	

764号ピット

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 350図 1 P L .164	須恵器 杯	埋没土 1/5	①14.6 ② 9.0 ③ 3.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	

832号ピット

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 352図 1 P L .164	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい赤褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、 体部にナデ痕が残る。	内面灰色

847号ピット

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 353図 1 P L .164	土師器 杯	埋没土 1/6	①10.0 ② ③ 2.7	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不 定方向のヘラ削り。	

923号ピット

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 354図 1 P L .164	灰釉陶器 椀	埋没土 底部片	① ②6.8④7.0 ③	①緻密 ②還元焰緻密 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ 調整、高台は貼付。施釉方法は不明。釉調は不透 明な灰色。	虎溪山1号 窯式期

1区遺構外

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 355図 1 P L .165	土師器 杯	道西 1/3	①12.4 ② ③ 2.9	①細砂粒 ②良好 ③灰黄色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 355図 2	土師器 杯	道東 口縁部片	①13.0 ② 9.0 ③ 3.0	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。内 面は口縁部に放射状暗文。	
第 355図 3	須恵器 杯蓋	道東 口縁部片	①11.6 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は中程まで 回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 355図 4 P L .165	須恵器 椀	道東 1/4	①10.2 ②5.4④6.3 ③ 5.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り であるが周辺部の高台は貼付時のナデ。	
第 355図 5 P L .165	須恵器 杯	道東 1/4	①13.0 ② 6.4 ③ 4.1	①細砂粒 ②酸化焰ざみ ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 355図 6 P L .165	須恵器 杯蓋	道東 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は周辺部ま で回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 355図 7 P L .165	須恵器 椀	道東 口縁部片	①15.0 ②10.0 ③ 5.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。高台は貼付。	
第 355図 8 P L .165	須恵器 杯	道西 3/4	①12.0 ② 7.6 ③ 4.2	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は不定方向のヘ ラ削り、口縁部下位は1段の回転ヘラ削り。	
第 355図 9 P L .165	須恵器 杯	道東 底部片	① ② 7.4 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ切 り。	
第 355図 10 P L .165	須恵器 杯	道東 底部～口縁 部下位片	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第 355図 11 P L .165	須恵器 椀	道東 底部	① ②6.2④6.8 ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、 高台は貼付。	
第 355図 12 P L .165	須恵器 椀	道東 底部	① ②7.0④7.0 ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、 高台は貼付。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 355図 13 P L .165	灰釉陶器 椀	道西 口縁部下位 片	① ②9.0④8.2 ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ナデ、高台は貼付。施釉方法・釉調は不明。		
第 355図 14 P L .165	土師器 台付甕	道東 台部片	① ② ④10.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③赤褐色	台部上半は横方向のヘラ削り。下半は横ナデ。内面上半はヘラナデ。		
第 355図 15 P L .165	須恵器 長頸甕	道東 脚部片	① ② ④16.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。脚部は貼付。		
第 355図 16 P L .165	須恵器 碇	道西 小片	① ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。周辺部に凸帯が1条巡る。		
第 355図 17 P L .165	須恵器 羽釜	道西 胴部下半片	① ② 8.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下半は斜め方向のヘラ削り。		
挿図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 356図18 P L .165	石製品 砥石	道西	①9.1 ③1.9	②4.6 ④	砥沢石	片端欠損。表裏、左右側面を研ぎ面としている。小口は自然面を残す。表裏、右側面に刃物による条線がみられる。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 356図19 P L .165	鉄器 角釘	道東	①2.6 ③0.3	②0.5 ④0.87	両端欠損。全体にややカーブを描く。断面は横長の矩形を呈す。		
第 356図20 P L .165	鉄器 角釘	道東	①4.8 ③0.35	②0.4 ④3.08	下端欠損。錆による剥離が著しい。全体に緩いカーブを描く。頭部はあまり突出しない。		
第 356図21 P L .165	鉄器 角釘	道東	①残3.5 ③0.4	②0.5 ④1.63	下端欠損。下位が逆「く」字形に曲がる。頭部は左右に若干突出する。		
第 356図22 P L .165	鉄器 袋状品	道東	①残3.8 ③0.8	②2.6 ④4.38	下端欠損。一枚の板を上端が開くように三折りにしている。潰れており、本来はより丸みを帯びていたと思われる。		
第 356図23 P L .165	鉄器 鑿?		①3.8 ③1.1	②1.0 ④19.68	刃部を僅かに欠損するが他は旧状を保つ。上部に打痕によるめくれはみられない。		

2 区遺構外

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 357図 1 P L .166	土師器 杯	道東 1/6	①13.0 ② ③ 3.4	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 357図 2 P L .166	土師器 杯	道西水路南 1/8	①17.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 357図 3 P L .166	土師器 杯	28住周辺 口縁部片	①14.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部はヘラ削り。	8 C .代
第 357図 4 P L .166	土師器 杯	道西水路南 1/4	①13.0 ② 7.0 ③ 4.0	①細砂粒 ②やや軟質 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部下半に放射状暗文。	
第 357図 5 P L .166	土師器 杯	道西水路北 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面口縁部に放射状暗文。	
第 357図 6 P L .166	土師器 杯	道西水路南 1/6	①13.0 ② 8.0 ③ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部はヘラ削り。内面は口縁部に放射状暗文。	
第 357図 7 P L .166	須恵器 杯蓋	道西水路南 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。内面に身受けのカエリを持つ。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 357図 8 P L .166	須恵器 杯蓋	道西 1/8	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
第 357図 9 P L .166	須恵器 杯	道西水路南 1/6	① 9.0 ② 5.2 ③ 3.7	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は不定方向のヘラ削り、口縁部下位に1段の回転ヘラ削り。	
第 357図 10 P L .166	須恵器 杯	道東 1/5	①12.0 ② 6.2 ③ 3.6	①細砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切りか。	
第 357図 11	須恵器 杯	道東 底部片	① ② 8.4 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 357図 12	須恵器 杯	道西水路北 底部片	① ② 7.4 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	
第 357図 13 P L .166	須恵器 椀	1/8	①16.0 ②11.4 ③ 3.7	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。	
第 357図 14 P L .166	須恵器 杯	道東 底部片	① ② 9.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③浅黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 357図 15	須恵器 杯	道東 底部片	① ②11.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切りであるが糸切りを2度行っている。	
第 357図 16 P L .166	須恵器 杯	道西水路北 1/6	① ② 8.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第 357図 17	須恵器 椀	道東 底部片	① ②10.0 ④10.4	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。	
第 358図 18 P L .166	灰釉陶器 椀	道東 底部片	① ②8.2④8.0 ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ナデ、高台は貼付。内面底部に重ね焼き痕が残る。施釉方法は不明、釉調は透明感のある緑色。	虎溪山1号 窯式期
第 358図 19 P L .166	須恵器 椀	道東 体部下位～ 底部片	① ②6.0④6.2 ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 358図 20 P L .166	須恵器 杯	底部	① ② 6.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 358図 21 P L .166	須恵器 椀	底部～体部 下位片	① ②6.4④6.4 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 358図 22 P L .166	須恵器 甕	道西 口縁部～頸 部片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 358図 23 P L .166	土師器 甕	道東 底部～胴部 下位	① ② 4.3 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り、内面胴部はヘラナデ。	
第 358図 24 P L .167	須恵器 瓶	道西 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部には凹線が数条巡る。	
第 358図 25 P L .167	須恵器 甕	FG-58 胴部下位片	① ②17.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下位は横方向のヘラ削り。	内面明赤褐色
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 358図26 P L .167	鉄器 角釘	水路南	①残3.6 ③残0.4	②0.5 ④3.25	下端欠損。頭はよく残るが他は錆による剝離が著しい。裏面のみかろうじて残る。	

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 358図27 P L .167	鉄器 棒状品		①残7.0 ③0.3	②1.0 ④10.20	両端欠損。全体に緩やかなカーブを描く。	
第 358図28 P L .167	鉄器 棒状品	道西水路南	①2.3 ③0.5	②0.9 ④2.02	両端欠損。下端にいくほど幅を減じる。本来断面が矩形を呈すと思われる。	

3 区遺構外

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 359図1	鉄器 角釘	GB-51	①残2.5 ③0.4	②0.4 ④1.20	上端欠損。残存部分は状態が良く、稜が明確。	
第 359図2 P L .167	鉄器 角釘		①3.1 ③0.35	②1.0 ④1.22	下端欠損。頭は板を巻いた感があり、左右に突出する。全体に華奢である。	
第 359図3 P L .167	鉄器 角釘	FU-53	①残7.1 ③0.6	②0.6 頭残1.5 ④7.01	下端欠損。上端を平坦な板状にし、それを巻いて頭としている。残存部の状態は良好。	
第 359図4 P L .167	鉄器 角釘?	GA-48	①残3.9 ③0.4	②0.4 ④2.34	両端欠損。上位は緩やかに弯曲する。残存部の状態は良い。	
第 359図5 P L .167	鉄器 棒状品		①11.8 ③0.8	②0.7 ④16.68	ほぼ完形。全体に緩く弯曲する。下位にいくほど幅と厚みを減ずる。	
第 359図6 P L .167	鉄器 鎌		①5.9 ③0.45	②6.3 ④42.43	折り返しの一部が欠損し、左側に位置する。棟は現状では不規則に凹凸する。幅に対して長さがないのは使用のためか。	化学分析で 銹鉄と判明し 「板状鉄」 に変更

南中道遺跡遺構外

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 360図1 P L .167	鉄器 鉄鏃?		①残5.3 ③身1.0 頸部0.25	②身1.0 頸部0.5 ④3.23	両端欠損。下位は断面矩形を成すが片側がより厚い。上位は扁平で幅を増す。	
第 360図2 P L .167	鉄器 刀子		①残18.3 ③刃0.5 茎0.55	②刃0.5 茎1.1 ④41.78	棟に緩やかな反りを持つ。棟間は明確な角をなさない。刃間は欠損するが棟間同様角をなさない可能性がある。	
第 360図3 P L .167	鉄器 鎌		①11.6 ③0.5	②2.7 ④27.85	ほぼ完形で先端が僅かに欠損する。刃部は中位が内弯して緩やかなカーブを呈す。	



(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書第202集

白井遺跡群 一集落編Ⅱ一 一般国道17号(鯉沢バイパス)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3集
(白井南中道遺跡)〈観察表編〉

平成8年3月20日 印刷
平成8年3月25日 発行

発行／編集 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511 (代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社